

<自主研究>

第2回 三宅島帰島住民アンケート調査 調査報告書

平成 18 年 5 月

 株式会社 **サーベイリサーチセンター**
SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.

<自主研究>

第2回
三宅島帰島住民アンケート調査
調査報告書

平成 18 年 5 月

目 次

I 調査概要

1 調査実施の概要	1
2 調査回答者の属性	3

II 調査結果のまとめ

調査結果のまとめ（東洋大学社会学部教授 田中 淳）	7
---------------------------	---

III 調査結果

1 帰島の状況について	11
(1) 帰島時期	11
(2) 家族構成	13
(3) まだ帰島していない家族	15
(3-1) 未帰島者	17
(3-2) まだ帰島していない理由	19
(3-3) まだ帰島していない家族の今後の帰島予定	21
(4) 再離島者の有無	23
(5) 帰島前と現在の不安	25
(6) 警報発令時の無事な避難の可能性	29
(6-1) 避難できない理由	31
2 世帯の生計について	33
(1) 噴火前-避難生活中-帰島後の主たる収入源の職業	33
(2) 噴火前と比べた世帯の経済状況	35
(3) 今後の生計の見通し	42
3 復興について	45
(1) 復興の状況	45
(2) 復興支援として必要なもの	50
(3) 復興状況の満足度	53
(4) 三宅村の将来像	56

(5) 復興への期待	58
(6) 地域のまとまりの変化	61
(7) 自然災害発生時の生活再建	64
(8) 村民の意思を反映する新しい住民組織の必要性	67
(9) 三宅島への愛着	69
(10) 帰島してみたの思い	71
(11) 復興についての意見や要望	73

付1 調査票（単純集計結果）

付2 サーベイリサーチセンターの業務案内

I 調 査 概 要

I 調査概要

1. 調査実施の概要

(1) 調査の目的

帰島後1年が経過した今、三宅島の村民の意識や問題点を把握することで、今後の三宅村復興の基礎資料として提供するとともに、世論に対して現状を伝達することを目的とする。

(2) 調査の内容

- ① 帰島の状況について
- ② 世帯の生計について
- ③ 復興について

(3) 調査の設計

- ① 調査地域
島内全域
※ 立入禁止区域と危険区域、高濃度地区は除外した。
- ② 調査対象
平成18年4月25日時点で、帰島している世帯の全て
※ 復旧関連事業に従事する本土からの来島者は除外した。
※ 三宅支庁などの本土からの出向者は除外した。
- ③ 対象者
20歳以上の世帯主またはこれに準ずる者
- ④ 調査方法
訪問面接法（一部、留置法を併用）
- ⑤ 調査期間
平成18年4月22日（土）～25日（火）
- ⑥ 調査実施機関
株式会社 サーベイリサーチセンター

(4) 回収結果

有効回収数 489件

三宅村の帰島世帯確認調査によると、帰島世帯は平成17年9月2日現在で1,247世帯（うち外国人15世帯）。これによる回収率は39.2%となる。

本社調べ（4月25日時点）では、帰島世帯は推定（帰島し居住しているか判断できなかった住居を含む）で1,079世帯、回収率は45.3%である。三宅村帰島世帯確認調査の世帯数よりも少なくなるのは、調査対象者として本土からの出向者を対象としなかったためである。

(5) 調査協力

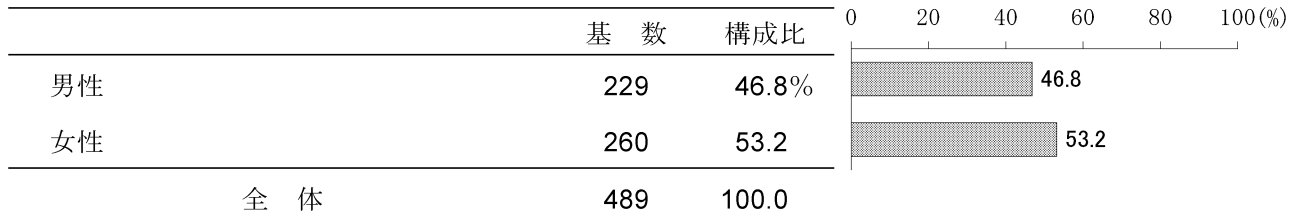
本調査は、東洋大学社会学部田中淳教授との共同研究として実施した。

(6) 報告書を読む際の注意事項

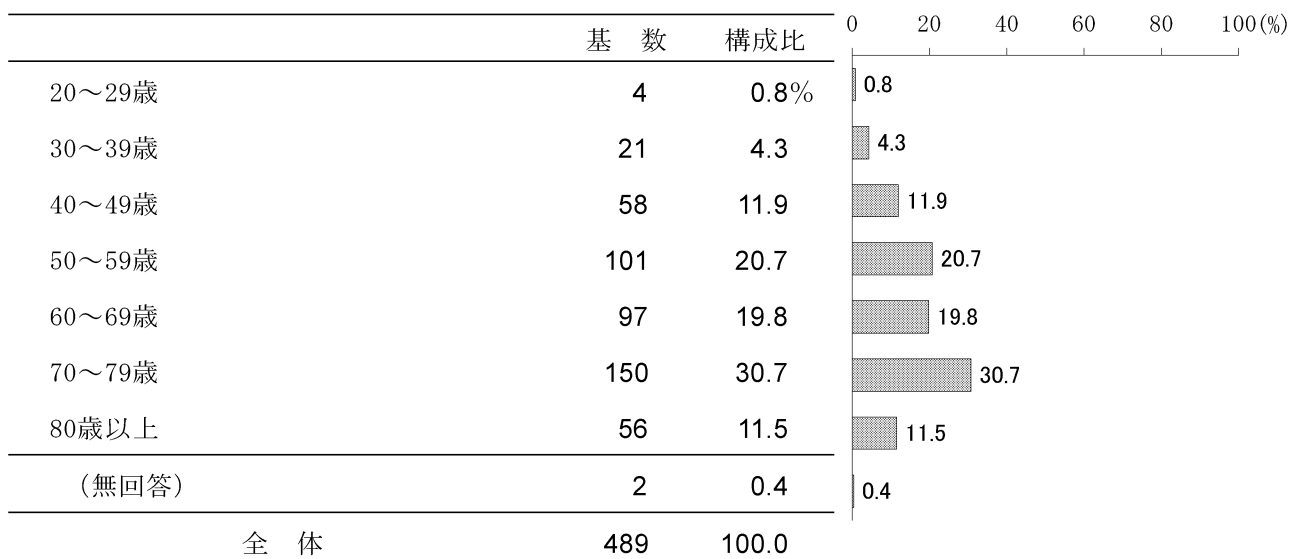
- ① 図表中の **n** は回答者の基数であり、その質問に回答すべき人数を表す。
- ② 回答比率（％）は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位までを表示している。このため、回答比率の合計が100％にならないことがある。
- ③ 2つ以上の複数回答ができる設問では、回答比率の合計は原則として100％を超える。
- ④ 世帯主年齢別や家族構成別の分析では、基数が少なく回答比率の数字が動きやすく、厳密な比較をすることが難しい。そのため、得られた回答の割合の傾向をみる程度にとどめる。

2. 調査回答者の属性

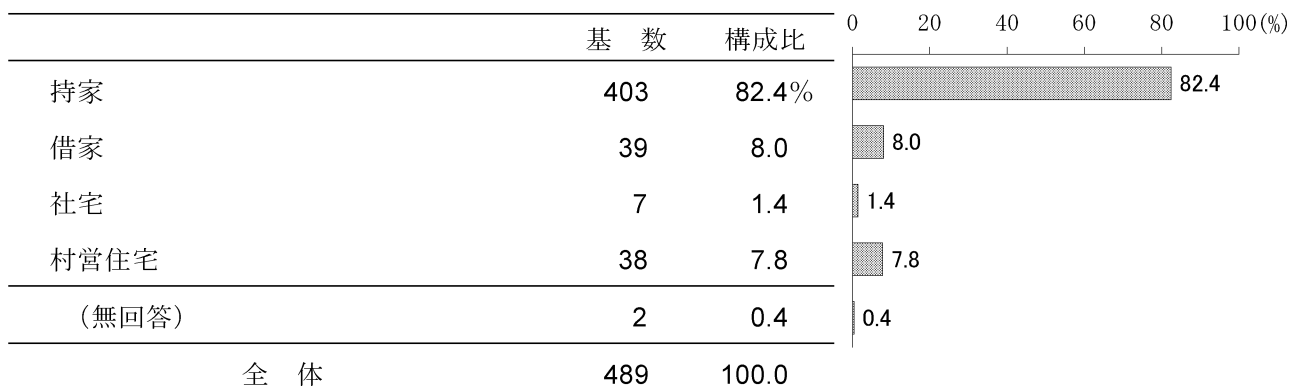
F1 性別



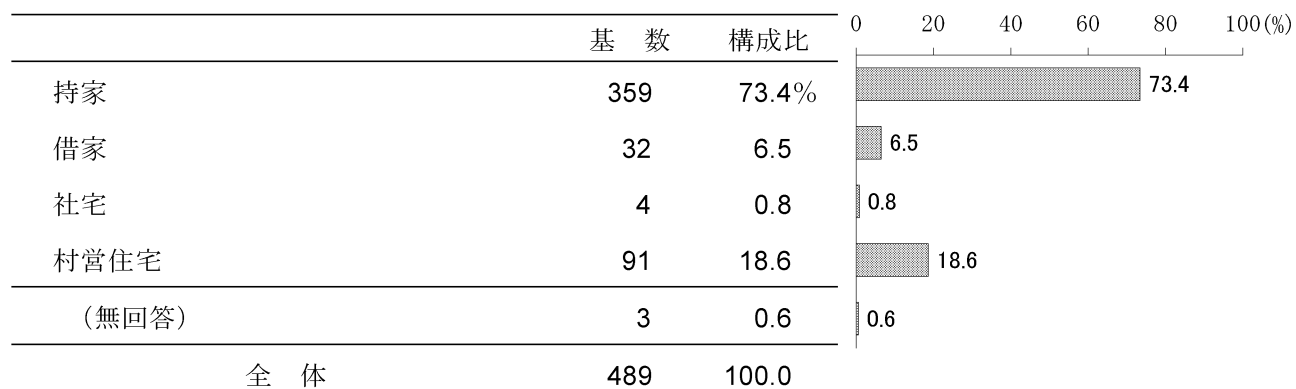
F2 年齢



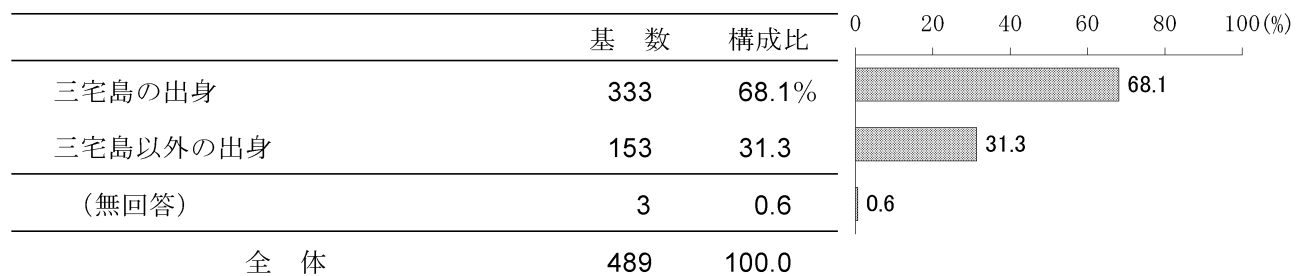
F3 噴火前の住居形態



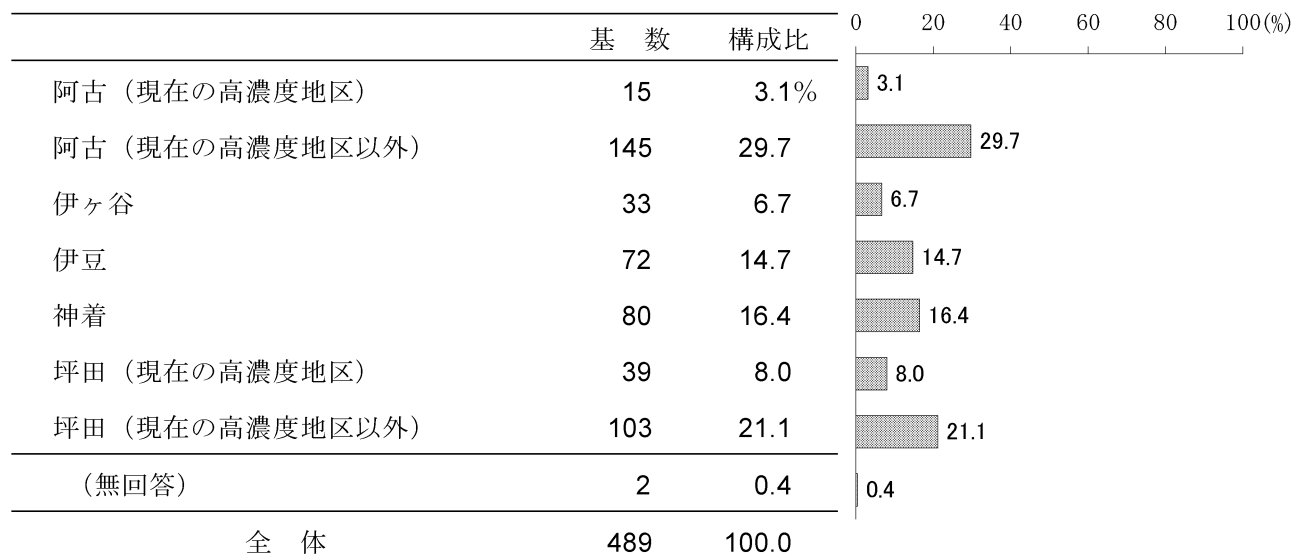
F 4 現在の住居形態



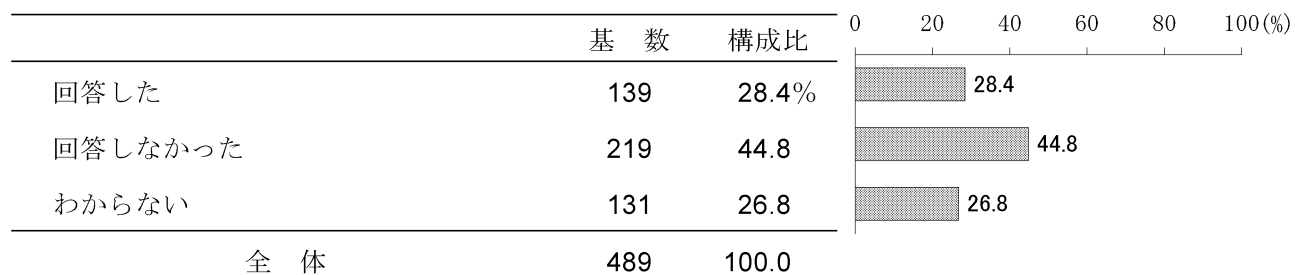
F 5 出身



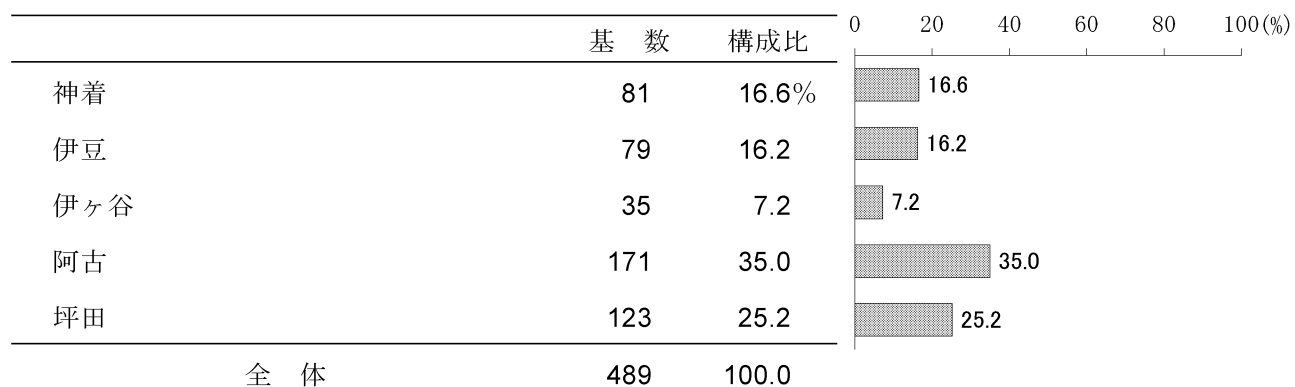
F 6 噴火前の住まい



F7 前回調査（平成17年4月）での回答状況



調査回答者の住まい



帰島前後の居住地区の変遷（噴火前の居住地区別）

		帰島後（現在）					
		全体 (件数)	神着	伊豆	伊ヶ谷	阿古	坪田
帰島前 (噴火前)	全体（件数）	489	81	79	35	171	123
	神着	80	86.3	10.0	-	2.5	1.3
	伊豆	72	9.7	87.5	1.4	1.4	-
	伊ヶ谷	33	-	-	97.0	3.0	-
	阿古	160	-	0.7	-	95.3	4.1
	（高濃度地区）	15	-	-	-	93.3	6.7
	（高濃度地区以外）	145	-	1.4	-	97.2	1.4
	坪田	142	6.4	6.4	1.0	12.5	73.7
	（高濃度地区）	39	12.8	12.8	-	23.1	51.3
	（高濃度地区以外）	103	-	-	1.9	1.9	96.1

Ⅱ 調査結果のまとめ

Ⅱ 調査結果のまとめ

東洋大学社会学部教授 田中 淳

今回の調査では、島での生活は徐々に落ち着きを取り戻しているように見える。帰島する間や帰島直後の昨年調査と比べて、不安は若干減ってきている。ことに「損傷した自分の家や店舗・民宿の再建」に不安を感じている人は、帰島前の 42.5%から、昨年の 19.8%へと減り、さらに今年の調査では 16.4%まで減ってきている。また、帰島当時と比べて、「道路などの整備」が良くなったと 54.2%が、「泥流・火山ガス、火山噴火などの防災対策」が良くなったと 33.1%が回答している。また、22.1%が「隣近所との人間関係」が、19.8%が「店舗・事業所の営業状況」が良くなったとしている。

しかし、生活実態についてみると残された問題は多いことが浮き彫りになる。確かに、家族でまだ帰島していない人がいると回答した世帯は、前回調査では 28.6%に達していたものが、今回の調査では 18.8%にまで減っている。家族が徐々に揃いつつあることが分かる。しかし、図 1 に示したように、帰っていない人は「息子・娘」であり、またその配偶者である。若い層が戻っていないことになる。その理由も学校の問題を挙げる世帯が多い。それらのまだ帰島していない人が今後も「帰島しない」と見る世帯は、35.9%と、前回調査の 28.8%よりも増加している。元の島に戻りきらないと予想していることになる。

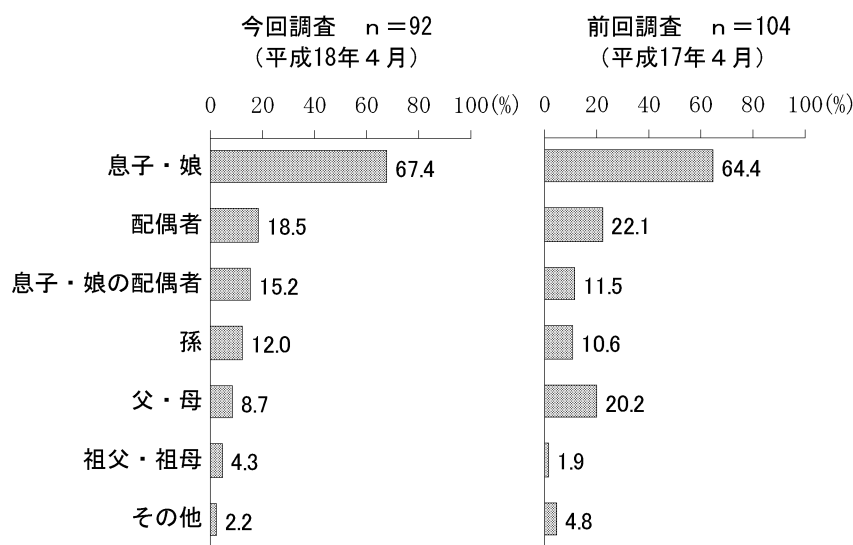


図 1 未帰島者

この点は、主たる収入源である職業の変化にも伺える。図 2 に示したように、農林業、漁業・水産加工業ならびに観光産業を主たる収入源とする世帯は、噴火前の合わせて 24.1%と比べて、帰島後には 10.6%まで減少している。しかも、農林業、漁業・水産加工業、観光産業を継続している世帯でも収入は減少している。

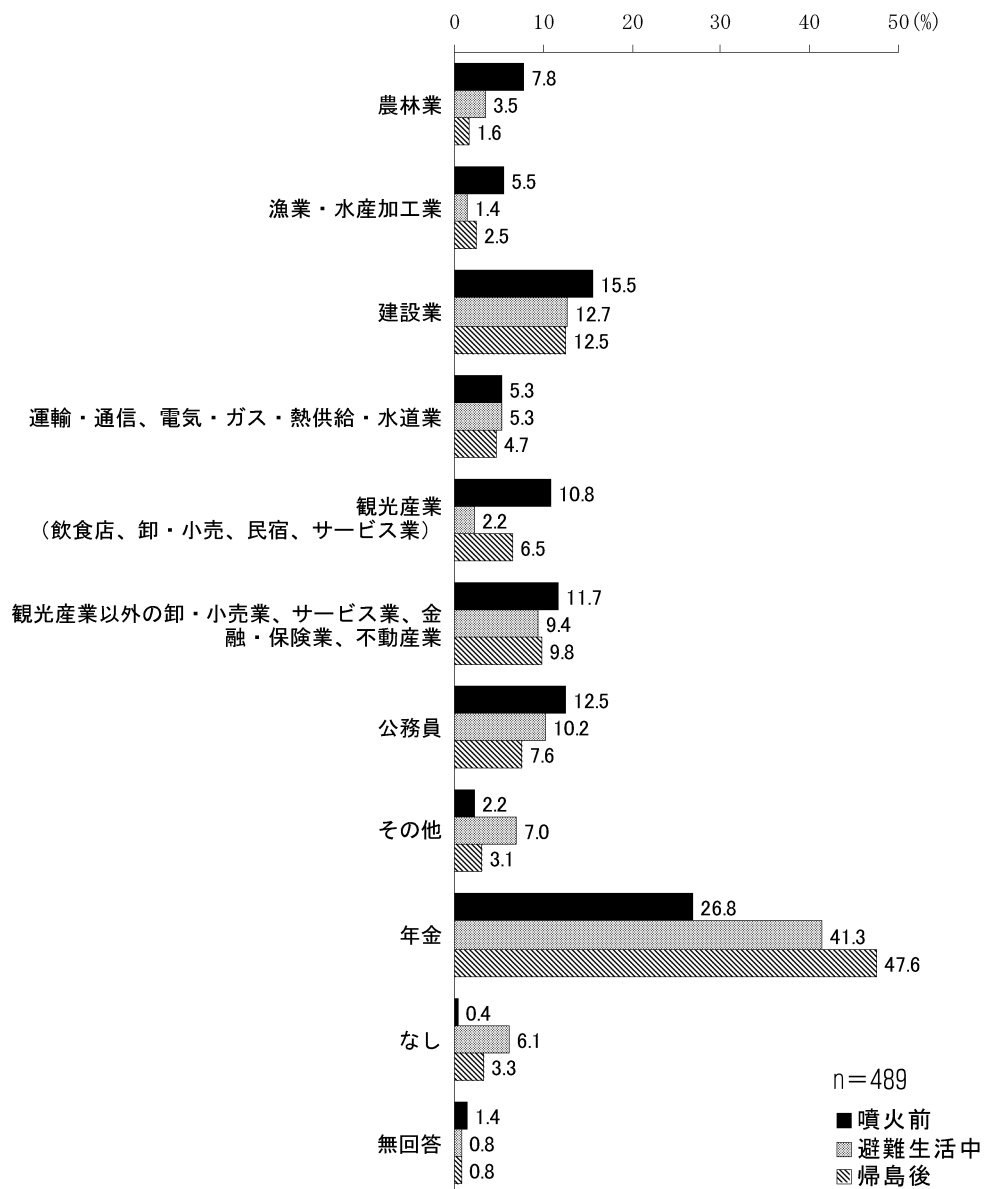


図 2 職業の変化

逆に、噴火前には 26.8%だった年金暮らしが、帰島後には 20.8%増の 47.6%まで増加している。この傾向は、2004 年新潟県中越地震の被害を受けた旧山古志村でも共通している。年金暮らしの増加をもたらしているのは、被災生活が長期化し高齢化が進んだことであろうが、災害前には生涯現役であった高齢層が仕事をあきらめざるを得なかったという側面も見られる。生き甲斐を奪う上に、現実的にも高齢世帯の経済状況を悪化させている。実際に、現在の収入が噴火前と比べて 50%以下の世帯は、30 代では 28.6%であるのに対して、40 代では 34.5%、50 代では 40.7%、60 代では 46.4%、70 代では 42.7%と、高齢層での低下が大きい。

全世帯平均すると噴火前の収入の 71%に低下し、49.7%が今後の生計の見通しは「苦しくなる」と回答している。また、復興支援として「住宅の補修や再建への補助」や「医療費の補助」、「健康保険や年金などの保険料免除」を挙げる人が多い。全般に生計の先行き不安があることを示す結果だが、なかでも世帯主の年齢が 60 代の世帯では、噴火による影響が確実に重くのしかかっている。

先行き不安は復興への評価にも表れている。「全般的には、現在の復興の状況に対して」満足している世帯は、非常に満足とやや満足とを合わせて 30.9%であるが、反対に非常に不満とやや不満を合わせた不満派も 32.3%に達している。前回調査の不満派 41.5%と比べれば減少しているが、図 3 に示したように満足派が増えたと言うよりも「どちらともいえない」が多くなっている。しかも、依然として 40 代から 60 代に不満派が多く見られる。

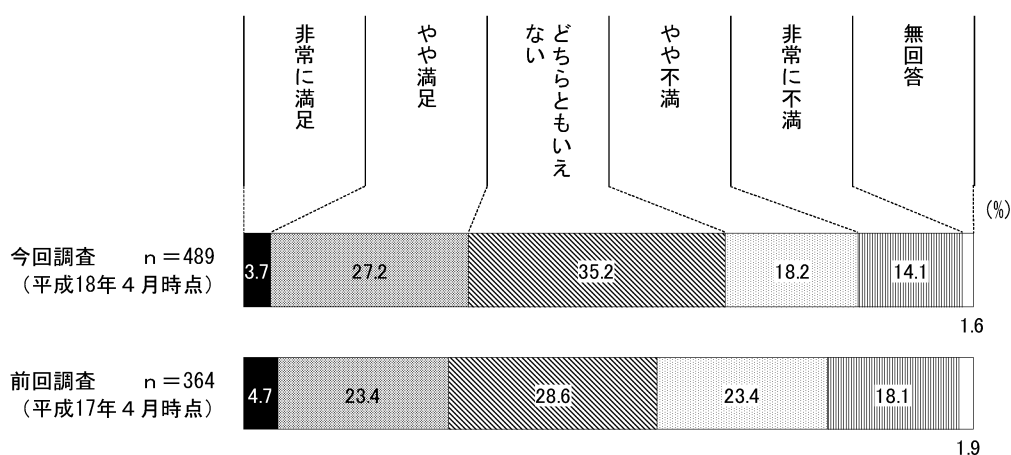


図 3 復興状況への満足度

さらに「どの程度まで元に戻るか」についても、42.5%が「余り期待できない」としており、「ほとんど期待できない」の 13.9%と合わせて過半数の 56.4%が悲観派となっている。また、地域のまとまりも 57.3%が「噴火前のように取り戻すのはむずかしいだろう」と考えている。前回は 39.6%であったのと比較すると、悲観派がかなり増えていることになる。そのひとつの現れが「復興を進めるにあたって、村民の意思を反映する新しい住民組織が必要だと思う」と 60.5%が回答していることだろう。三宅島の、そして多くの災害からの復興が、個々人や個々の世帯の努力だけでは達成できないことを示す結果である。生活再建という一見個々の営みに映る行為ではあるが、災害からの復興は自分たちの努力だけでは達成できない、行政による環境の整備や周囲の復興に依存し、自己決定権が制約される性格を持つ。

三宅島への愛着を 9 割が感じ、帰島して良かったと 74.6%が感じていることは安堵する結果である。しかし、その島民の喜びを社会として支え続ける必要があることを今回の調査は明らかにしている。災害からの復興は、長期の過程である。その長期の過程を被災者の視線から追いつける今回の調査は、ともすれば直後に関心が寄りがちな災害調査の、あるいは被災地への関心の一般傾向から見れば、とても大事な試みといえよう。三宅島島民が一日も早く生活のリズムを取り戻せることを切に祈念する。

Ⅲ 調 査 結 果

Ⅲ 調査概要

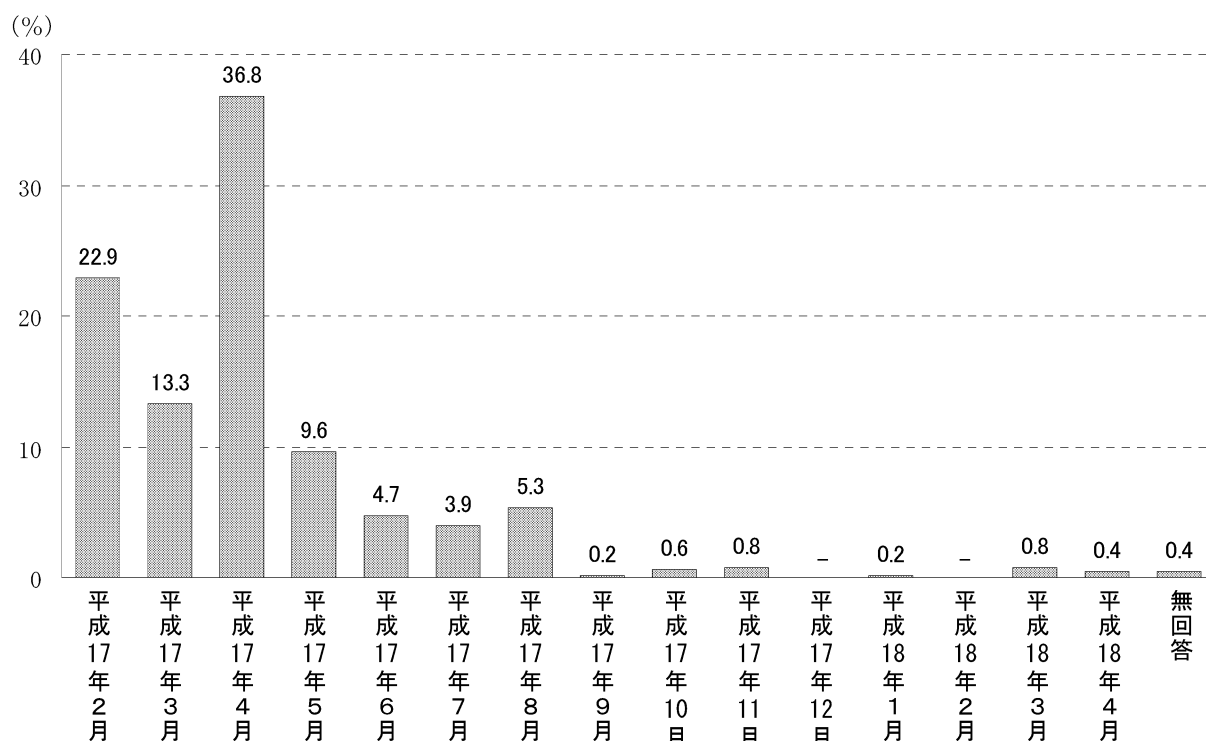
1. 帰島の状況について

(1) 帰島時期

◇ 昨年2月から4月までの3カ月間で7割が帰島

問1 去年2月の避難指示解除のあと、あなたが本格的に帰島され、三宅島で生活を始められたのはいつでしたか。

n = 489



回答者世帯が帰島を果たし、三宅島で生活を始めた時期について尋ねたところ、「平成17年4月」との回答が36.8%と最も高く3割台半ばとなり、次いで「平成17年2月」が22.9%、「平成17年3月」が13.3%となっている。

避難先として入居していた公営住宅は、原則として4月一杯までに退去することになっていたためか、平成17年4月までに7割強（73.0%）が帰島している。また、自宅の修理が終わっていない場合などは入居期限を3ヵ月間延長することができたので、平成17年7月までを含めると、帰島世帯は9割強（91.2%）となる。

【現在の居住地区別】

			平成 17 年 2 月 以前	平成 17 年 3 月	平成 17 年 4 月	平成 17 年 5 月	平成 17 年 6 月	平成 17 年 7 月	平成 17 年 8 月	平成 17 年 9 月	平成 17 年 10 月	平成 17 年 11 月
(n)												
居住地区別	神着	(81)	32.1	8.6	34.6	6.2	4.9	3.7	4.9	-	1.2	2.5
	伊豆	(79)	15.2	15.2	49.4	10.1	2.5	2.5	2.5	-	-	-
	伊ヶ谷	(35)	22.9	17.1	25.7	8.6	8.6	2.9	11.4	2.9	-	-
	阿古	(171)	19.3	14.6	34.5	11.1	5.8	4.7	7.6	-	0.6	-
	坪田	(123)	26.8	12.2	36.6	9.8	3.3	4.1	2.4	-	0.8	1.6

			平成 17 年 12 月	平成 18 年 1 月	平成 18 年 2 月	平成 18 年 3 月	平成 18 年 4 月	無 回 答
(n)								
居住地区別	神着	(81)	-	-	-	1.2	-	-
	伊豆	(79)	-	-	-	1.3	-	1.3
	伊ヶ谷	(35)	-	-	-	-	-	-
	阿古	(171)	-	-	-	0.6	0.6	0.6
	坪田	(123)	-	0.8	-	0.8	0.8	-

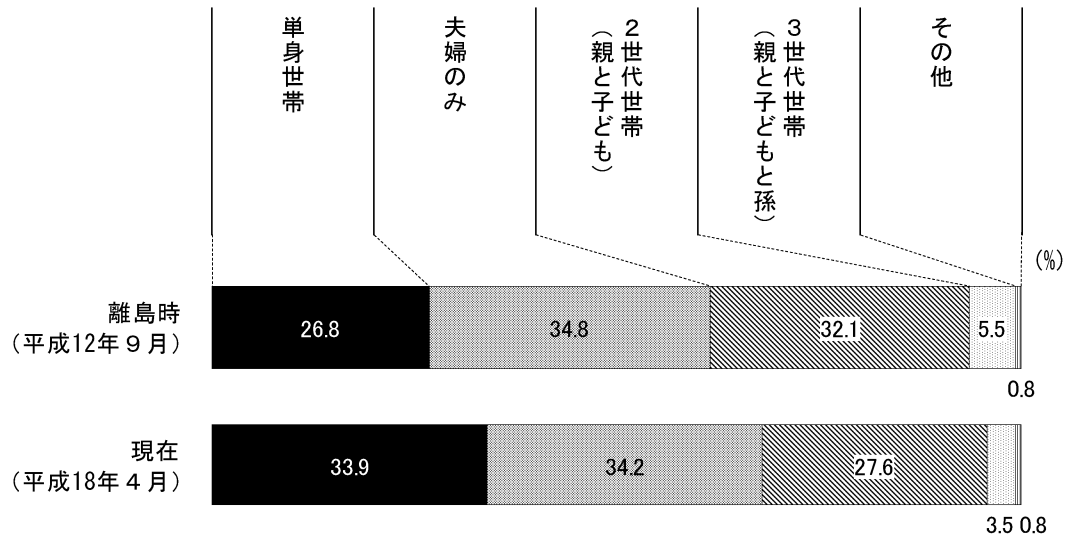
回答者世帯の現在の居住地区別にみると、当初の原則通り「平成17年4月以前」に帰島しているのは、[伊豆地区] で79.8%とほぼ8割で、[坪田地区] (75.6%) や [神着地区] (75.3%) でも7割台半ばである。一方、[伊ヶ谷地区] では「平成17年5月以降」が34.4%と3割台半ばと、比較的低くなっている。

(2) 家族構成

◇ 「単身世帯」は離島時27%→現在34%に

問2・3 現在（離島時）、帰島されているあなたのご家族の構成は次のどれにあてはまりますか。
あてはまるものを1つお選びください。

n = 489



回答者世帯の家族構成（帰島している家族の構成）についてみると、“離島時（平成12年9月）”では、「夫婦のみ」との回答が34.8%と最も高く3割台半ばとなり、「2世代世帯」が32.1%、「単身世帯」が26.8%となっている。

次に、“現在”では、離島時と同様「夫婦のみ」との回答は34.2%と最も高いが、次いで高くなったのは「単身世帯」との回答であり、33.9%と3割台半ばとなっている。

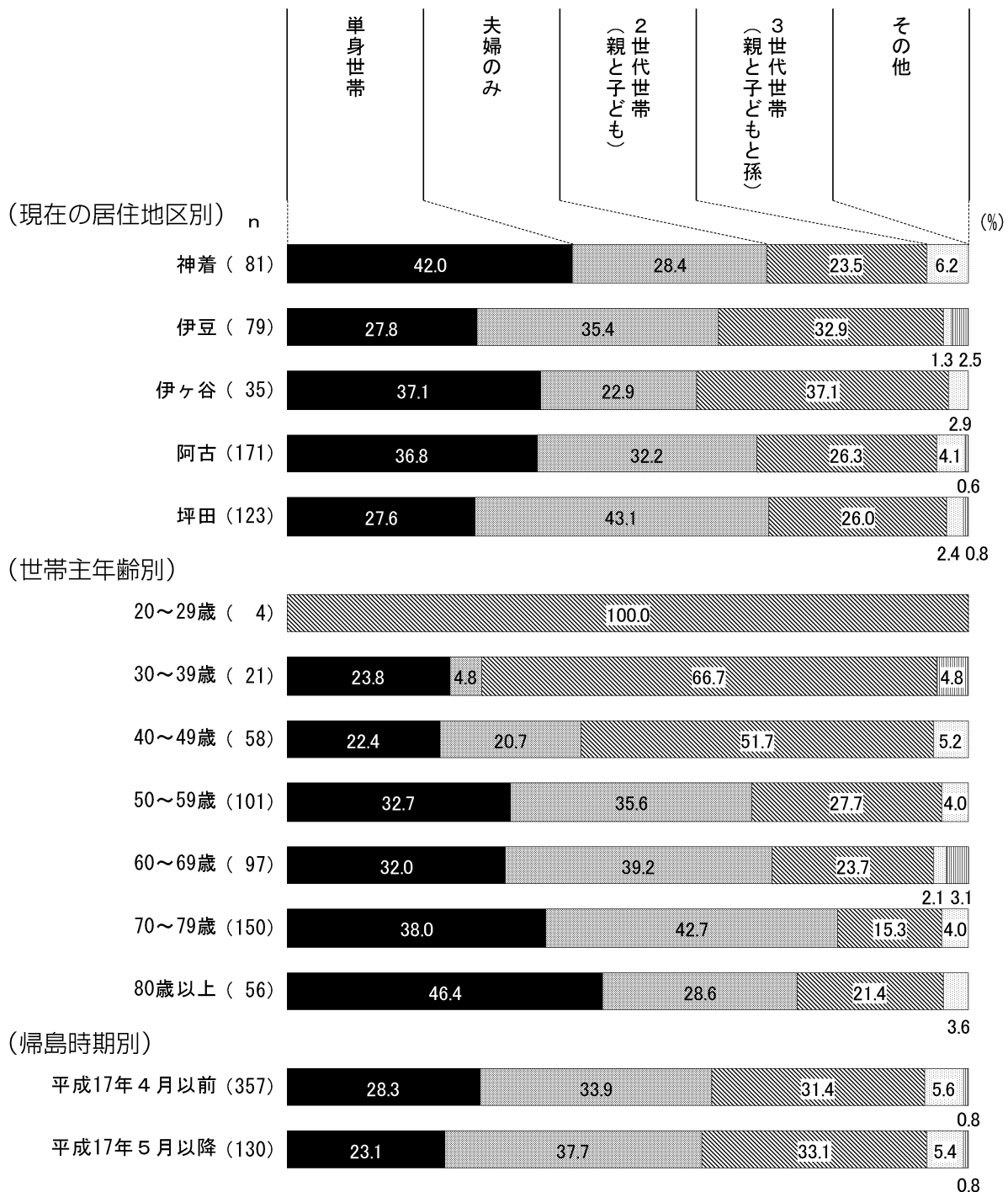
“離島時”と“現在”の比較では、「単身世帯」は“離島時”が26.8%に対して、“現在”は33.9%と7ポイント増になっている。

回答者世帯の“現在”の家族構成について居住地区別にみると、「単身世帯」との回答が〔神着地区〕で42.0%と高く4割強を占め、〔伊ヶ谷地区〕（37.1%）と〔阿古地区〕（36.8%）で3割台半ばを超えている。

世帯主の年齢をみると、「単身世帯」との回答が「80歳以上」で46.4%と4割台半ばとなっており、「夫婦のみ」（28.6%）を合わせると75.0%となる。「70～79歳」では「単身世帯」（38.0%）と「夫婦のみ」（42.7%）を合わせて8割を超える。

帰島した時期別では、「単身世帯」との回答が「平成17年5月以降」（23.1%）よりも「平成17年4月以前」（28.3%）の方が5ポイント高いが、ほとんど差はみられない。

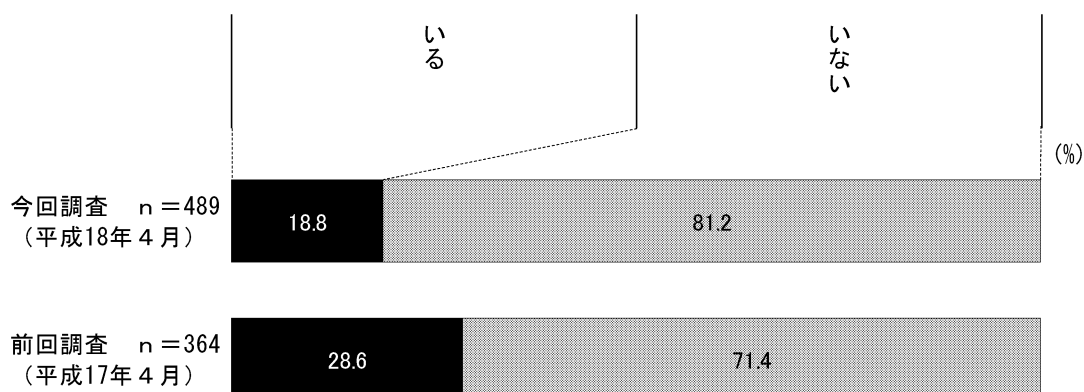
現在【現在の居住地区別／世帯主年齢別／帰島時期別】



(3) まだ帰島していない家族

◇ 「いる」が2割弱、1年前の帰島直後の際は3割弱

問4 あなたのご家族で、まだ帰島されていない方はいらっしゃいますか。あてはまるものを1つお選びください。



回答者世帯で、まだ三宅島に帰島していない家族の有無を尋ねたところ、「いる」との回答は18.8%と2割弱であった。

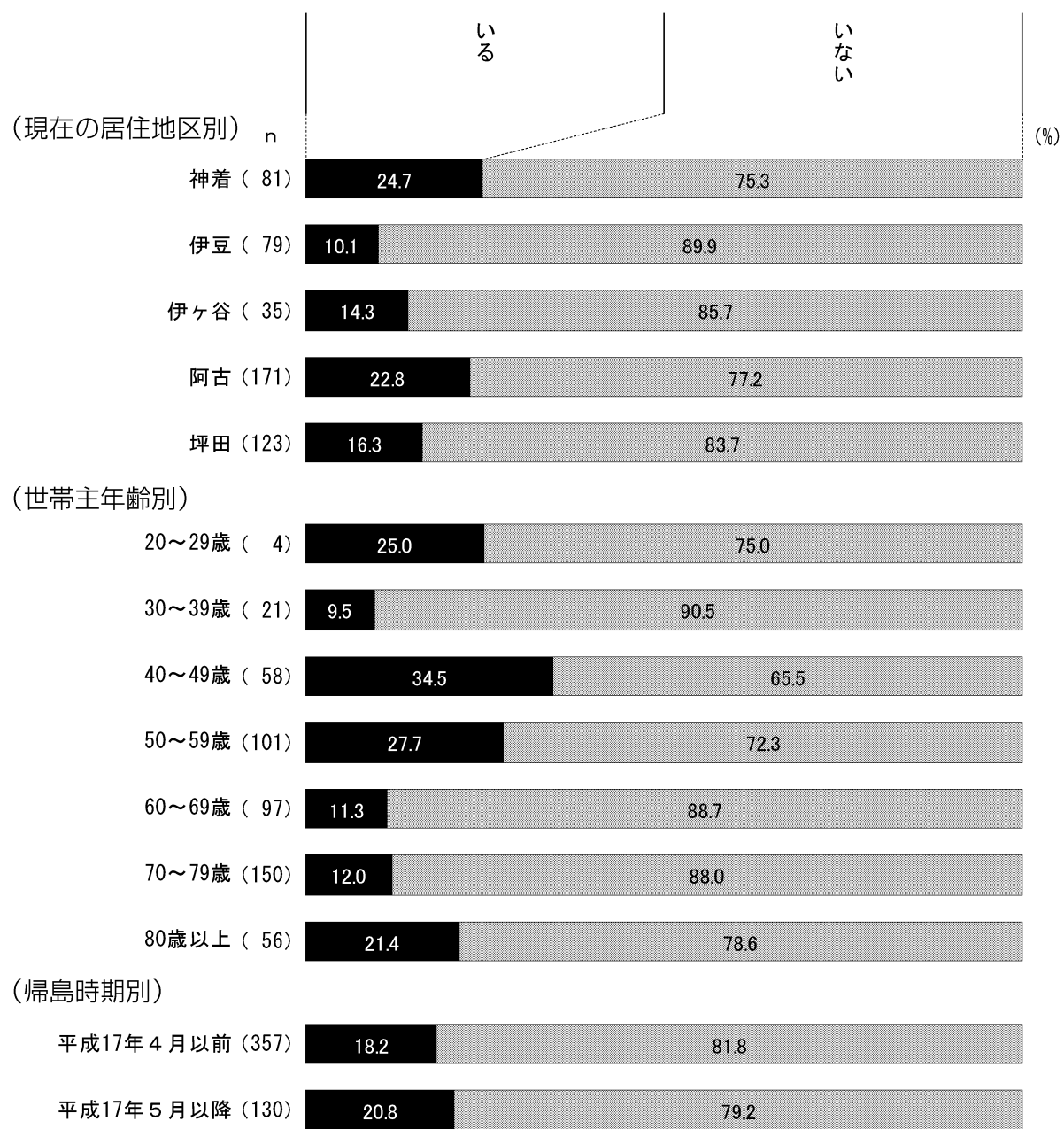
前回調査（平成17年4月）では、「いる」との回答は28.6%であり、今回10ポイントの減少となっている。

回答者世帯の現在の居住地区別にみると、まだ帰島していない家族が「いる」との回答は、[神着地区]で24.7%、[阿古地区]で22.8%と比較的高くなっている。

世帯主の年齢別にみると、「いる」との回答は[40～49歳]で34.5%と3割台半ば、[50～59歳]で27.7%と高くなっている。

帰島した時期別では、「いる」との回答は[平成17年4月以前]（18.2%）よりも[平成17年5月以降]（20.8%）がわずかに3ポイントながら高くなっている。

【現在の居住地区別／世帯主年齢別／帰島時期別】

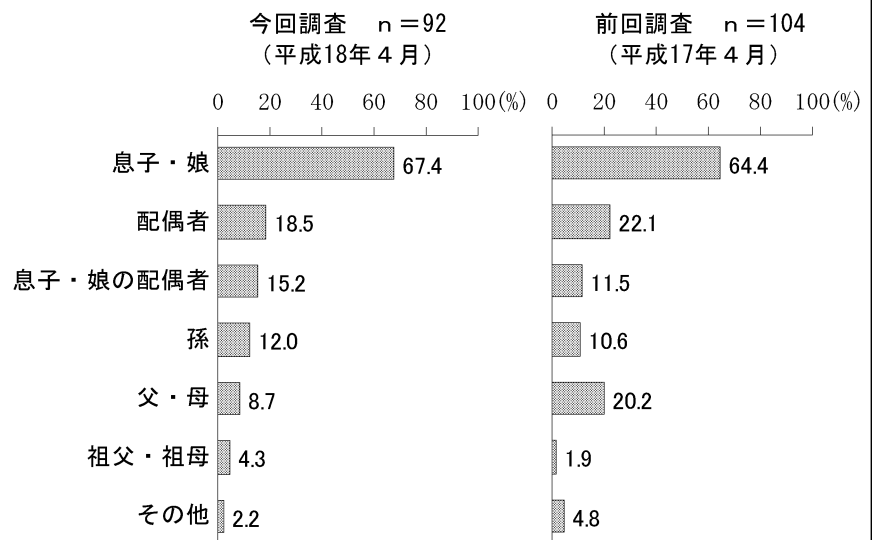


(3-1) 未帰島者

◇ 「息子・娘」が7割弱、「配偶者」が2割弱

問4－1 （問4で「1 いる」とお答えの方にお聞きます）

現在、帰島していないのはどなたですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



現在帰島していない家族がいるとした世帯に対して、その内訳を尋ねたところ、「息子・娘」との回答が67.4%と最も高く7割弱を占めている。次いで「配偶者」が18.5%、「息子・娘の配偶者」が15.2%、「孫」が12.0%となっている。

前回調査結果と比較すると、「父・母」との回答が前回20.2%であったが、今回8.7%となっており、12ポイントの減少となった。

【世帯主年齢別／帰島時期別】 ※基数（n）が小さいため参考にとどめる

			配偶者	息子・娘	父・母	息子・娘の配偶者	祖父・祖母	孫	その他
(n)									
世帯主年齢別	20～29歳	(1)	-	-	-	-	-	-	100.0
	30～39歳	(2)	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0
	40～49歳	(20)	15.0	75.0	10.0	5.0	10.0	5.0	-
	50～59歳	(28)	25.0	75.0	7.1	14.3	-	3.6	-
	60～69歳	(11)	27.3	54.5	9.1	18.2	18.2	9.1	-
	70～79歳	(18)	5.6	72.2	5.6	22.2	-	33.3	-
	80歳以上	(12)	16.7	58.3	8.3	25.0	-	16.7	-
時期別	平成17年4月以前	(65)	24.6	63.1	9.2	13.8	4.6	10.8	1.5
	平成17年5月以降	(27)	3.7	77.8	7.4	18.5	3.7	14.8	3.7

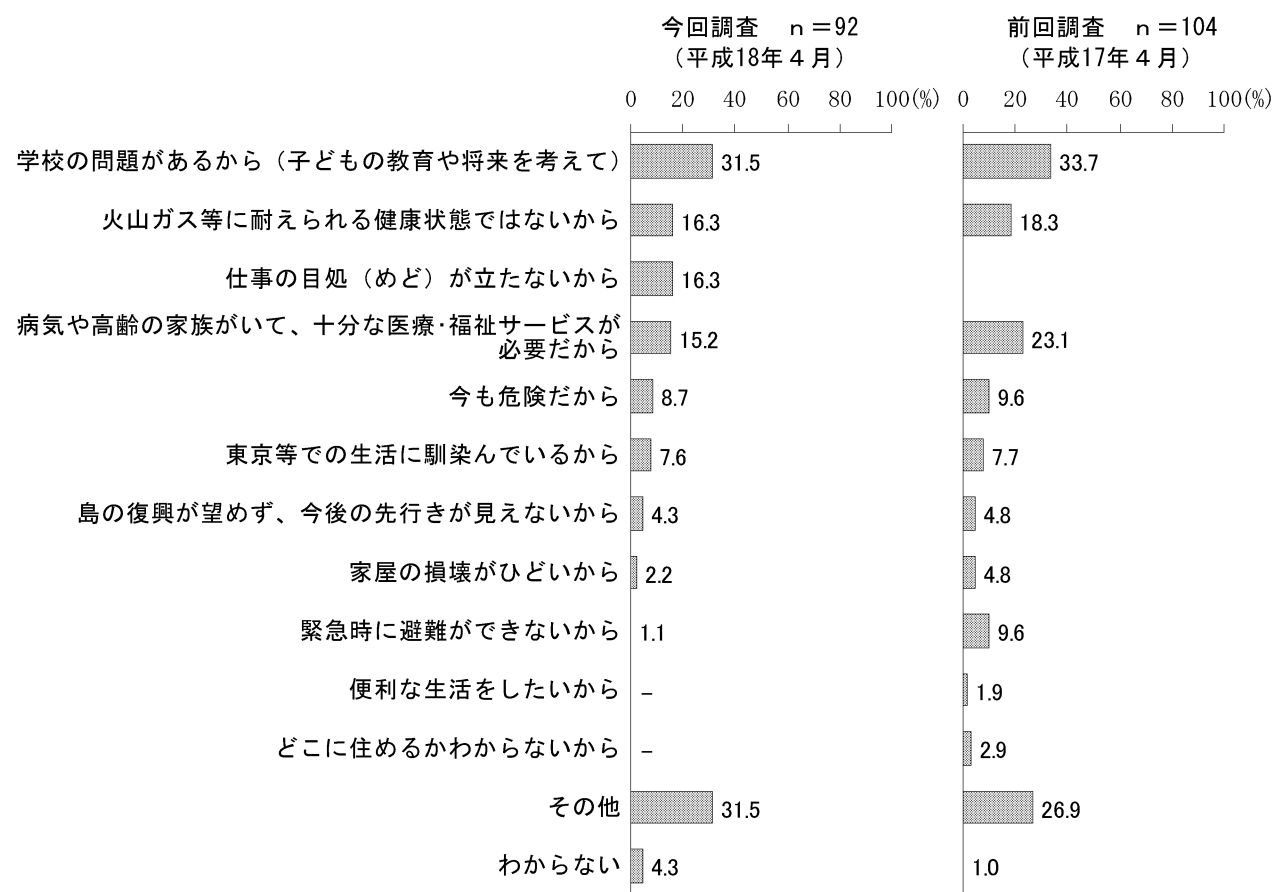
（全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け）

(3-2) まだ帰島していない理由

◇ 「学校の問題があるから」が3割強で依然として高い

問4-2 (問4で「1 いる」とお答えの方にお聞きします)

現在帰島していないご家族の方が、帰島されない理由は何ですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



現在帰島していない家族がいるとした世帯に対して、その家族が帰島していない理由を尋ねたところ、「学校の問題があるから（子どもの教育や将来を考えて）」との回答が31.5%と最も高く3割強を占めている。次いで「火山ガス等に耐えられる健康状態ではないから」と「仕事の目処が立たないから」との回答がともに16.3%、「病気や高齢の家族がいて、十分な医療・福祉サービスが必要だから」が15.2%となっている。なお、「その他」も31.5%と高く、具体的な内容としては「(避難先で)就職したから」が最も多くなっている。

【世帯主年齢別／帰島時期別】 ※基数（n）が小さいため参考にとどめる

			今も危険だから	火山ガス等に耐えられない健康状態ではないから	緊急時に避難ができないから	家屋の損壊がひどいから	仕事の目処（めど）が立たないから	学校の問題があるから（子どもの教育や将来を考えて）	東京等での生活に馴染んでいるから	島の復興が望めず、今後の先行きが見えないから	病気や高齢の家族がいて、十分な医療・福祉サービスが必要だから	便利な生活をしたくないから
(n)												
世帯主年齢別	20～29歳	(1)	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	30～39歳	(2)	-	100.0	-	-	-	50.0	-	-	-	-
	40～49歳	(20)	15.0	20.0	5.0	5.0	15.0	55.0	5.0	-	20.0	-
	50～59歳	(28)	10.7	14.3	-	-	14.3	32.1	10.7	10.7	7.1	-
	60～69歳	(11)	18.2	18.2	-	-	9.1	18.2	9.1	9.1	36.4	-
	70～79歳	(18)	-	16.7	-	5.6	33.3	22.2	5.6	-	5.6	-
	80歳以上	(12)	-	-	-	-	8.3	8.3	8.3	-	25.0	-
時期別	平成17年4月以前	(65)	7.7	13.8	1.5	1.5	16.9	30.8	10.8	3.1	18.5	-
	平成17年5月以降	(27)	11.1	22.2	-	3.7	14.8	33.3	-	7.4	7.4	-

			いどこに住めるかわからないから	その他	わからない
(n)					
世帯主年齢別	20～29歳	(1)	-	-	-
	30～39歳	(2)	-	-	-
	40～49歳	(20)	-	25.0	-
	50～59歳	(28)	-	46.4	-
	60～69歳	(11)	-	18.2	9.1
	70～79歳	(18)	-	11.1	16.7
	80歳以上	(12)	-	58.3	-
時期別	平成17年4月以前	(65)	-	29.2	3.1
	平成17年5月以降	(27)	-	37.0	7.4

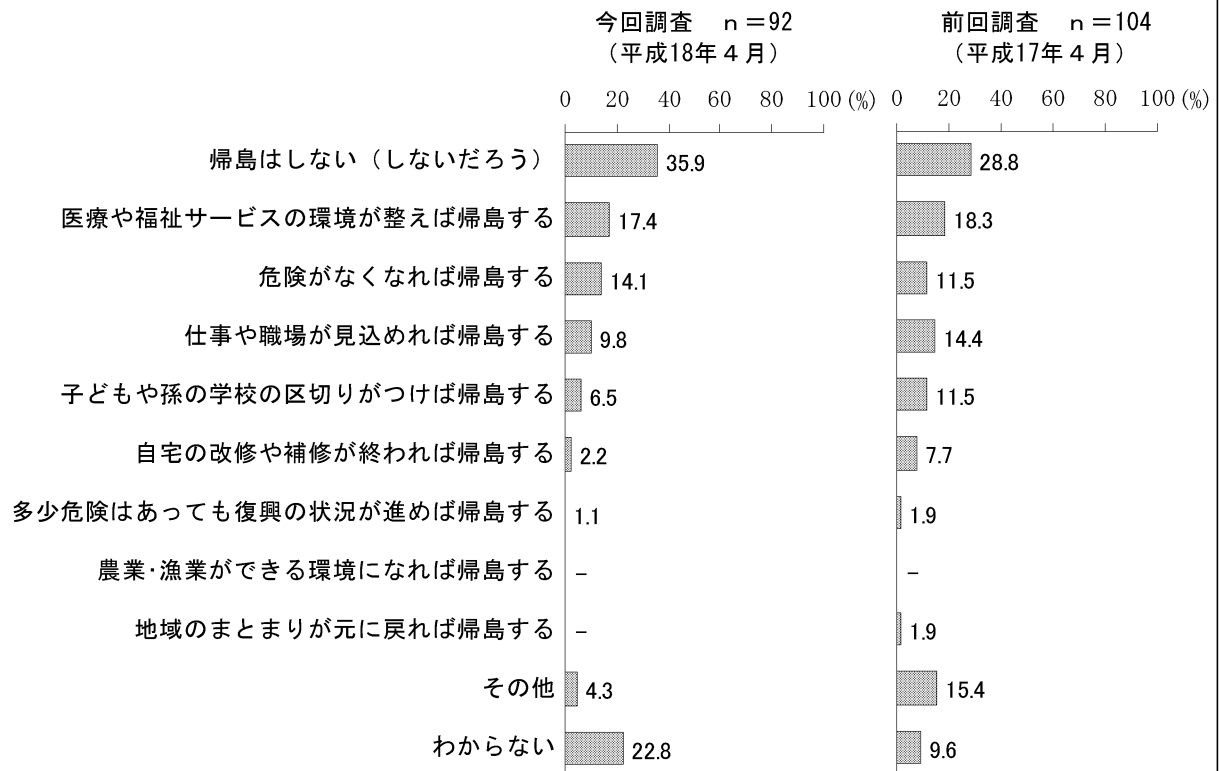
（全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け）

(3-3) まだ帰島していない家族の今後の帰島予定

◇ 「帰島はしない（しないだろう）」が3割台半ば

問4-3 （問4で「1 いる」とお答えの方にお聞きします）

現在帰島していないご家族の方の、今後の帰島のご予定はいかがでしょうか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



現在帰島していない家族がいるとした世帯に対して、その家族の帰島予定を尋ねたところ、「帰島はしない（しないだろう）」との回答が35.9%と最も高く3割台半ばを占めた。次いで「医療や福祉サービスの環境が整えば帰島する」が17.4%、「危険がなくなれば帰島する」が14.1%となっている。なお、「わからない」が22.8%で2割強と高くなった。

前回調査結果をみると、「帰島はしない（しないだろう）」との回答が前回の28.8%から今回は35.9%と7ポイント増加している。

【世帯主年齢別／帰島時期別】 ※基数（n）が小さいため参考にとどめる

		(n)	危険がなくなれば帰島する	興の状況が進めば帰島する	多少危険があっても復	自らの改修や補修が終	ば仕事や職場が見込め	境になれば帰島する	農業・漁業ができる環	戻れば帰島する	地域のまとまりが元	医療や福祉サービスの環境を整えれば帰島する	子どもや孫の学校の区	切りがつけば帰島する	その他	帰島はしない（しない	わからない
世帯主年齢別	20～29歳	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	30～39歳	(2)	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-
	40～49歳	(20)	25.0	5.0	5.0	15.0	-	-	-	-	-	30.0	10.0	-	-	25.0	20.0
	50～59歳	(28)	14.3	-	-	14.3	-	-	-	-	-	14.3	7.1	-	-	42.9	25.0
	60～69歳	(11)	18.2	-	-	9.1	-	-	-	-	-	18.2	-	-	-	36.4	18.2
	70～79歳	(18)	5.6	-	5.6	5.6	-	-	-	-	-	11.1	5.6	11.1	44.4	16.7	16.7
	80歳以上	(12)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.3	8.3	16.7	33.3	33.3	33.3
時期別	平成17年4月以前	(65)	10.8	1.5	1.5	4.6	-	-	-	-	-	18.5	9.2	4.6	35.4	24.6	24.6
	平成17年5月以降	(27)	22.2	-	3.7	22.2	-	-	-	-	-	14.8	-	3.7	37.0	18.5	18.5

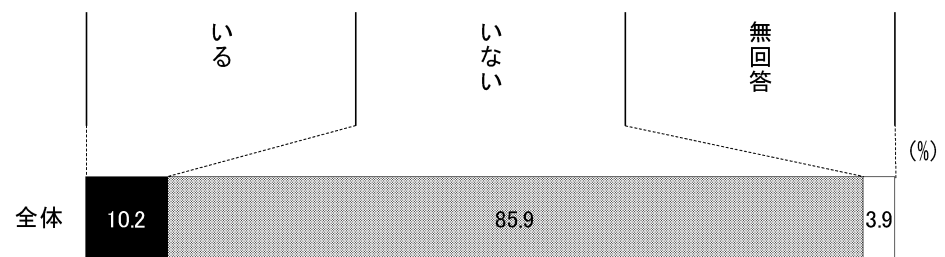
（全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け）

(4) 再離島者の有無

◇ 家族や隣近所で再離島者が「いる」は1割強

問5 ご家族やご近所の方で、一時帰島を除いて、去年の2月以降にいったん帰島されながら、再度島を離れられた方がいらっしゃいますか。あてはまるものを1つお選びください。

n = 489



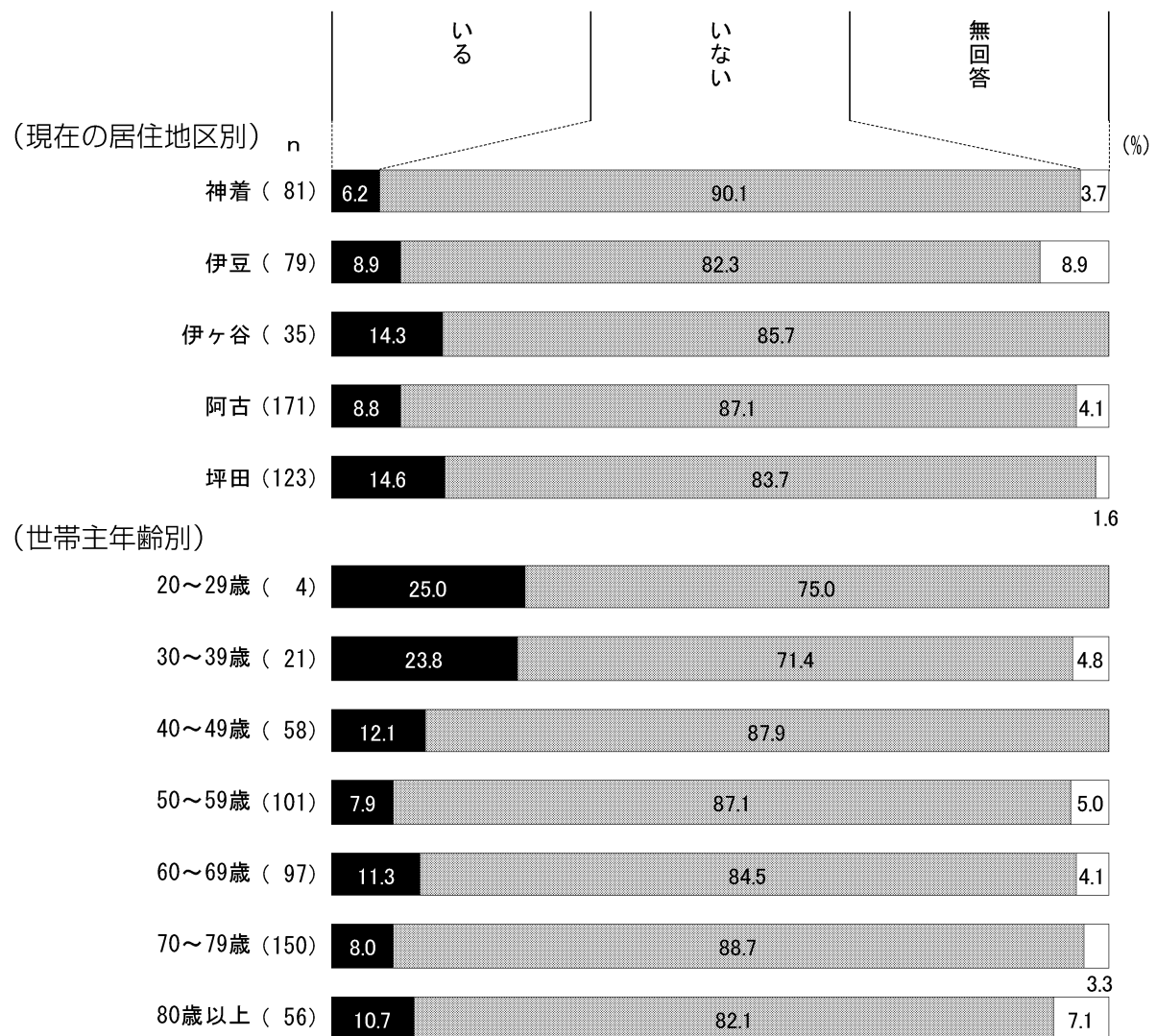
家族や隣近所を含め、一旦は帰島しながら再び島を離れてしまった方がいるかどうかについて尋ねたところ、「いる」との回答が10.2%と約1割を占めた。

なお、再び離島してしまった理由を尋ねたところ、「体の具合が悪いから」との回答が最も多く、「病気のため」や「仕事がないから」なども多かった。

回答者世帯の現在の居住地区別にみると、家族や隣近所で再離島者が「いる」との回答は「坪田地区」で14.6%、「伊ヶ谷地区」で14.3%と比較的高くなっている。

世帯主の年齢別にみると、「いる」との回答が「20～29歳」で25.0%、「30～39歳」で23.8%と、若年層で高くなっている（但し、基数の小さいため参考にとどめる）。

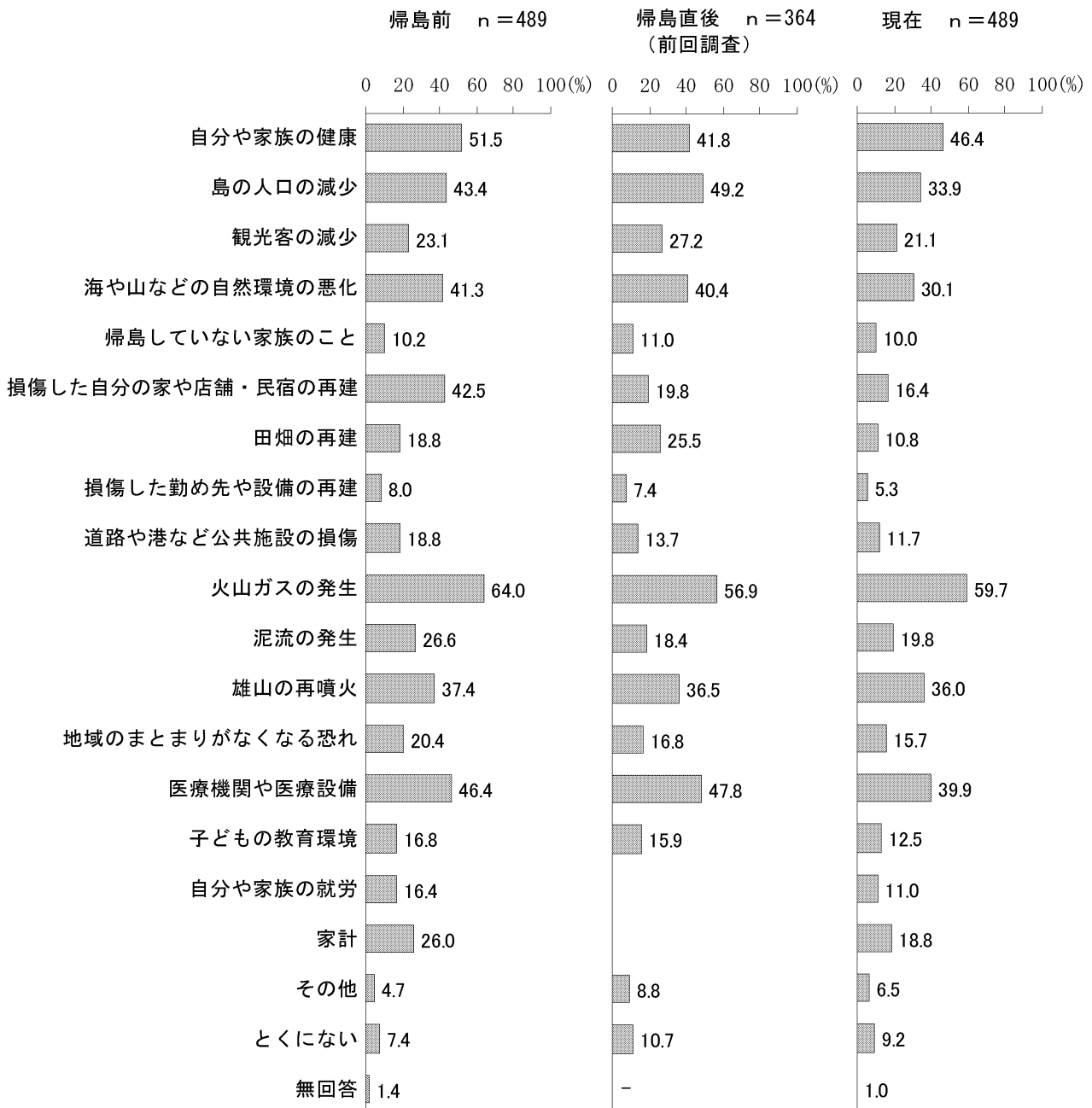
【現在の居住地区別／世帯主年齢別】



(5) 帰島前と現在の不安

◇ 帰島前・現在ともに「火山ガスの発生」が6割前後と高い

問6・7 あなたは、帰島される前には（帰島されてから）、どのようなことに不安を感じていましたか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



帰島する前に不安に感じていた事柄としては、「火山ガスの発生」との回答が64.0%と最も高く6割台半ばを占めている。次いで「自分や家族の健康」が51.5%と過半数を占め、「医療機関や医療設備」が46.4%と半数に近い。

一方、帰島してみて現在不安に感じている事柄としては、帰島前と同様に「火山ガスの発生」との回答が59.7%と最も高く、次いで「自分や家族の健康」が46.4%となっている。

“帰島前”と“帰島後（現在）”を比較すると、「火山ガスの発生」「自分や家族の健康」「医療機関や医療設備」などの上位を占めている項目にはほとんど変化はなく、全項目で不安度（回答率）が下がっている。特に顕著なものとしては「損傷した自分の家や店舗・民宿の再建」があり、帰島前42.5%だったのが現在16.4%と、26ポイントの減少となっている。自宅等の再建については、この1年で大方の目処がついたということであろう。「島の人口の減少」（帰島前43.4%、現在33.9%）や「海や山などの自然環境の悪化」（帰島前41.3%、現在30.1%）も10%前後の減少となっている。

帰島前【世帯主年齢別／帰島時期別】

	(n)	自分や家族の健康	島の人口の減少	観光客の減少	海や山などの自然環境の悪化	帰島しない家族のこと	損傷した自分の家や店舗・民宿の再建	田畑の再建	損傷した勤め先や設備の再建	道路や港など公共施設の損傷	火山ガスの発生
世帯主年齢別	20～29歳 (4)	50.0	50.0	25.0	50.0	-	-	-	-	-	75.0
	30～39歳 (21)	52.4	38.1	28.6	23.8	-	19.0	4.8	4.8	4.8	57.1
	40～49歳 (58)	56.9	41.4	20.7	44.8	19.0	27.6	8.6	12.1	10.3	63.8
	50～59歳 (101)	55.4	50.5	27.7	39.6	13.9	45.5	15.8	14.9	20.8	69.3
	60～69歳 (97)	44.3	43.3	21.6	41.2	6.2	44.3	16.5	8.2	16.5	64.9
	70～79歳 (150)	52.7	42.0	22.7	44.0	7.3	49.3	26.7	4.7	24.0	66.0
	80歳以上 (56)	50.0	39.3	19.6	39.3	14.3	41.1	25.0	1.8	19.6	50.0
時期別	平成17年4月以前 (357)	50.1	47.1	23.0	43.1	10.6	42.9	21.3	8.7	19.9	63.0
	平成17年5月以降 (130)	54.6	33.1	23.8	35.4	8.5	41.5	11.5	6.2	16.2	66.9

	(n)	泥流の発生	雄山の再噴火	地域のもともたまりがなく なる恐れ	医療機関や医療設備	子どもの教育環境	自分や家族の就労	家計	その他	とくにない	無回答
世帯主年齢別	20～29歳 (4)	-	25.0	-	75.0	50.0	-	25.0	-	25.0	-
	30～39歳 (21)	4.8	28.6	9.5	47.6	47.6	4.8	19.0	-	14.3	-
	40～49歳 (58)	22.4	39.7	13.8	51.7	50.0	22.4	34.5	-	12.1	-
	50～59歳 (101)	19.8	31.7	16.8	47.5	15.8	23.8	33.7	4.0	2.0	1.0
	60～69歳 (97)	33.0	38.1	20.6	45.4	7.2	18.6	24.7	7.2	8.2	2.1
	70～79歳 (150)	33.3	41.3	28.0	48.0	9.3	12.7	20.7	6.0	7.3	0.7
	80歳以上 (56)	23.2	37.5	19.6	35.7	7.1	8.9	23.2	5.4	7.1	5.4
時期別	平成17年4月以前 (357)	27.5	37.8	21.3	46.5	17.1	16.5	26.1	5.3	8.1	1.7
	平成17年5月以降 (130)	24.6	36.9	17.7	46.2	16.2	15.4	26.2	3.1	5.4	0.8

(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

帰島する前に不安に感じていたことがらについて、世帯主の年齢別にみると、「火山ガスの発生」との回答は〔50～59歳〕で69.3%と7割弱を占め高くなっている。また、「子どもの教育環境」は〔20～29歳〕から〔40～49歳〕までの若・中年代層で5割程度を占めている。〔40～49歳〕と〔50～59歳〕では「自分や家族の就労」と「家計」が他の年齢層よりも高くなっている。

帰島した時期別にみると、「火山ガスの発生」との回答は〔平成17年5月以降〕で66.9%と6割台半ばを占め高くなっている。一方、〔平成17年4月以前〕では「田畑の再建」が21.3%で〔平成17年5月以降〕（11.5%）のほぼ2倍となっている。また、「島の人口の減少」が〔平成17年5月以降〕の33.1%に対して、〔平成17年4月以前〕では47.1%と14ポイント高くなっている。

現在【世帯主年齢別／帰島時期別】

(n)			自分や家族の健康	島の人口の減少	観光客の減少	海や山などの自然環境の悪化	帰島しない家族のこと	や店舗・民宿の再建	損傷した自分の家	田畑の再建	損傷した勤め先や設備の再建	道路や港など公共施設の損傷	火山ガスの発生
世帯主年齢別	20～29歳	(4)	50.0	25.0	25.0	50.0	－	－	－	－	－	－	75.0
	30～39歳	(21)	28.6	33.3	28.6	19.0	－	9.5	－	－	－	－	47.6
	40～49歳	(58)	46.6	31.0	22.4	22.4	17.2	13.8	5.2	6.9	10.3	55.2	
	50～59歳	(101)	46.5	42.6	26.7	29.7	14.9	20.8	7.9	8.9	13.9	56.4	
	60～69歳	(97)	36.1	35.1	19.6	30.9	6.2	15.5	14.4	4.1	10.3	60.8	
	70～79歳	(150)	51.3	30.0	20.7	33.3	8.0	18.7	10.7	4.7	14.0	67.3	
	80歳以上	(56)	58.9	32.1	10.7	30.4	10.7	10.7	21.4	3.6	10.7	50.0	
時期別	平成17年4月以前	(357)	44.8	36.7	21.3	31.9	9.8	16.8	11.8	5.6	12.6	58.5	
	平成17年5月以降	(130)	50.8	26.2	20.8	24.6	10.0	14.6	8.5	4.6	9.2	63.1	

(n)			泥流の発生	雄山の再噴火	地域のまとまりがなくなる恐れ	医療機関や医療設備	子どもの教育環境	自分や家族の就労	家計	その他	とくにない	無回答
世帯主年齢別	20～29歳	(4)	－	25.0	－	75.0	50.0	－	25.0	－	25.0	－
	30～39歳	(21)	4.8	33.3	4.8	28.6	28.6	4.8	9.5	－	14.3	－
	40～49歳	(58)	20.7	39.7	12.1	48.3	34.5	15.5	27.6	10.3	6.9	－
	50～59歳	(101)	18.8	31.7	17.8	38.6	11.9	15.8	23.8	4.0	8.9	1.0
	60～69歳	(97)	20.6	34.0	19.6	44.3	7.2	14.4	15.5	8.2	7.2	2.1
	70～79歳	(150)	24.7	38.7	15.3	38.0	6.7	8.0	16.7	7.3	10.7	0.7
	80歳以上	(56)	12.5	35.7	16.1	33.9	7.1	3.6	16.1	3.6	8.9	1.8
時期別	平成17年4月以前	(357)	21.0	37.0	16.5	38.1	12.3	9.5	17.6	7.3	10.1	1.4
	平成17年5月以降	(130)	16.9	33.8	13.1	44.6	13.1	15.4	22.3	4.6	6.2	－

(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

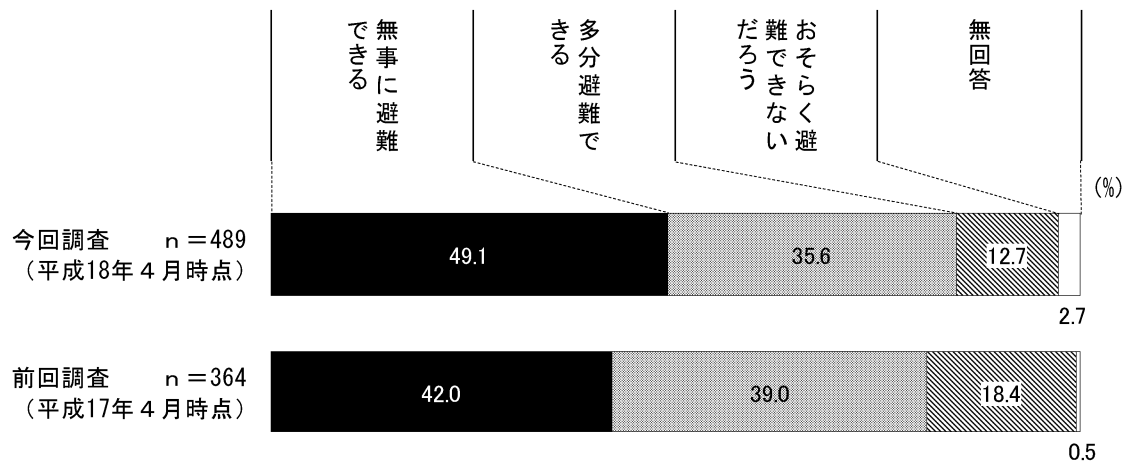
現在、不安に感じていた事柄について、世帯主の年齢別にみると、「火山ガスの発生」との回答は「70～79歳」で67.3%と6割台半ばを占め高くなっている。また、「自分や家族の健康」は「80歳以上」（58.9%）や「70～79歳」（51.3%）など高年代層で5割を超え高い。一方、「子どもの教育環境」は「40～49歳」（34.5%）や「30～39歳」（28.6%）など若年代層で高くなっている。

帰島した時期別にみると、「島の人口の減少」との回答が「平成17年4月以前」で36.7%と3割台半ばを占めるのに対し、「平成17年5月以降」では26.2%にとどまり、11ポイント低くなっている。また、「海や山などの自然環境の悪化」も「平成17年4月以前」で31.9%、「平成17年5月以降」で24.6%と、7ポイント低くなっている。

(6) 警報発令時の無事な避難の可能性

◇ 「無事に避難できる」がおよそ半数、「避難できない」が1割強

問8 火山ガスが発生し警報が発令された場合、あなたは無事に避難できると思いますか。あてはまるものを1つお選びください。



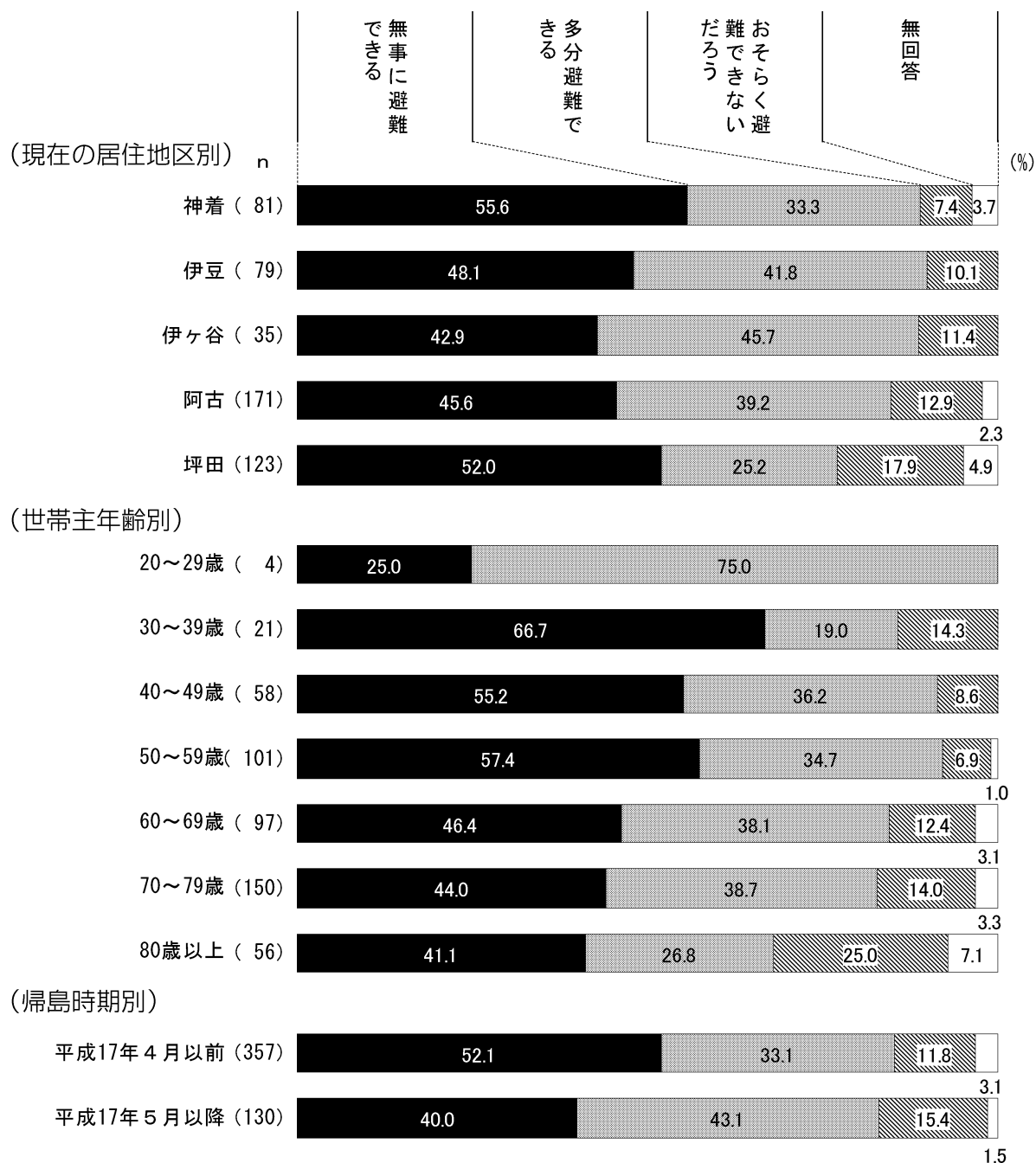
火山ガスが発生し警報が発令された場合に無事に避難できるかどうかを尋ねたところ、「無事に避難できる」との回答が49.1%とほぼ半数を占め、「多分避難できる」の35.6%と合わせると、『避難できる（計）』との回答は8割台半ば（84.7%）となる。なお、「おそらく避難できないだろう」との回答は12.7%と1割強である。

回答者世帯の現在の居住地区別にみると、「無事に避難できる」との回答は〔神着地区〕で55.6%、〔坪田地区〕で52.0%と比較的高くなっている。「多分避難できる」との回答の割合を合わせた『避難できる（計）』は、避難施設がある伊豆地区をはじめ、隣接する〔神着地区〕と〔伊ヶ谷地区〕でも9割弱となり、雄山を挟んで伊豆地区の反対側、つまり島を半周しなければならない〔坪田地区〕では8割弱と低くなる。一方、〔坪田地区〕では「おそらく避難できないだろう」との回答が17.9%と2割弱を占めている。

世帯主の年齢別にみると、『避難できる（計）』は〔40～49歳〕（92.1%）と〔50～59歳〕（91.4%）で9割を超え高くなっている。一方、年齢が高くなるほど「おそらく避難できないだろう」との回答の割合が高くなり、〔80歳以上〕で25.0%と4人に1人、〔60～69歳〕、〔70～79歳〕では1割を超える。

帰島した時期別にみると、「無事に避難できる」との回答は「平成17年4月以前」で52.1%と過半数を占めているが、「平成17年5月以降」では40.0%と4割となっており、10ポイント以上の開きがある。

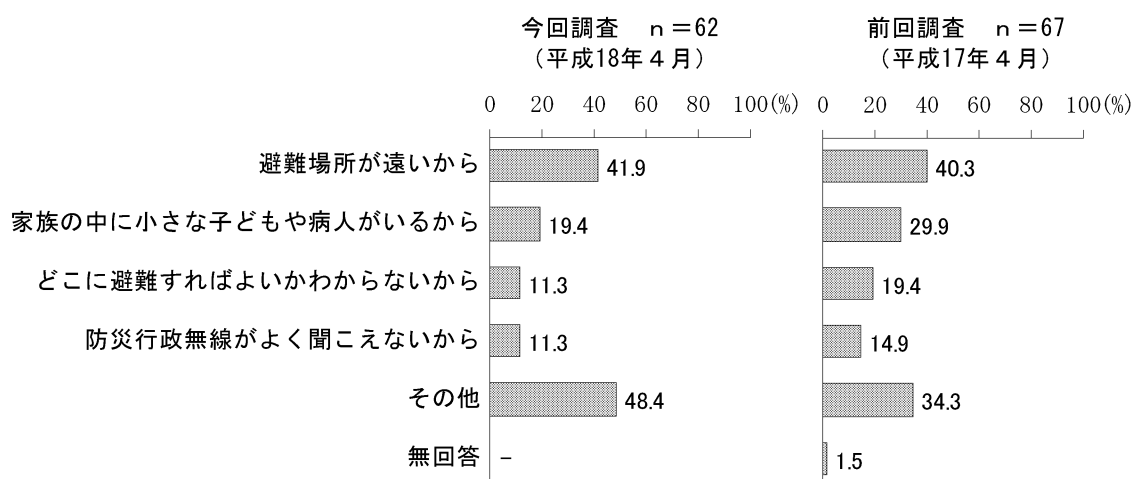
【現在の居住地区別／世帯主年齢別／帰島時期別】



(6-1) 避難できない理由

◇ 「避難場所が遠いから」が4割強、「小さな子どもや病人がいるから」が2割弱

問8-1 (問8で「3 おそらく避難できないだろう」とお答えの方にお聞きします)
避難できないだろうと思う理由は何ですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



火山ガスが発生し警報が発令された場合に無事に避難できないとする理由を尋ねたところ、「避難場所が遠いから」との回答が41.9%と最も高く4割強を占め、次いで「家族の中に小さな子どもや病人がいるから」が19.4%となっている。なお、「その他」が48.4%と高く、具体的な内容としては「足が悪く歩くのがつらい」「家にいた方が安全」などが多い。

【現在の居住地区別／世帯主年齢別／帰島時期別】 ※基数（n）が小さいため参考にとどめる

		(n)	や家族 病人が いるか ら	避難 場所 が遠 いから	どこに 避難す ればよ いか	防災行 政無線 がよく 聞こえ ないから	その他
居住地区別	神着	(6)	33.3	16.7	16.7	33.3	33.3
	伊豆	(8)	-	75.0	-	25.0	37.5
	伊ヶ谷	(4)	25.0	50.0	-	-	75.0
	阿古	(22)	13.6	27.3	13.6	9.1	54.5
	坪田	(22)	27.3	50.0	13.6	4.5	45.5
世帯主年齢別	20～29歳	(0)	-	-	-	-	-
	30～39歳	(3)	33.3	33.3	-	33.3	33.3
	40～49歳	(5)	20.0	40.0	20.0	20.0	80.0
	50～59歳	(7)	-	28.6	14.3	28.6	28.6
	60～69歳	(12)	16.7	41.7	25.0	-	41.7
	70～79歳	(21)	28.6	38.1	4.8	4.8	61.9
	80歳以上	(14)	14.3	57.1	7.1	14.3	35.7
時期別	平成17年4月以前	(42)	19.0	50.0	7.1	14.3	45.2
	平成17年5月以降	(20)	20.0	25.0	20.0	5.0	55.0

（全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け）

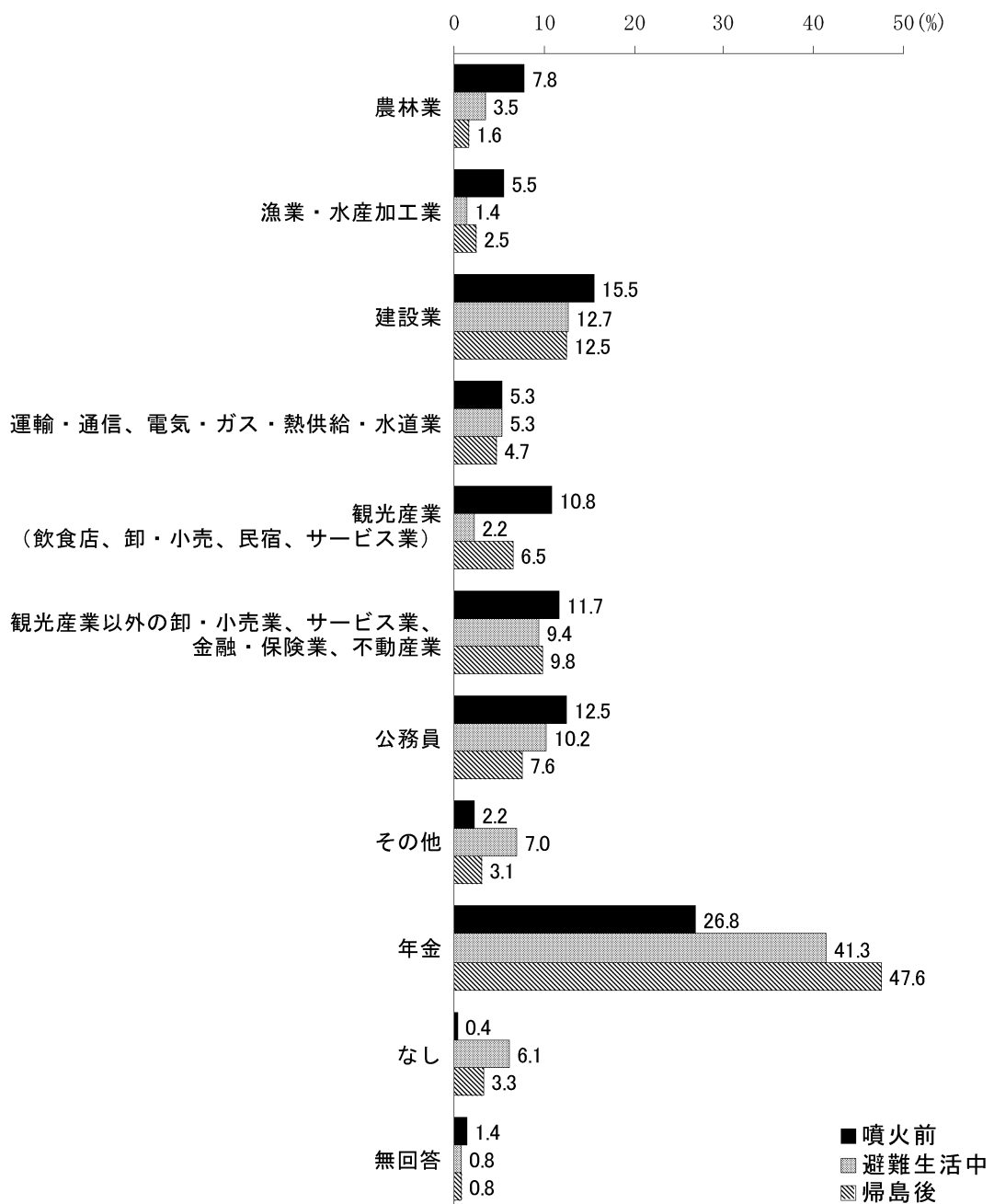
2. 世帯の生計について

(1) 噴火前-避難生活中-帰島後の主たる収入源の職業

◇ 「年金」は2割台半ばから5割弱に増加、「農林業」は5分の1に減少

問9～11 噴火前（避難生活中、帰島後）の、あなたの世帯で最も大きな収入源になっていた職業は何ですか。あてはまるものを1つお選びください。

n = 489



世帯の主な収入源となっている職業について、“噴火前”、“避難生活中”、“噴火前”の37の時期に分けて尋ねた。

まず“噴火前”では、「年金」との回答が26.8%と最も高く4世帯に1世帯の割合を占める。次いで「建設業」（15.5%）、「公務員」（12.5%）、「観光産業以外の卸・小売業、サービス業、金融・保険業、不動産業」（11.7%）、「観光産業」（10.8%）が1割を超える。

次に“避難生活中”では、「年金」との回答が41.3%と4割強を占め、“噴火前”に比べ15ポイント増加している。「年金」以外の項目では総じて減少しており、避難先での就労の難しさがうかがえる。

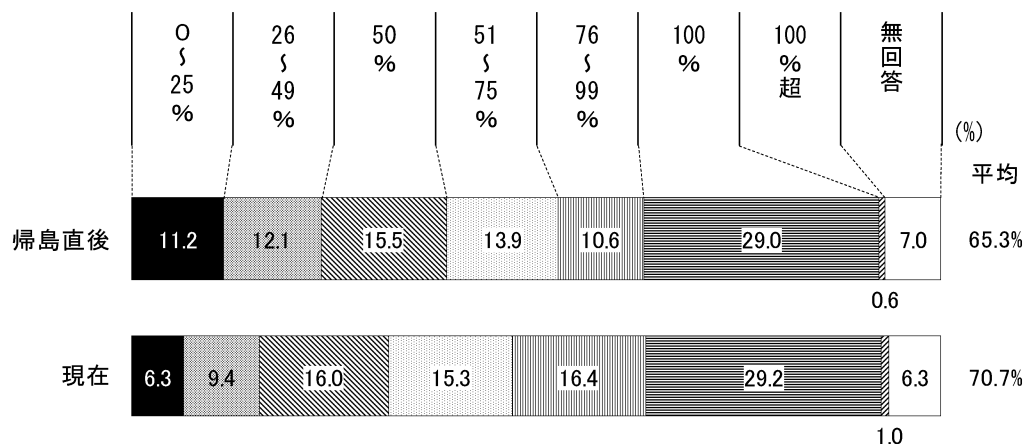
最後に“帰島後”では、「年金」との回答は47.6%と半数近くにまでなっている。“噴火前”に比べると20ポイントの増加である。一方、「年金」以外の項目では“噴火前”に比べ総じて減少している。特に「農業」（“噴火前” 7.8%、“帰島後” 1.6%）では“噴火前”の5分の1、「漁業・水産加工業」（“噴火前” 5.5%、“帰島後” 2.5%）と「観光産業」（“噴火前” 10.8%、“帰島後” 6.5%）ではおよそ半分程度に減少している。

(2) 噴火前と比べた世帯の経済状況

◇ 現在「100%」戻ったのは3割弱、平均にすると71%

問12 あなたのお宅の経済状況は、噴火前と比べるとどの程度（何%くらい）元に戻ったと思いますか。噴火前を100%としてお答えください。

n = 489



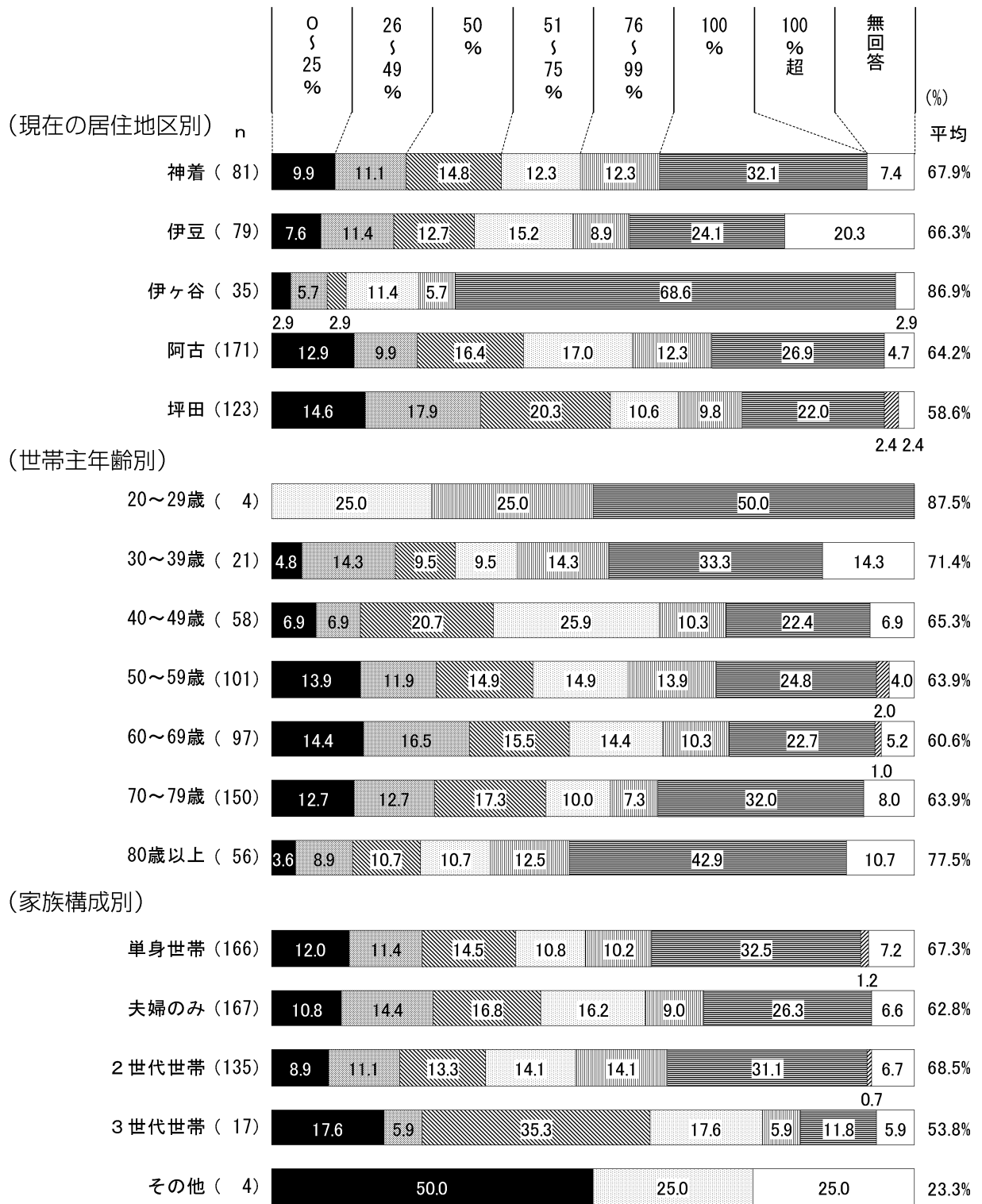
噴火前の世帯の経済状況を100%として、“帰島直後”、“現在”の2つの時点について、世帯の経済状況の評価を尋ねた。

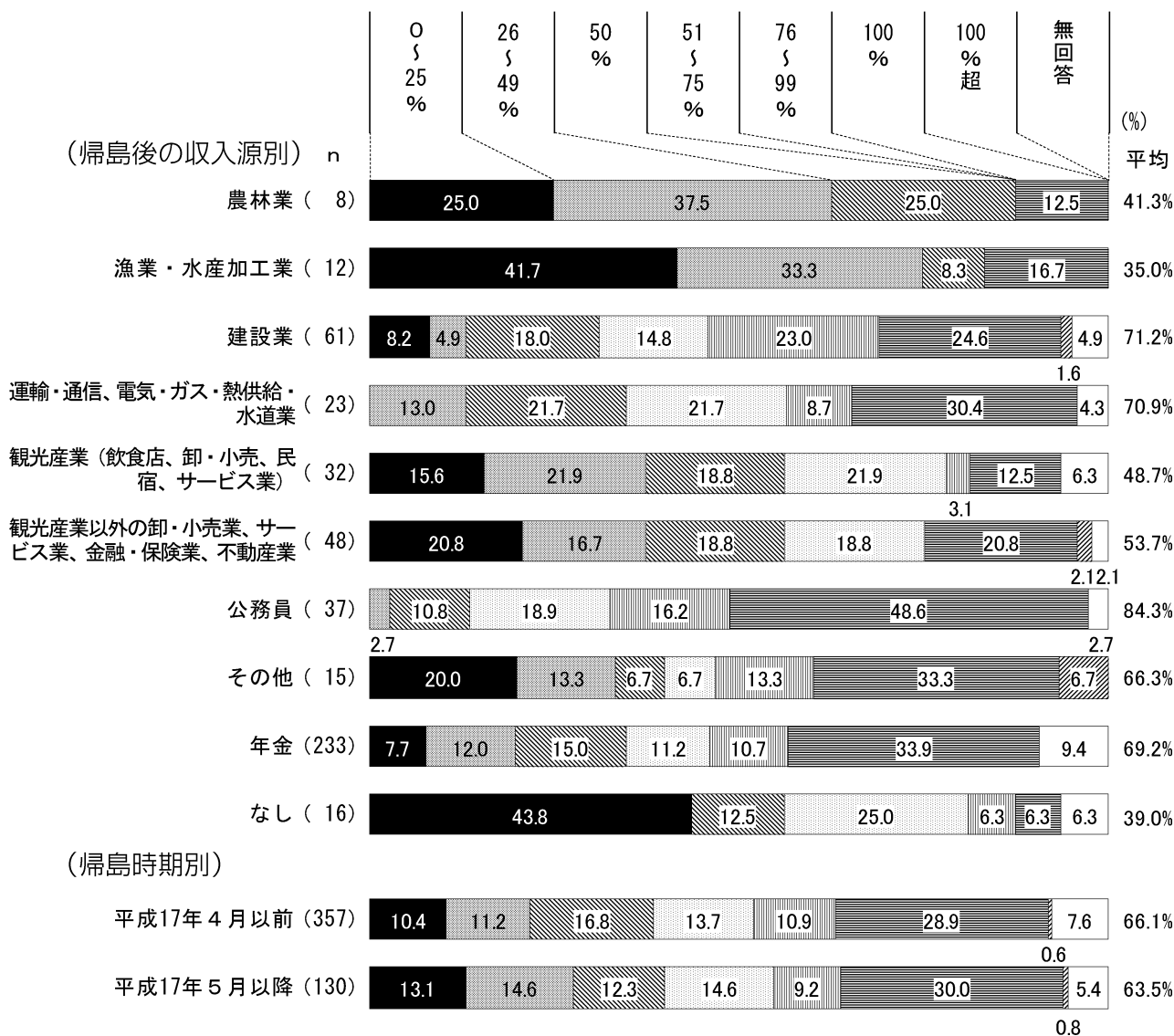
まず、“帰島直後”では、「100%」（噴火前と変わらない水準）との回答が29.0%と最も高く3割弱を占め、次いで「50%」（噴火前の半分の水準）との回答が15.5%となっている。噴火前の水準に戻っていないとする『100%未満（計）』（「0～25%」～「76～99%」の合計）との回答は63.3%と6割強を占めている。なお、回答の平均は65.3%である。

次に、“現在”については、「100%」との回答が29.2%と帰島直後と同様に最も高くなっている。次いで「76～99%」が16.4%、「50%」が16.0%、「51～75%」が15.3%となっている。『100%未満（計）』との回答は63.4%と“帰島直後”同様に6割強を占めている。回答の平均は70.7%である。

“帰島直後”と“現在”を比較すると、噴火前と変わらない水準となる「100%」との回答に変化がなくどちらも3割弱をとっており、また回答の平均もわずか5ポイントの増加にとどまる。しかし“現在”では、噴火前の半分に満たない経済状況との回答である「0～25%」と「26～49%」が低くなり、一方で「50%」「51～75%」「76～99%」との回答の割合が高くなっており、徐々に噴火前の状態に戻りつつあることがうかがえる。

帰島直後【現在の居住地区別／世帯主年齢別／帰島後の家族構成別／帰島後の収入源別／帰島時期別】





まず、“帰島直後”の経済状況について現在の居住地区別にみると、噴火前の水準に戻っていないとする『100%未満 (計)』との回答は[坪田地区]で73.2%と最も高く、次いで[阿古地区]で68.5%となっている。一方、[伊ヶ谷地区]では「100%」との回答が68.6%と7割弱を占めている。

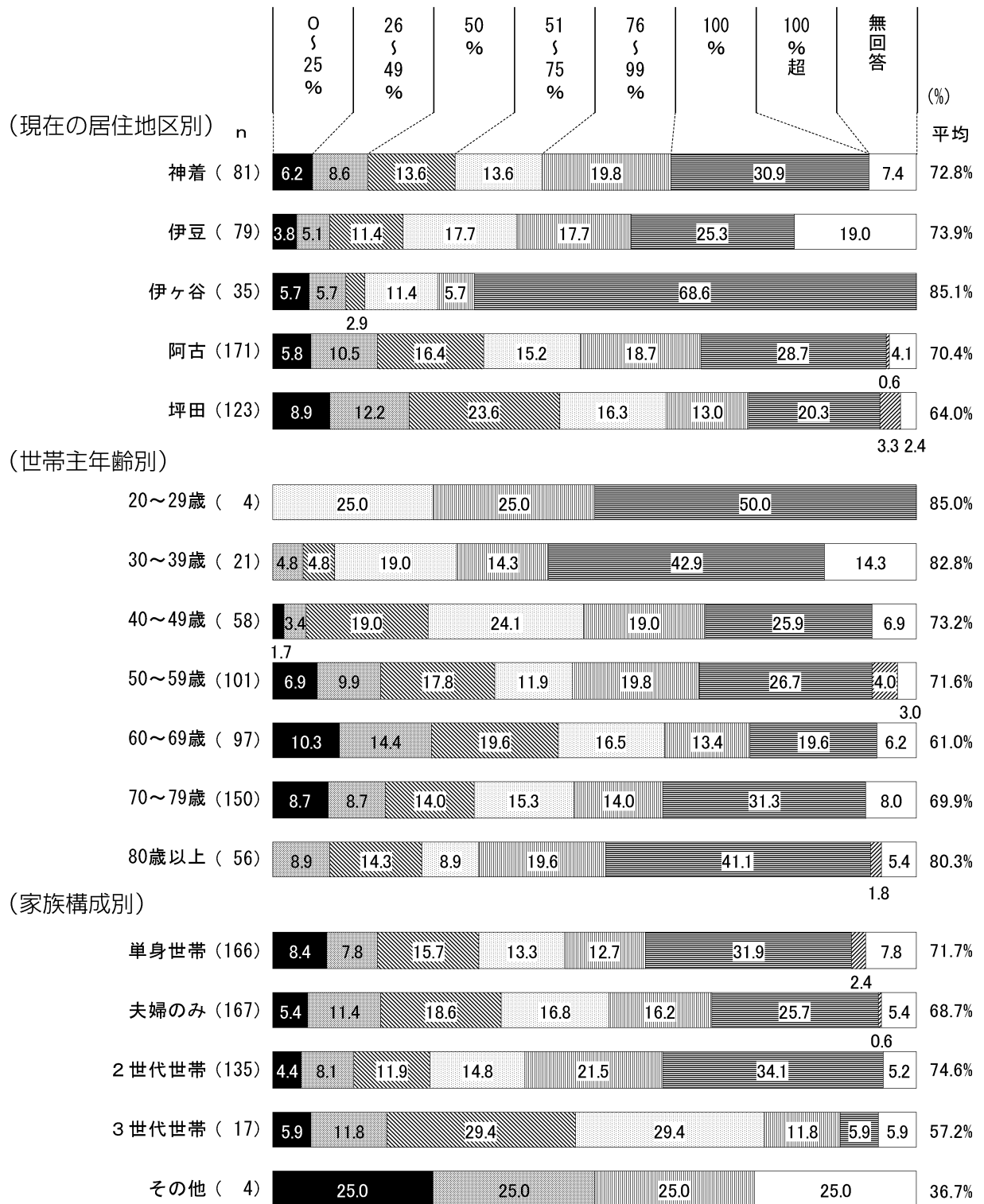
世帯主の年齢別にみると、『100%未満 (計)』との回答は[60～69歳]で71.1%と最も高く、次いで[40～49歳]で70.7%、[50～59歳]で69.5%と7割前後を占めている。一方、これらの年齢層では「100%」との回答が2割台であるが、[70～79歳] (32.0%)で3割を超え、[80歳以上] (42.9%)で4割を超え高くなっている。

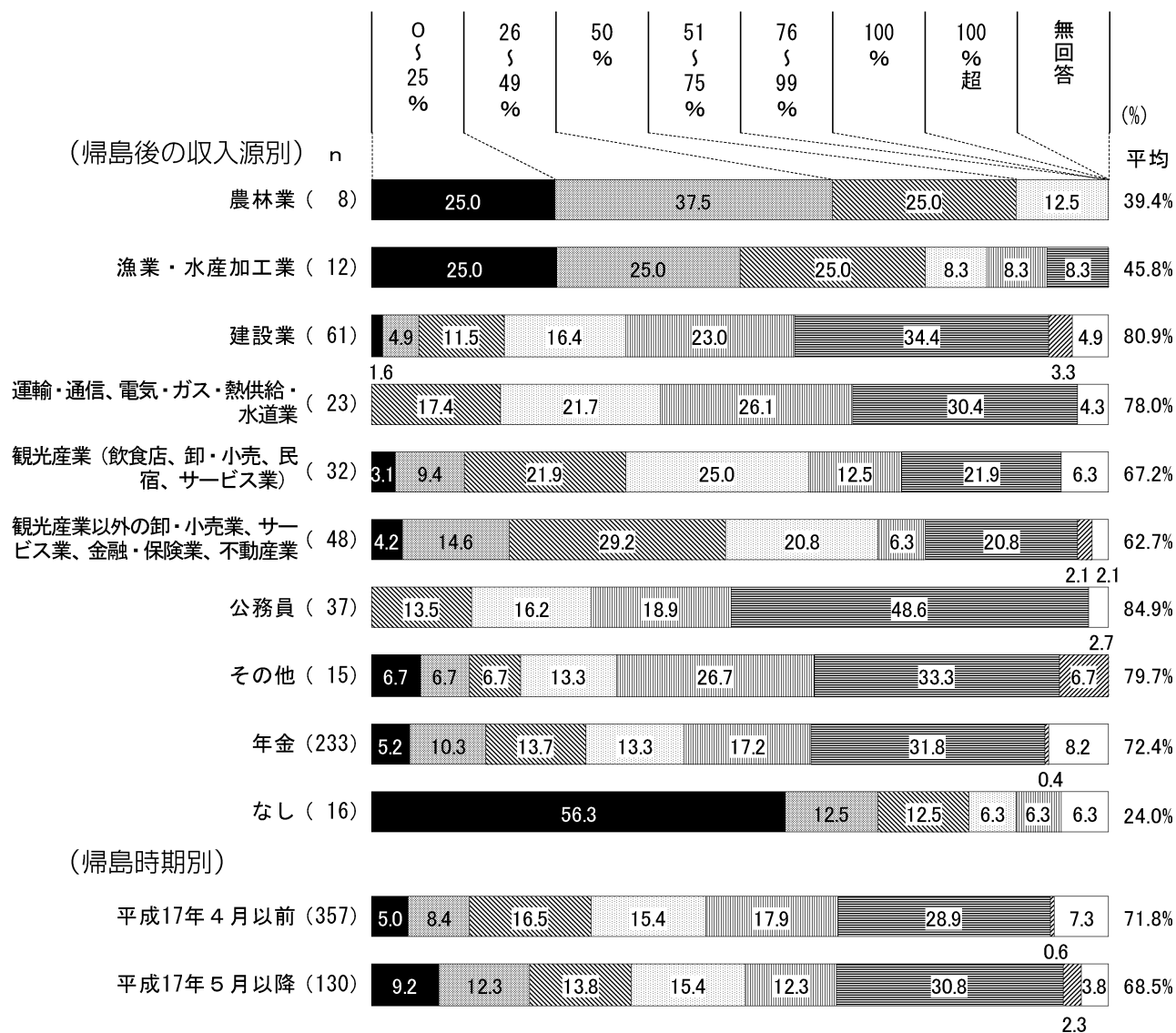
帰島後の家族構成別にみると、『100%未満 (計)』との回答は[3世代世帯]で82.3%と最も高く8割強を占めている。なお、「50%」(噴火前の半分の経済状況)との回答が[3世代世帯]で35.3%と高く3割台半ばとなっている。

帰島後の収入源別にみると、『100%未満（計）』との回答は〔農林業〕で87.5%と最も高く9割弱、〔漁業・水産加工業〕で83.3%といずれも8割強、〔観光産業〕で81.3%と8割を超える。なお、〔農林業〕と〔漁業・水産加工業〕は基数が小さいため参考にとどめるが、『100%未満（計）』の大半が「50%未満（計）」である。

帰島した時期別にみると、『50%未満（計）』との回答が〔平成17年4月以前〕（21.6%）よりも〔平成17年5月以降〕（27.7%）の方が高くなっているが、ほとんど差はみられない。

現在【現在の居住地区別／世帯主年齢別／家族構成別／帰島後の収入源別／帰島時期別】





次に、“現在”の経済状況について現在の居住地区別にみると、『100%未満（計）』との回答は「坪田地区」で74.0%と最も高く、次いで「阿古地区」で66.6%となっている。一方、「伊ヶ谷地区」では「100%」との回答が68.6%と7割弱を占めている。これは“帰島直後”と同じ傾向にある。

世帯主の年齢別にみると、噴火前の水準に戻っていないとする『100%未満（計）』との回答は「60～69歳」で74.2%と最も高く、これは“帰島直後”よりも若干増加している。

帰島後の家族構成別にみると、『100%未満（計）』との回答は“帰島直後”と同様に「3世代世帯」で88.3%と最も高くなっている。

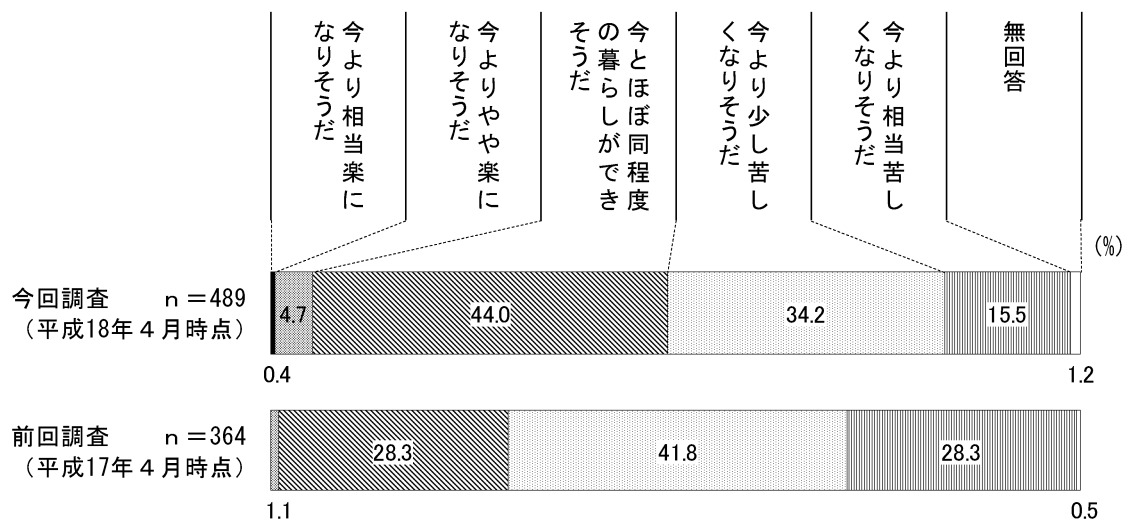
帰島後の収入源別にみると、『100%未満（計）』との回答は、これも“帰島直後”と同様に「農林業」で高く、全世帯が回答している。「漁業・水産加工業」でも91.7%と9割を超えている。「観光産業」でも依然として厳しく71.9%と7割を超える。

帰島した時期別にみると、『50%未満（計）』との回答が「平成17年5月以降」で21.5%と2割強となっており、「平成17年4月以前」（13.4%）よりも8ポイント高くなっている。

(3) 今後の生計の見通し

◇ 今と「同程度」は4割台半ば、依然として「苦しく」は半数

問13 今後の生計の見通しはいかがですか。あてはまるものを1つお選びください。



※ 前回調査における選択肢は、「噴火前より…」と見通し評価の基準が異なる。

今後の生計の見通しについては、「今とほぼ同程度の暮らしができそう」との回答が44.0%と最も高く4割台半ばで、次いで「今より少し苦しくなりそう」が34.2%、「今より相当苦しくなりそう」との回答が15.5%となっている。「今より相当楽になりそう」0.4%と「今よりやや楽になりそう」4.7%を合わせた『楽になりそう（計）』と見込む世帯はわずか5%にとどまり、『苦しくなりそう（計）』との見込みが49.7%と半数を占めている。

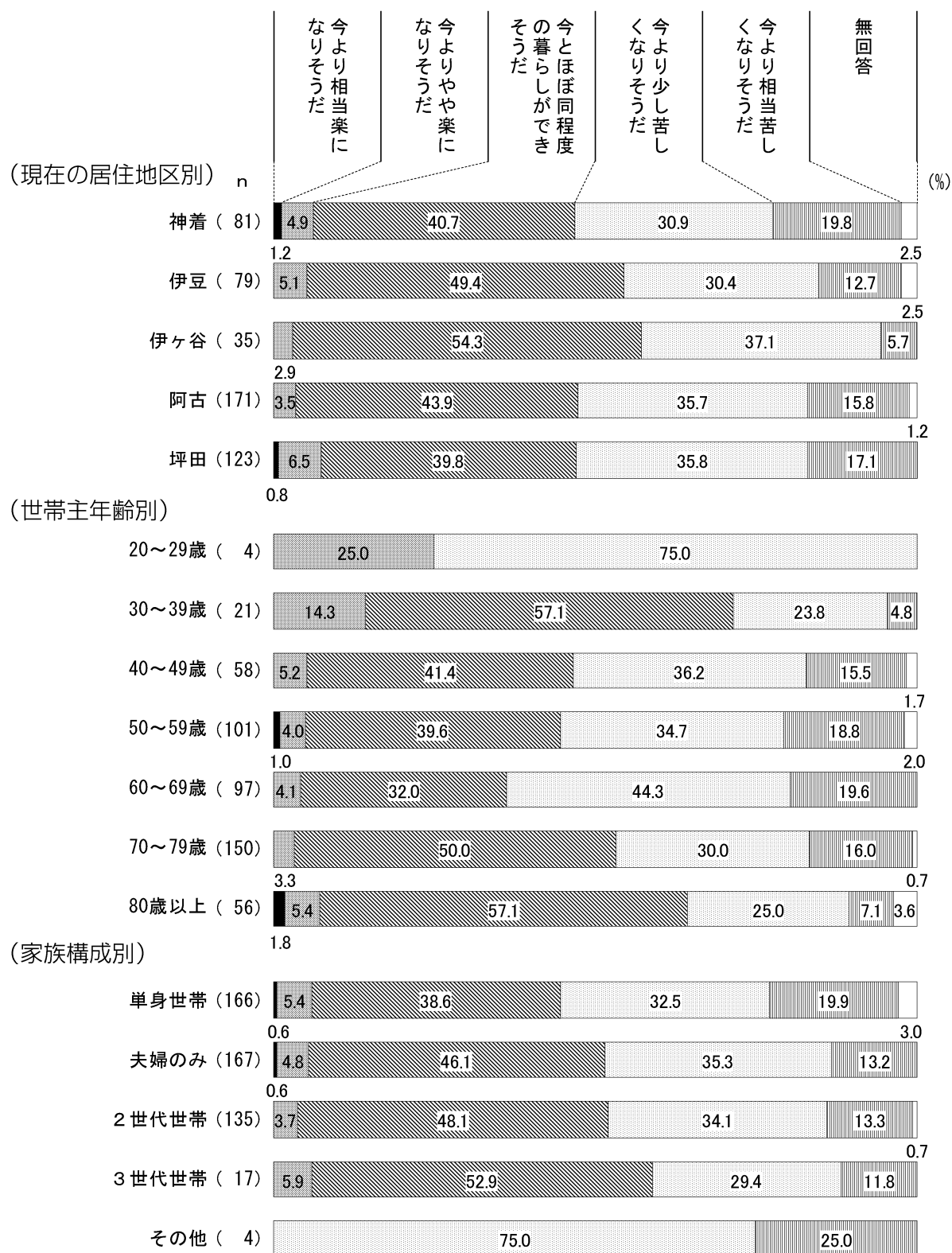
世帯主の年齢別にみると、『苦しくなりそう（計）』との回答は〔60～69歳〕で63.9%と最も高く6割強を占めている。次いで〔50～59歳〕で53.5%、〔40～49歳〕で51.7%となっている。

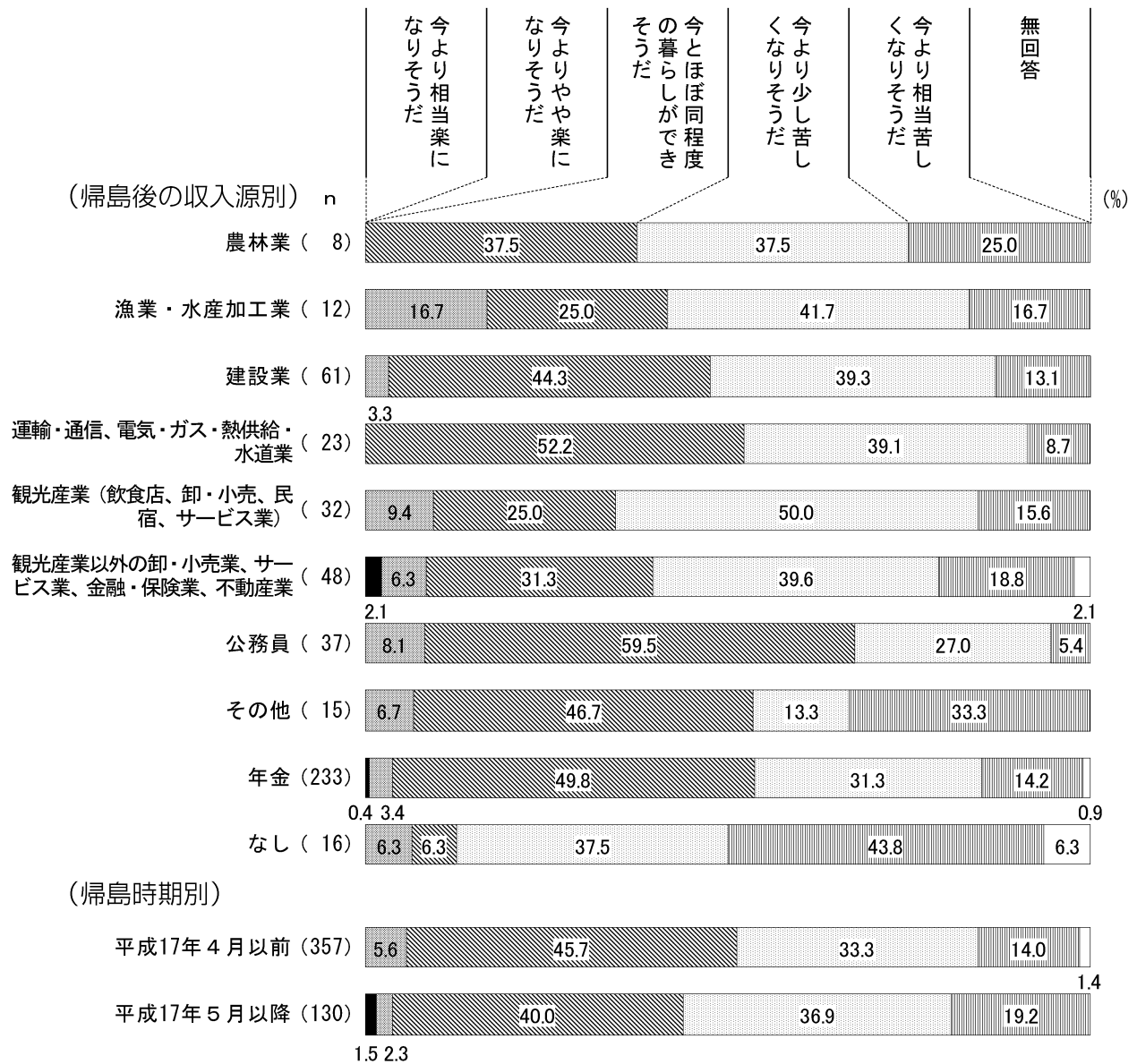
帰島後の家族構成別にみると、『苦しくなりそう（計）』との回答は〔単身世帯〕で52.4%と最も高く過半数を占め、〔夫婦のみ〕（48.5%）と〔2世代世帯〕（47.4%）では半数に近い。

帰島後の収入源別にみると、『苦しくなりそう（計）』との回答は〔観光産業〕で65.6%と最も高く6割台半ばを占め、〔農林業〕で62.5%と6割強となっている。次いで〔漁業・水産加工業〕〔観光産業以外の卸・小売業、サービス業、金融・保険業、不動産業〕（ともに58.4%）でも6割弱となっている。

帰島した時期別にみると、『苦しくなりそうだ（計）』との回答は〔平成17年5月以降〕で56.1%と5割台半ばを占め、〔平成17年4月以前〕（47.3%）よりも9ポイント高くなっている。

【現在の居住地区別／世帯主年齢別／家族構成別／帰島後の収入源別／帰島時期別】





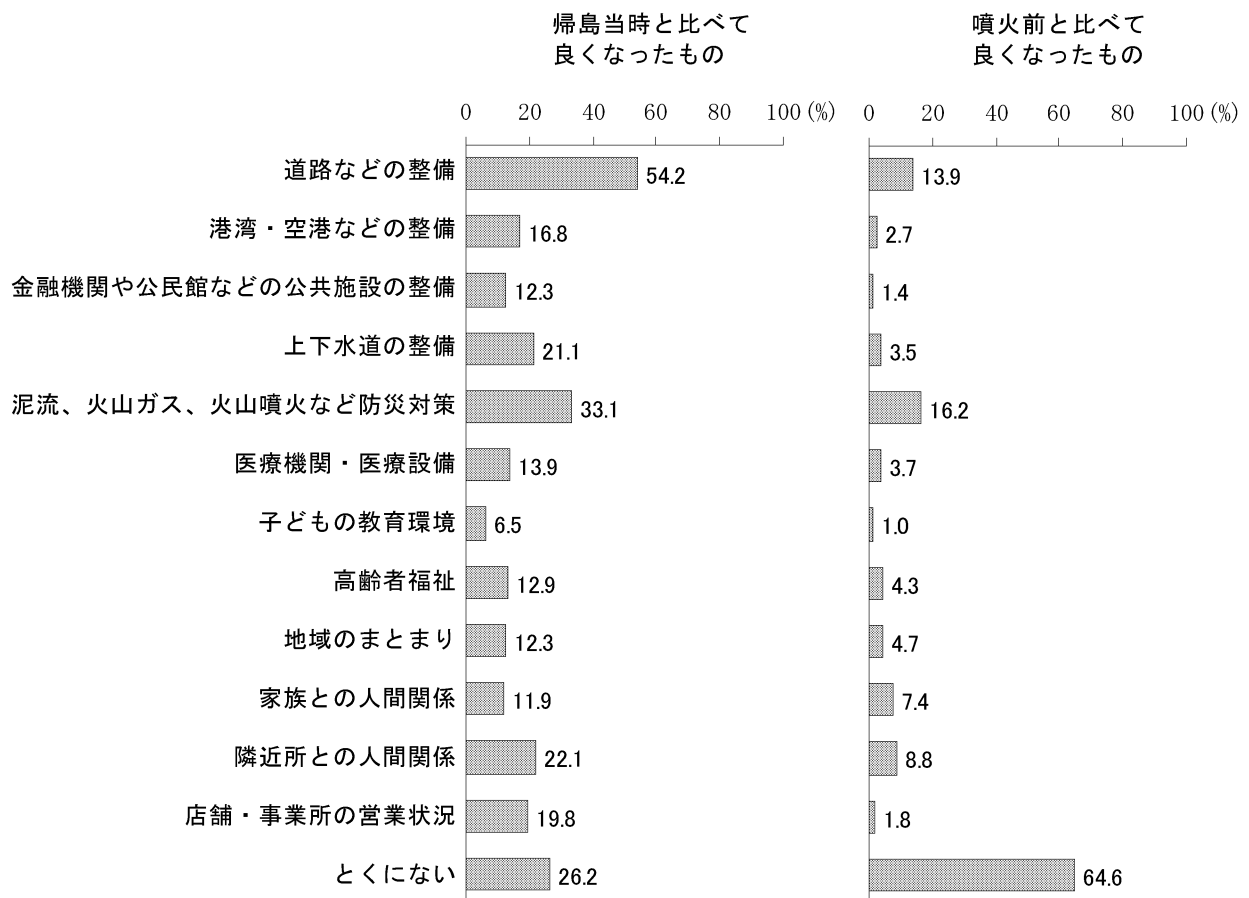
3. 復興について

(1) 復興の状況

◇ 帰島当時より良くなったのは「道路の整備」5割台半ば、「防災対策」3割強

問14・15 あなたが帰島した当時に比べて（噴火前に比べて）、良くなったと思うものには何がありますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

n = 489



現在の復興の状況について、“帰島当時”及び“噴火前”の状況と比べて良くなったものを尋ねた。

まず、“帰島当時と比べて良くなったもの”としては、「道路などの整備」との回答が54.2%と最も高く過半数を占め、次いで「泥流、火山ガス、火山噴火など防災対策」が33.1%となっている。「隣近所との人間関係」(22.1%)や「上下水道の整備」(21.1%)も2割を超えている。

次に、“噴火前と比べて良くなったもの”としては、「泥流、火山ガス、火山噴火など防災対策」との回答が16.2%と最も高く、次いで「道路などの整備」が13.9%となっている。なお、「とくにない」は64.6%と3人に2人が答えている。

帰島当時と比べて良くなったもの【現在の居住地区別】

		(n)	道路などの整備	港湾・空港などの整備	金融機関や公民館などの公共施設の整備	上下水道の整備	泥流、火山ガス、火山噴火など防災対策	医療機関・医療設備	子どもの教育環境	高齢者福祉	地域のまとまり	家族との人間関係
居住地区別	神着	(81)	43.2	8.6	9.9	16.0	21.0	11.1	2.5	9.9	6.2	7.4
	伊豆	(79)	53.2	12.7	12.7	16.5	29.1	12.7	10.1	19.0	15.2	11.4
	伊ヶ谷	(35)	65.7	11.4	17.1	34.3	54.3	25.7	17.1	14.3	31.4	2.9
	阿古	(171)	47.4	13.5	9.9	14.0	33.3	10.5	3.5	13.5	11.1	9.4
	坪田	(123)	68.3	30.9	15.4	33.3	37.4	17.9	8.1	9.8	10.6	21.1
		(n)	隣近所との人間関係	店舗・事業所の営業状況	とくにない							
居住地区別	神着	(81)	12.3	16.0	44.4							
	伊豆	(79)	26.6	20.3	27.8							
	伊ヶ谷	(35)	20.0	11.4	11.4							
	阿古	(171)	23.4	17.0	24.6							
	坪田	(123)	24.4	28.5	19.5							

(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

“帰島当時と比べて良くなったもの”について、回答者世帯の現在の居住地区別にみると、「道路などの整備」との回答は〔坪田地区〕（68.3%）と〔伊ヶ谷地区〕（65.7%）で高くなっている。「港湾・空港などの整備」は〔坪田地区〕で30.9%と3割を超え、「泥流、火山ガス、火山噴火など防災対策」は〔伊ヶ谷地区〕で54.3%と5割台半ばとなっている。

帰島当時と比べて良くなったもの【世帯主年齢別】

	(n)	道路などの整備	港湾・空港などの整備	金融機関や公民館などの公共施設の整備	上下水道の整備	泥流、火山ガス、火山噴火など防災対策	医療機関・医療設備	子どもの教育環境	高齢者福祉	地域のまとまり	家族との人間関係
世帯主年齢別	20～29歳 (4)	25.0	25.0	25.0	25.0	-	-	-	25.0	-	-
	30～39歳 (21)	47.6	14.3	14.3	19.0	33.3	14.3	23.8	19.0	19.0	19.0
	40～49歳 (58)	51.7	8.6	15.5	15.5	27.6	12.1	15.5	6.9	5.2	12.1
	50～59歳 (101)	57.4	17.8	9.9	16.8	34.7	11.9	4.0	11.9	11.9	6.9
	60～69歳 (97)	58.8	17.5	18.6	17.5	39.2	19.6	4.1	10.3	9.3	14.4
	70～79歳 (150)	51.3	18.0	6.0	26.0	32.0	12.0	4.0	12.0	13.3	11.3
	80歳以上 (56)	55.4	17.9	17.9	28.6	32.1	16.1	7.1	25.0	21.4	16.1

	(n)	隣近所との人間関係	店舗・事業所の営業状況	とくにない
世帯主年齢別	20～29歳 (4)	-	50.0	50.0
	30～39歳 (21)	38.1	28.6	33.3
	40～49歳 (58)	13.8	24.1	27.6
	50～59歳 (101)	20.8	33.7	23.8
	60～69歳 (97)	25.8	18.6	21.6
	70～79歳 (150)	20.0	11.3	26.7
	80歳以上 (56)	28.6	10.7	30.4

(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

世帯主の年代別にみると、「道路などの整備」との回答は〔60～69歳〕で58.8%と最も高く6割弱を占め、〔50～59歳〕で57.4%と続いている。「子どもの教育環境」は〔30～39歳〕で23.8%と高く2割強、〔40～49歳〕で15.5%と1割台半ばとなっており、若年代層で高い。

噴火前と比べて良くなったもの【現在の居住地区別】

		(n)	道路などの整備	港湾・空港などの整備	金融機関や公民館などの公共施設の整備	上下水道の整備	泥流、火山ガス、火山噴火など防災対策	医療機関・医療設備	子どもの教育環境	高齢者福祉	地域のまとまり	家族との人間関係
居住地区別	神着	(81)	12.3	1.2	－	1.2	14.8	3.7	－	6.2	2.5	2.5
	伊豆	(79)	24.1	2.5	－	2.5	21.5	6.3	2.5	3.8	6.3	3.8
	伊ヶ谷	(35)	8.6	2.9	－	2.9	14.3	2.9	2.9	5.7	8.6	5.7
	阿古	(171)	15.8	2.3	2.9	5.8	18.1	4.1	0.6	5.8	3.5	8.2
	坪田	(123)	7.3	4.1	1.6	2.4	11.4	1.6	0.8	0.8	5.7	12.2

		(n)	隣近所との人間関係	店舗・事業所の営業状況	とくにない
居住地区別	神着	(81)	6.2	－	71.6
	伊豆	(79)	10.1	－	63.3
	伊ヶ谷	(35)	8.6	2.9	68.6
	阿古	(171)	8.2	2.9	60.2
	坪田	(123)	10.6	2.4	65.9

(全体と比べて10ポイント以上高いものに  網掛け)

“噴火前と比べて良くなったもの”について、回答者世帯の現在の居住地区別にみると、「道路などの整備」との回答は「伊豆地区」で24.1%と2割台半ばを占め高くなっている。「泥流、火山ガス、火山噴火など防災対策」は「伊豆地区」で21.5%と2割強を占め、「阿古地区」でも18.1%と2割弱である。

噴火前と比べて良くなったもの【世帯主年齢別】

	(n)	道路などの整備	港湾・空港などの整備	金融機関や公民館などの公共施設の整備	上下水道の整備	泥流、火山ガス、火山噴火など防災対策	医療機関・医療設備	子どもの教育環境	高齢者福祉	地域のまとまり	家族との人間関係
世帯主年齢別	20～29歳 (4)	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30～39歳 (21)	23.8	-	-	-	14.3	4.8	4.8	-	4.8	4.8
	40～49歳 (58)	15.5	-	1.7	5.2	24.1	1.7	3.4	5.2	-	6.9
	50～59歳 (101)	15.8	5.0	2.0	5.0	17.8	2.0	-	3.0	4.0	7.9
	60～69歳 (97)	13.4	5.2	2.1	4.1	13.4	4.1	1.0	4.1	4.1	6.2
	70～79歳 (150)	11.3	1.3	0.7	2.0	16.7	3.3	-	4.7	5.3	8.0
	80歳以上 (56)	12.5	1.8	1.8	3.6	10.7	8.9	1.8	5.4	10.7	8.9

	(n)	隣近所との人間関係	店舗・事業所の営業状況	とくにない
世帯主年齢別	20～29歳 (4)	-	-	75.0
	30～39歳 (21)	9.5	4.8	61.9
	40～49歳 (58)	6.9	1.7	58.6
	50～59歳 (101)	9.9	1.0	60.4
	60～69歳 (97)	6.2	2.1	68.0
	70～79歳 (150)	9.3	2.0	65.3
	80歳以上 (56)	10.7	1.8	71.4

(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

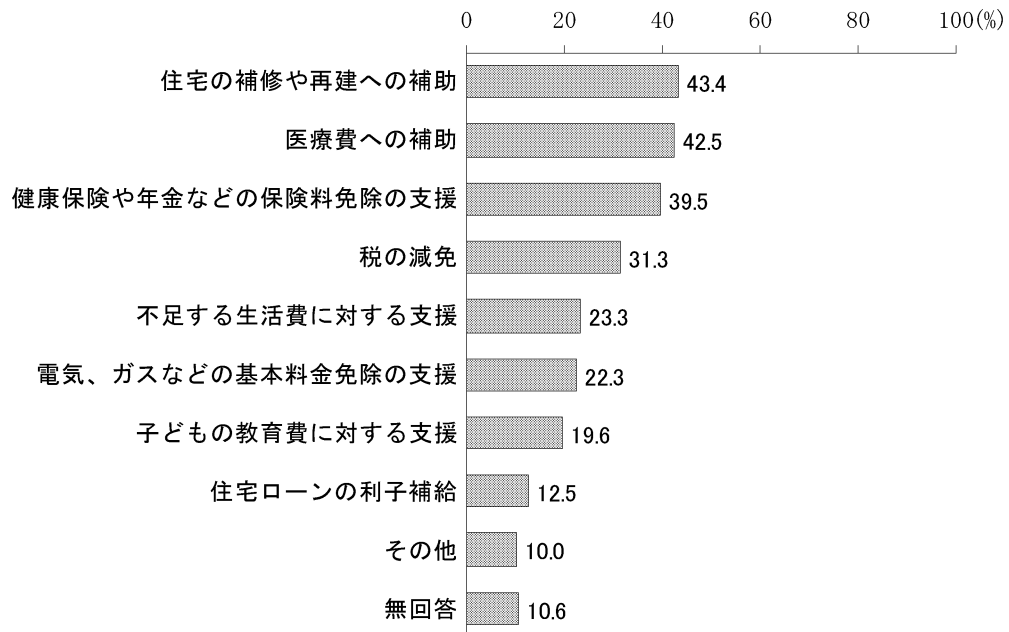
世帯主の年齢別にみると、「道路などの整備」との回答が〔30～39歳〕で23.8%と他の年代層よりも高くなっている。

(2) 復興支援として必要なもの

◇ 「住宅の補修や再建への補助」と「医療費への補助」が4割強

問16 あなたは、行政等が行なう復興支援として、どのようなものが必要だと思いますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

n = 489



行政等が行なう復興支援として必要と思う施策については、「住宅の補修や再建への補助」との回答が43.4%と最も高く、続く「医療費への補助」が42.5%で、ともに4割強となっている。次いで「健康保険や年金などの保険料免除の支援」が39.5%とほぼ4割である。

【現在の居住地区別／世帯主年齢別／家族構成別／帰島時期別】

	(n)	子どもの教育費に対する支援	健康保険や年金などの保険料免除の支援	電気、ガスなどの基本料金免除の支援	住宅ローンの利子補給	税の減免	医療費への補助	不足する生活費に対する支援	住宅の補修や再建への補助	その他	無回答
居住地区別	神着 (81)	16.0	33.3	24.7	11.1	28.4	44.4	11.1	40.7	3.7	14.8
	伊豆 (79)	19.0	39.2	22.8	7.6	27.8	41.8	22.8	34.2	12.7	13.9
	伊ヶ谷 (35)	34.3	62.9	40.0	14.3	37.1	51.4	28.6	57.1	2.9	5.7
	阿古 (171)	19.3	35.1	14.6	11.1	28.7	35.1	22.2	35.7	9.9	9.4
	坪田 (123)	18.7	43.1	26.0	17.9	37.4	49.6	31.7	57.7	14.6	8.9
世帯主年齢別	20～29歳 (4)	75.0	25.0	-	-	-	75.0	25.0	25.0	25.0	-
	30～39歳 (21)	42.9	23.8	23.8	4.8	23.8	47.6	4.8	14.3	28.6	9.5
	40～49歳 (58)	41.4	36.2	20.7	20.7	34.5	43.1	24.1	51.7	6.9	10.3
	50～59歳 (101)	18.8	30.7	20.8	17.8	35.6	35.6	23.8	45.5	13.9	11.9
	60～69歳 (97)	13.4	41.2	16.5	8.2	37.1	44.3	25.8	47.4	8.2	5.2
	70～79歳 (150)	14.0	44.7	28.0	11.3	28.0	43.3	24.0	42.0	10.0	12.7
	80歳以上 (56)	12.5	50.0	23.2	8.9	25.0	44.6	23.2	39.3	1.8	12.5
家族構成別	単身世帯 (166)	14.5	37.3	21.1	6.6	24.1	39.2	25.9	32.5	10.2	12.7
	夫婦のみ (167)	15.0	40.1	25.1	16.8	41.9	46.1	25.7	52.7	9.0	9.6
	2世代世帯 (135)	28.1	40.7	19.3	13.3	28.9	41.5	19.3	42.2	11.1	10.4
	3世代世帯 (17)	41.2	41.2	23.5	23.5	17.6	47.1	11.8	64.7	5.9	5.9
	その他 (4)	50.0	50.0	50.0	-	25.0	50.0	-	50.0	25.0	-
時期別	平成17年4月以前 (357)	21.6	38.9	22.1	12.6	28.6	42.6	21.6	42.9	9.0	11.8
	平成17年5月以降 (130)	13.8	40.8	22.3	12.3	38.5	42.3	27.7	44.6	13.1	6.9

(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

回答者世帯の現在の居住地区別にみると、「住宅の補修や再建への補助」との回答は〔坪田地区〕(57.7%)と〔伊ヶ谷地区〕(57.1%)で6割弱を占め高くなっている。なお、〔伊ヶ谷地区〕では、「健康保険や年金などの保険料免除の支援」が高く、62.9%と6割強を占めている。

世帯主の年齢別にみると、「子どもの教育費に対する支援」との回答は〔30～39歳〕(42.9%)、〔40～49歳〕(41.4%)で4割強となり、年齢層が低くなるほど高くなっている。また、「健康保険や年金などの保険料免除の支援」は〔80歳以上〕で50.0%と高く半数を占めている。

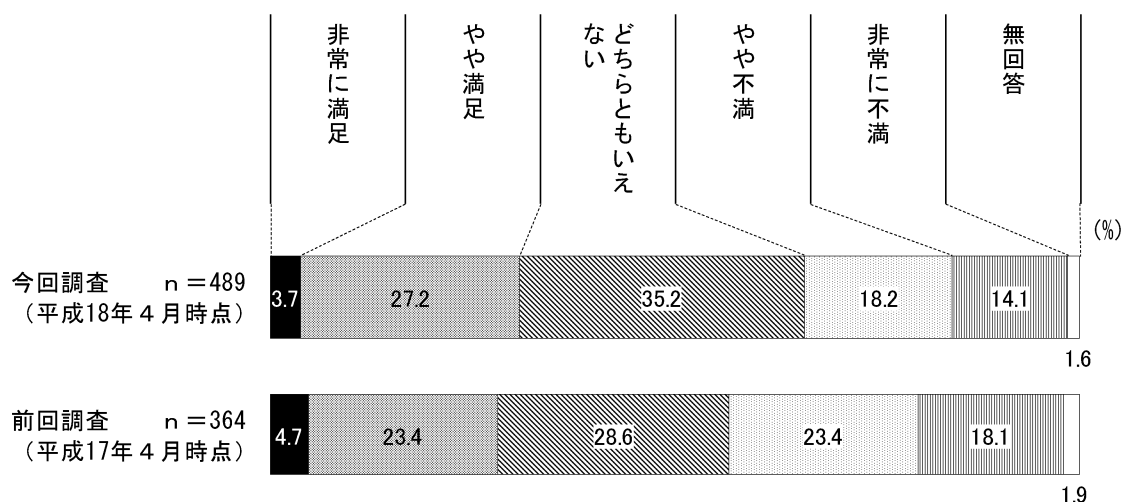
帰島後の家族構成別にみると、「住宅の補修や再建への補助」との回答は〔3世代世帯〕で64.7%と高く6割台半ばを占め、〔夫婦のみ〕で52.7%と過半数を占めている。また、〔夫婦のみ〕では「税の減免」が41.9%と4割強を占め、他の年齢層よりも高くなっている。

帰島した時期別にみると、「税の減免」との回答は〔平成17年4月以前〕（28.6％）よりも〔平成17年5月以降〕（38.5％）の方が10ポイント高くなっている。

(3) 復興状況の満足度

◇ 『満足』と『不満』がともに3割強で並ぶ

問17 それでは、全般的には、現在の復興の状況に対して、あなたはどの程度満足していますか。
あてはまるものを1つお選びください。



現在の復興状況に対する全般的な満足度については、『不満（計）』（「やや不満」と「非常に不満」の合計）との回答が32.3%となり、『満足（計）』（「非常に満足」と「やや満足」の合計）の30.9%を若干上回っている。なお、「どちらともいえない」が35.2%と最も高く3割台半ばとなっている。

前回調査結果では、今回と同様「どちらともいえない」が28.6%と最も高くなっているが、その割合は3割に満たない。一方、『不満（計）』が41.5%と4割を超えている。

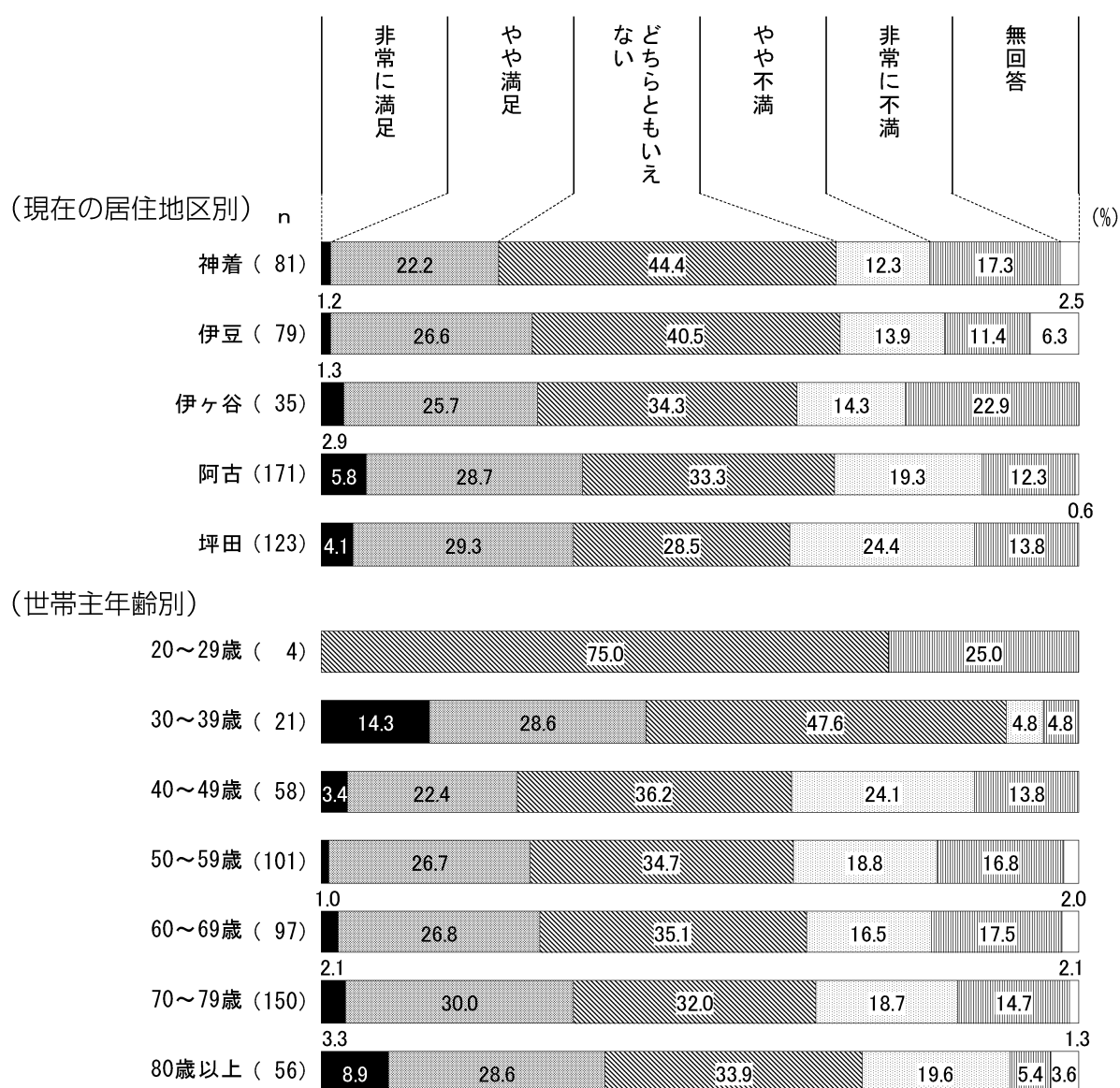
回答者世帯の現在の居住地区別にみると、『満足（計）』との回答は〔阿古地区〕（34.5%）や〔坪田地区〕（33.4%）でやや高い。一方、『不満（計）』は〔坪田地区〕で高く38.2%と4割弱となっている。なお、「非常に不満」との回答は〔伊ヶ谷地区〕で22.9%と他の地区に比べて高く2割を超えている。

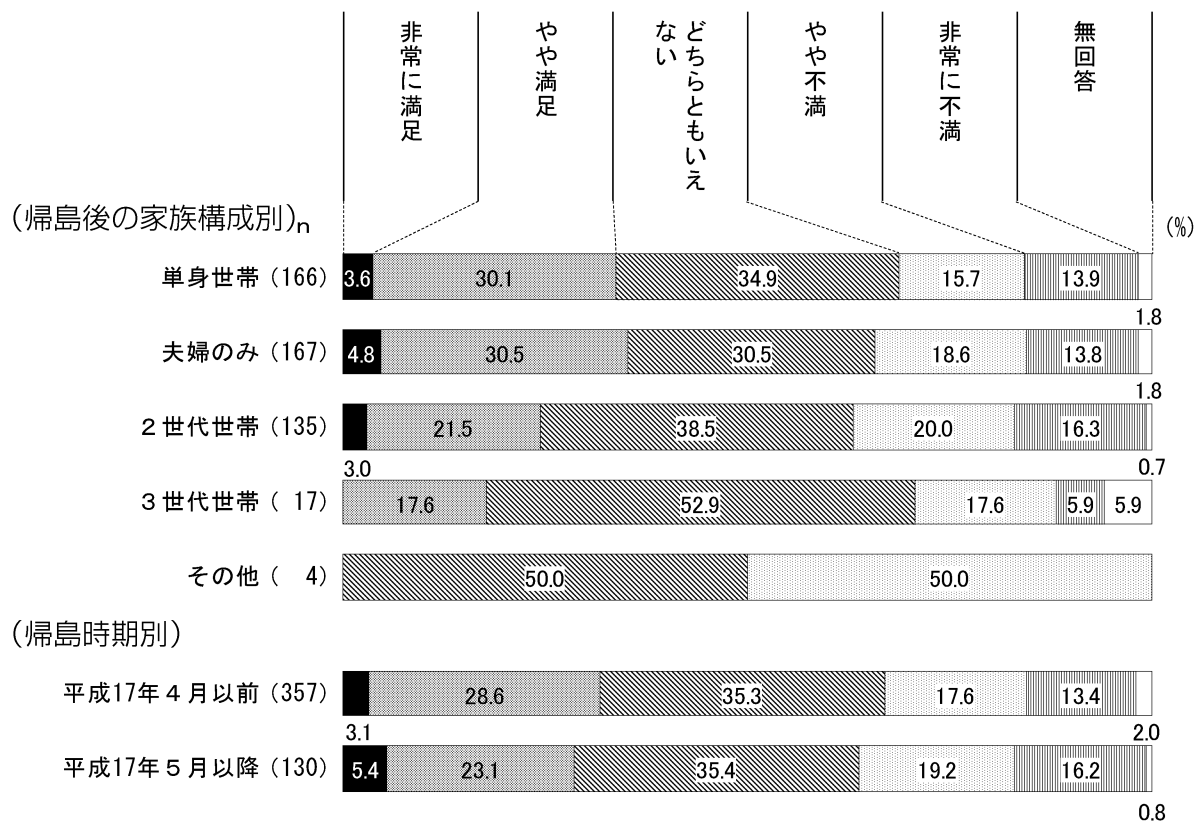
世帯主の年齢別にみると、『満足（計）』との回答は〔30～39歳〕で42.9%と最も高く4割強となっている。また〔80歳以上〕（37.5%）と〔70～79歳〕（33.3%）でやや高く3割を超えている。

帰島後の家族構成別にみると、『満足（計）』との回答は[夫婦のみ]（35.3%）や[単身世帯]（33.7%）でやや高い。一方、[3世代世帯]では「どちらともいえない」との回答が52.9%と過半数を占め、「やや満足」は17.6%と1割台半ばに止まっている。

帰島した時期別にみると、『不満足（計）』との回答は[平成17年4月以前]（31.0%）よりも[平成17年5月以降]（35.4%）が4ポイントながら高くなっている。

【現在の居住地区別／世帯主年齢別／帰島後の家族構成別／帰島時期別】

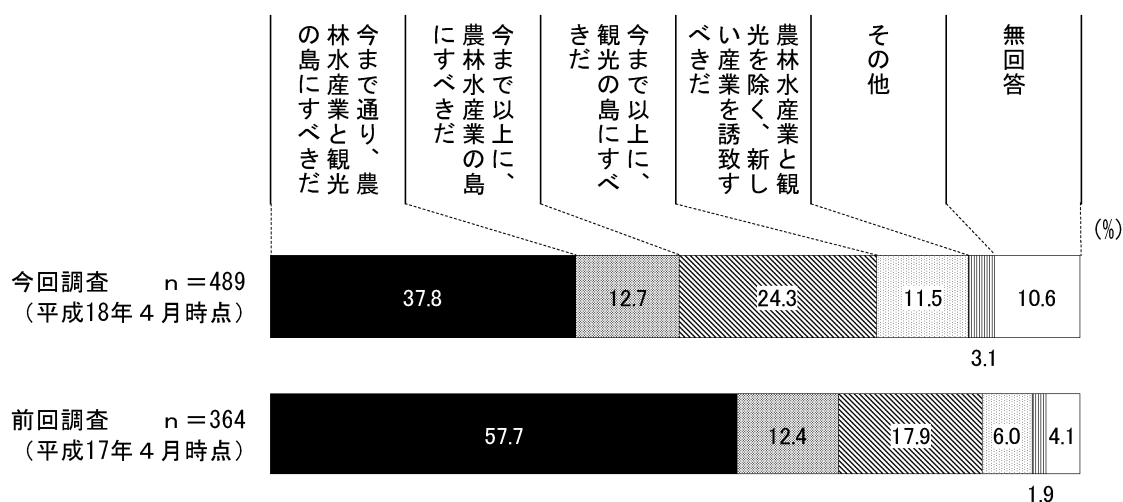




(4) 三宅村の将来像

◇ 「今まで通り、農林水産業と観光の島に」は4割弱

問18 三宅村の将来像について、あなたの考えに一番近いものはどれですか。あてはまるものを1つお選びください。



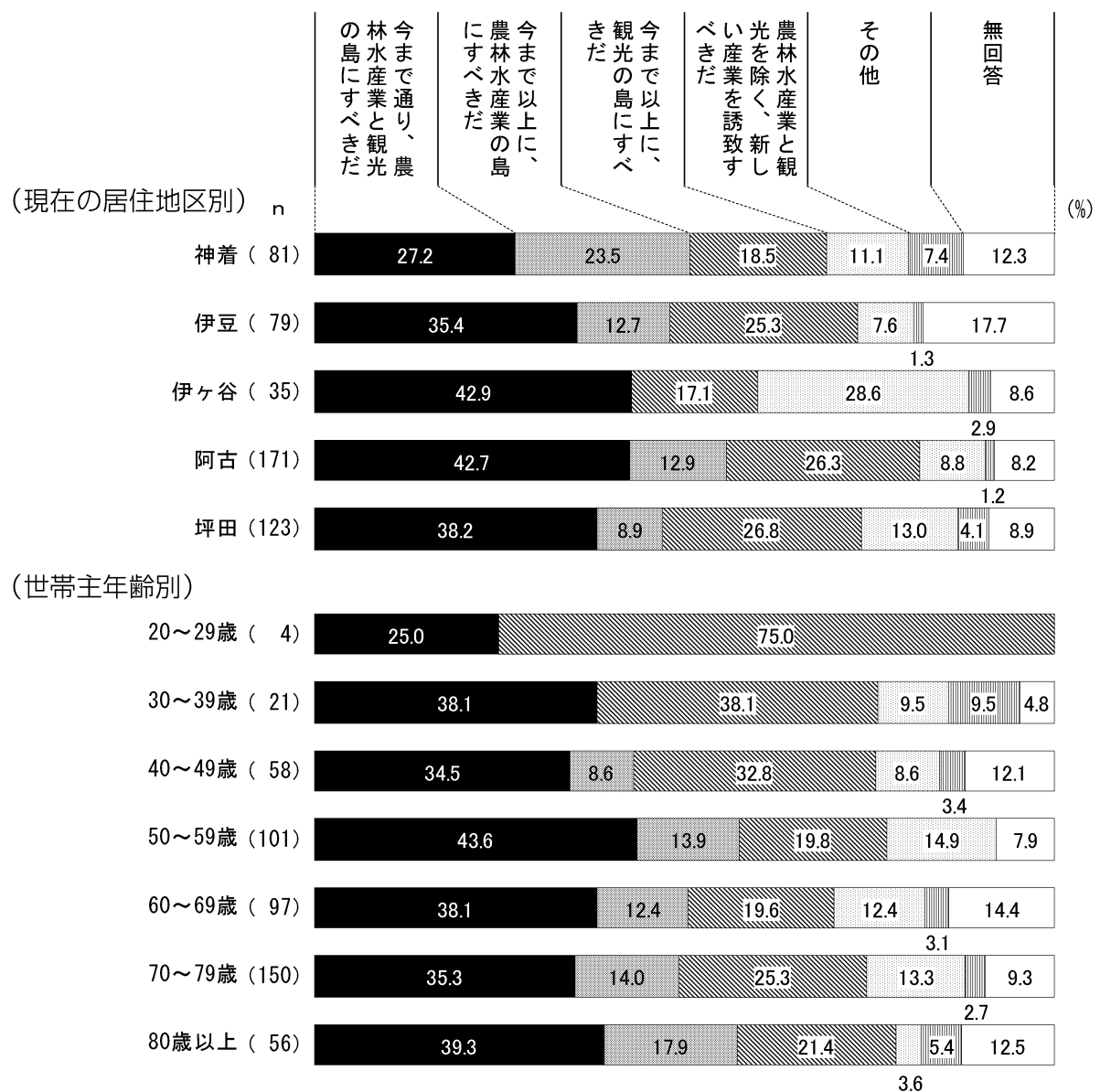
三宅村の将来像については、「今まで通り、農林水産業と観光の島にすべきだ」との回答が37.8%と最も高く4割弱となっている。次いで「今まで以上に、観光の島にすべきだ」が24.3%と高く2割台半ばとなっている。

前回調査結果と比較すると、「今まで通り、農林水産業と観光の島にすべきだ」との回答は57.7%を占めており、今回は20ポイントの減少である。「今まで以上に、農林水産業の島にすべきだ」は変化がなく、「今まで以上に、観光の島にすべきだ」と「農林水産業と観光を除く、新しい産業を誘致すべきだ」は5～6ポイントの増加となっている。

回答者世帯の現在の居住地区別にみると、「今まで通り、農林水産業と観光の島にすべきだ」との回答が〔伊ヶ谷地区〕で42.9%、〔阿古地区〕で42.7%と高くなっており、4割強となっている。一方、この〔伊ヶ谷地区〕では「農林水産業と観光を除く、新しい産業を誘致すべきだ」との回答が28.6%と3割弱となっており、他の地区より比較的高くなっている。

世帯主の年齢別にみると、「今まで通り、農林水産業と観光の島にすべきだ」との回答が〔50～59歳〕で43.6%と高く4割強、〔30～39歳〕と〔60～69歳〕では38.1%と4割弱となっている。〔20～29歳〕や〔30～39歳〕の若年世帯では「今まで以上に、農業の島にすべきだ」との回答がなく、観光主体の傾向が強い。〔40～49歳〕〔50～59歳〕〔60～69歳〕もその傾向にあるが、「農林水産業と観光を除く、新しい産業を誘致すべきだ」との回答も1割を超えている。

【現在の居住地区別／世帯主年齢別】

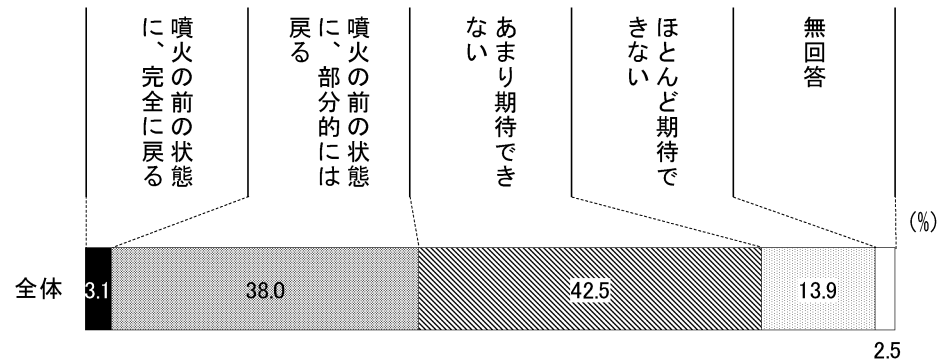


(5) 復興への期待

◇ 『期待できない（計）』が5割台半ば

問19 あなたは、三宅島の復興の状態について、今後、どの程度まで元に戻るとお考えですか。あてはまるものを1つお選びください。

n = 489



今後の三宅島の復興の状態がどの程度まで戻るかという期待については、「あまり期待できない」との回答が42.5%と最も高く4割強となり、「ほとんど期待できない」（13.9%）を合わせると、『期待できない（計）』は56.4%と5割台半ばとなっている。次に回答の割合が高いのは「噴火前の状態に、部分的には戻る」で38.0%と4割弱となっている。

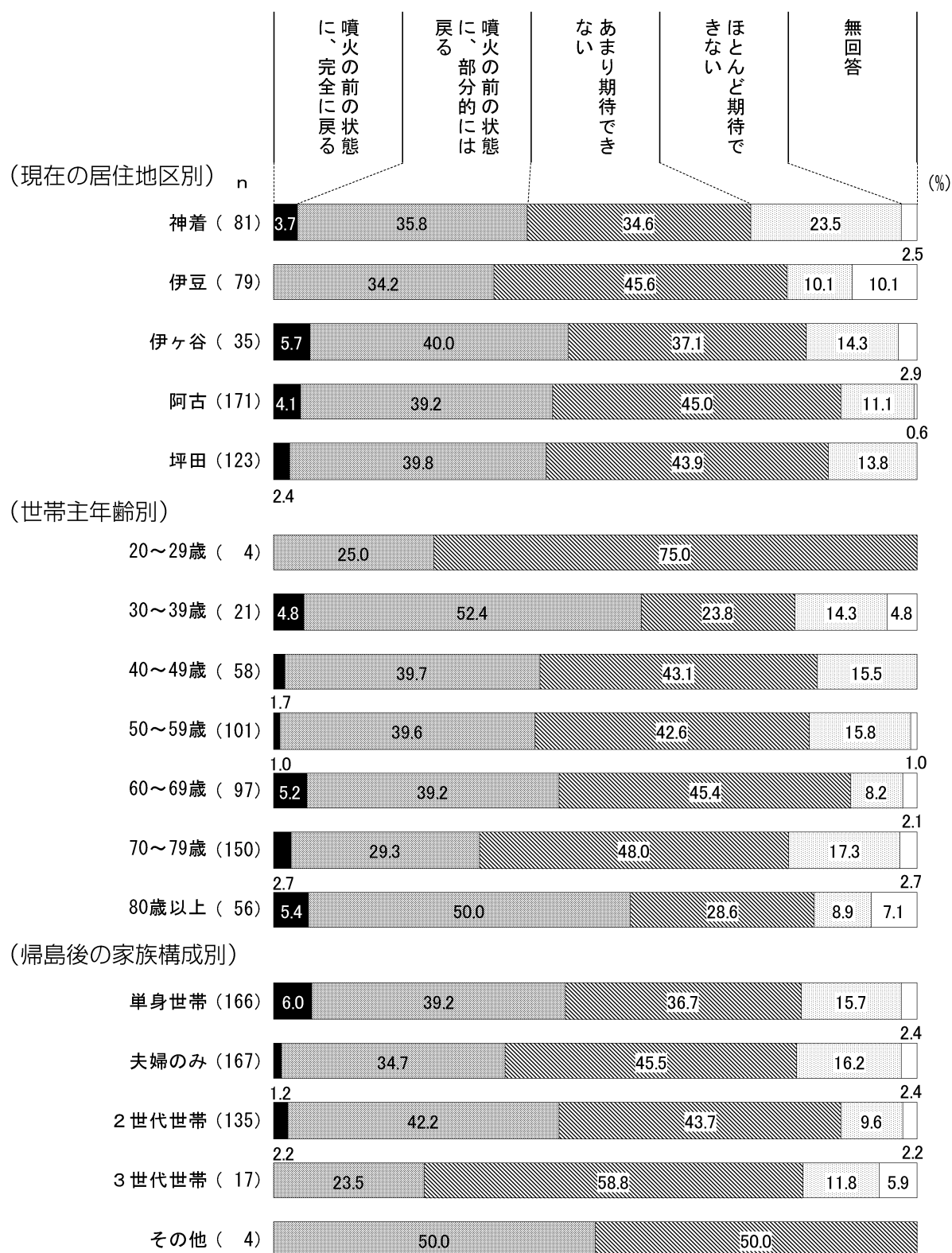
回答者世帯の現在の居住地区別をみると、『期待できない（計）』（「あまり期待できない」と「ほとんど期待できない」の合計）との回答は全体とそれほど違いはみられないが、「ほとんど期待できない」との回答が〔神着地区〕で23.5%と2割強となり高くなっている。

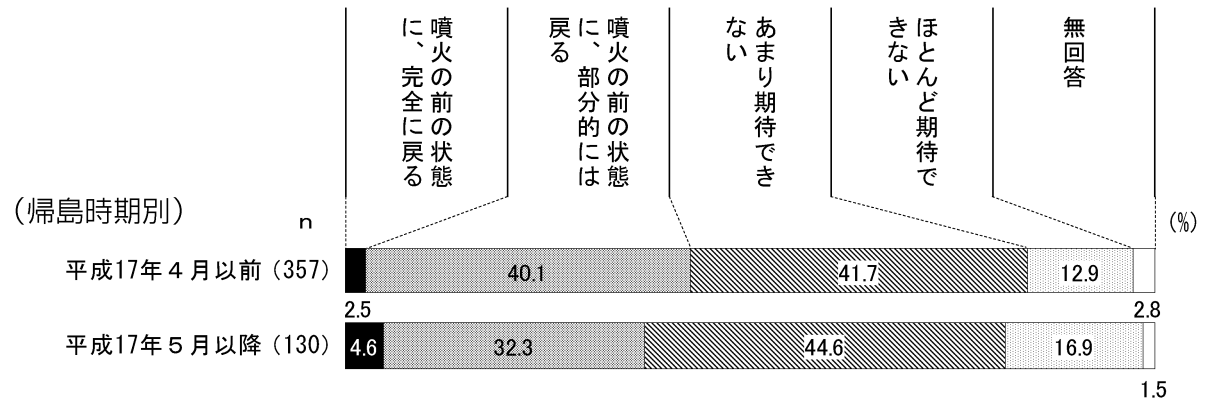
世帯主の年齢別にみると、『期待できない（計）』との回答が〔70～79歳〕で65.3%と高く6割台半ばを占めている。一方、『元に戻る（計）』（「噴火前の状態に、完全に戻る」と「噴火前の状態に、部分的には戻る」の合計）との回答は〔30～39歳〕（57.1%）と〔80歳以上〕（55.4%）で高く、5割台半ばを占めている。

帰島後の家族構成別にみると、『期待できない（計）』との回答が〔3世代世帯〕で70.6%と7割強を占めて高く、次いで〔夫婦のみ〕（61.7%）で6割を超えている。

帰島した時期別にみると、『期待できない（計）』との回答が〔平成17年4月以前〕で54.6%となるのに対し、〔平成17年5月以降〕では61.5%と6割を超えている。

【現在の居住地区別／世帯主年齢別／帰島後の家族構成別／帰島時期別】

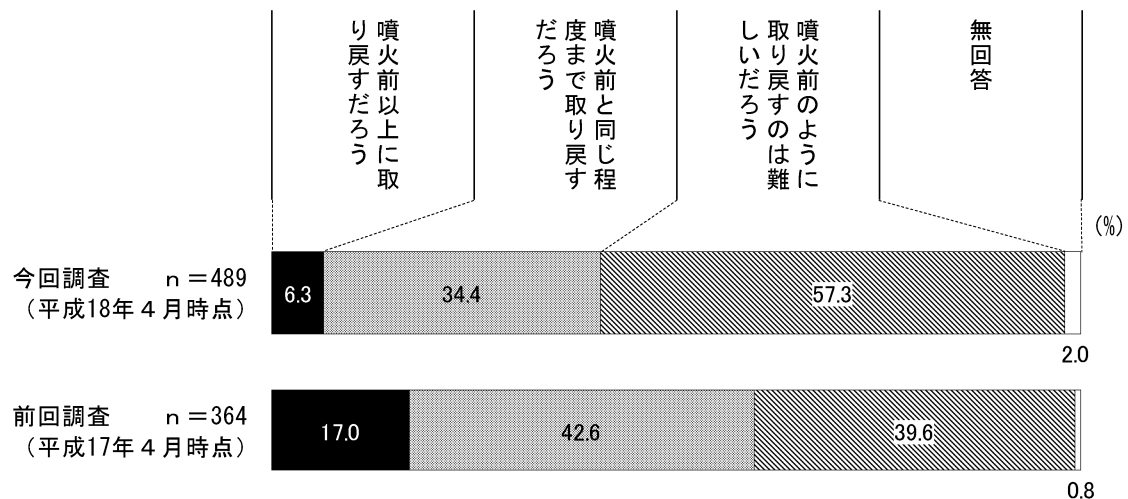




(6) 地域のまとまりの変化

◇ 「取り戻すのは難しい」が5割台半ば

問20 あなたは、三宅島の地域のまとまりは、噴火前と比べて今後はどのようなになると思いますか。
あてはまるものを1つお選びください。



地域のまとまりが噴火前の状態と比較して今後どうなるかについては、「噴火前のように取り戻すのは難しいだろう」との回答が57.3%と最も高く6割弱を占めている。「噴火前と同じ程度まで取り戻すだろう」は34.4%と3割台半ばとなっている。

前回調査結果では、「噴火前のように取り戻すのは難しいだろう」との回答は39.6%と4割弱であったが、今回57.3%と6割弱となっており、悲観的な意見が18ポイント増加している。

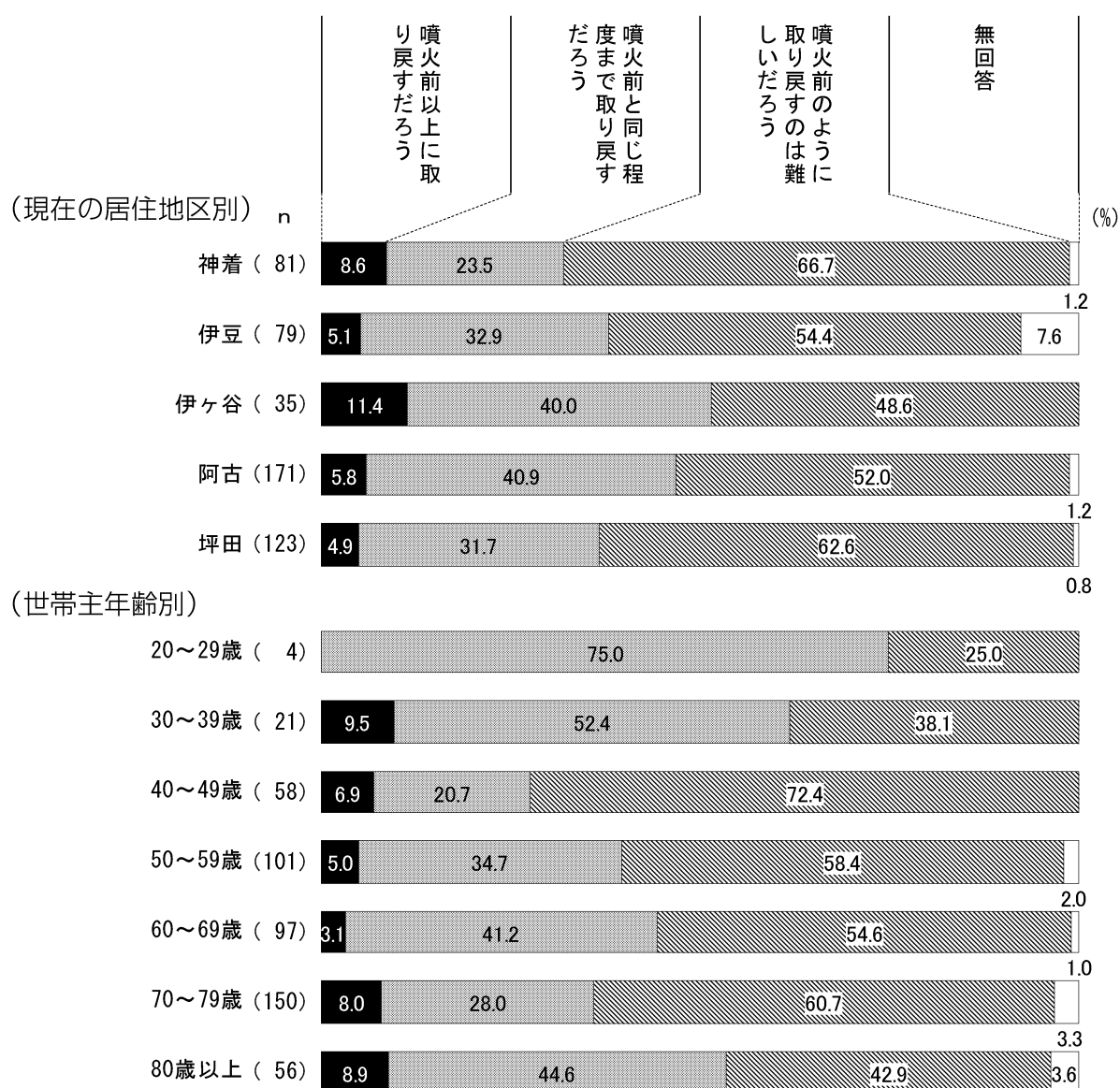
回答者世帯の現在の居住地区別では、「噴火前のように取り戻すのは難しいだろう」との回答は[神着地区]で66.7%と高く6割台半ばを占め、[坪田地区]でも62.6%と6割を超えて高くなっている。一方、「噴火前以上に取り戻すだろう」は[伊ヶ谷地区](11.4%)のみで1割を超えている。

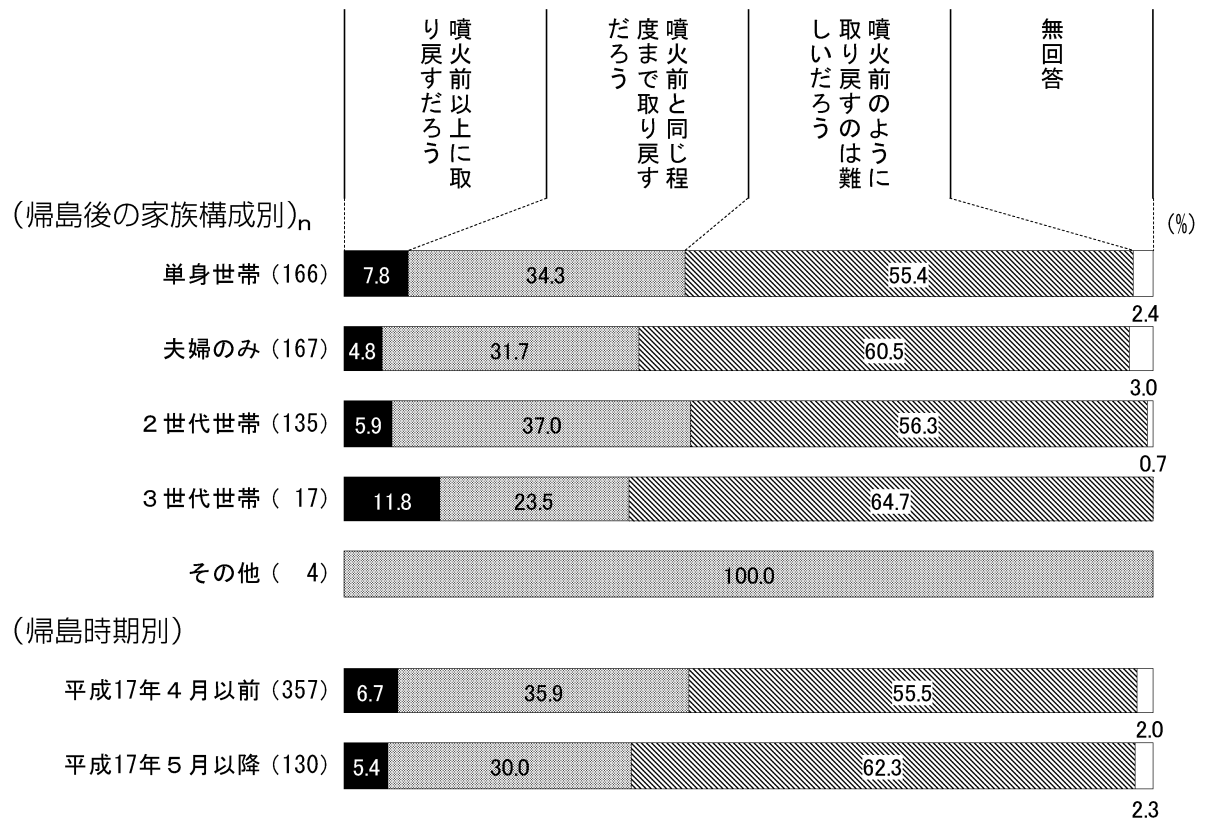
世帯主の年齢別にみると、「噴火前のように取り戻すのは難しいだろう」との回答は[40～49歳]で72.4%と最も高く7割強を占めている。次いで[70～79歳]で60.7%と6割を超えている。

帰島後の家族構成別にみると、「噴火前のように取り戻すのは難しいだろう」との回答は〔3世代世帯〕で64.7%と最も高く6割台半ばを占めており、次いで〔夫婦のみ〕で60.5%と6割を超えている。

帰島した時期別にみると、「噴火前のように取り戻すのは難しいだろう」との回答は〔平成17年4月以前〕で55.5%と5割台半ばとなっているのに対し、〔平成17年5月以降〕では62.3%と7ポイント高くなっている。

【現在の居住地区別／世帯主年齢別／帰島後の家族構成別／帰島時期別】

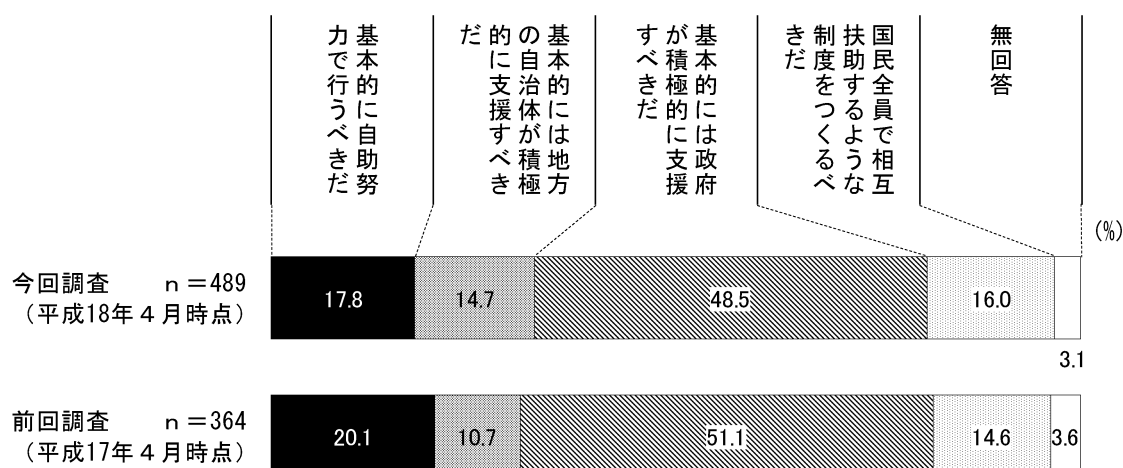




(7) 自然災害発生時の生活再建

◇ 「基本的には政府が積極的に支援すべきだ」が5割弱

問21 自然災害が起こった場合、どのような形で生活を建て直していきべきだと思いますか。あてはまるものを1つお選びください。



自然災害が起こった場合の生活再建の方法については、「基本的には政府が積極的に支援すべきだ」との回答が48.5%と最も高く半数近くを占めている。次いで「基本的に自助努力で行なうべきだ」(17.8%)、「国民全員で相互扶助するような制度を作るべきだ」(16.0%)、「基本的には地方の自治体が積極的に支援すべきだ」(14.7%)の順となっている。

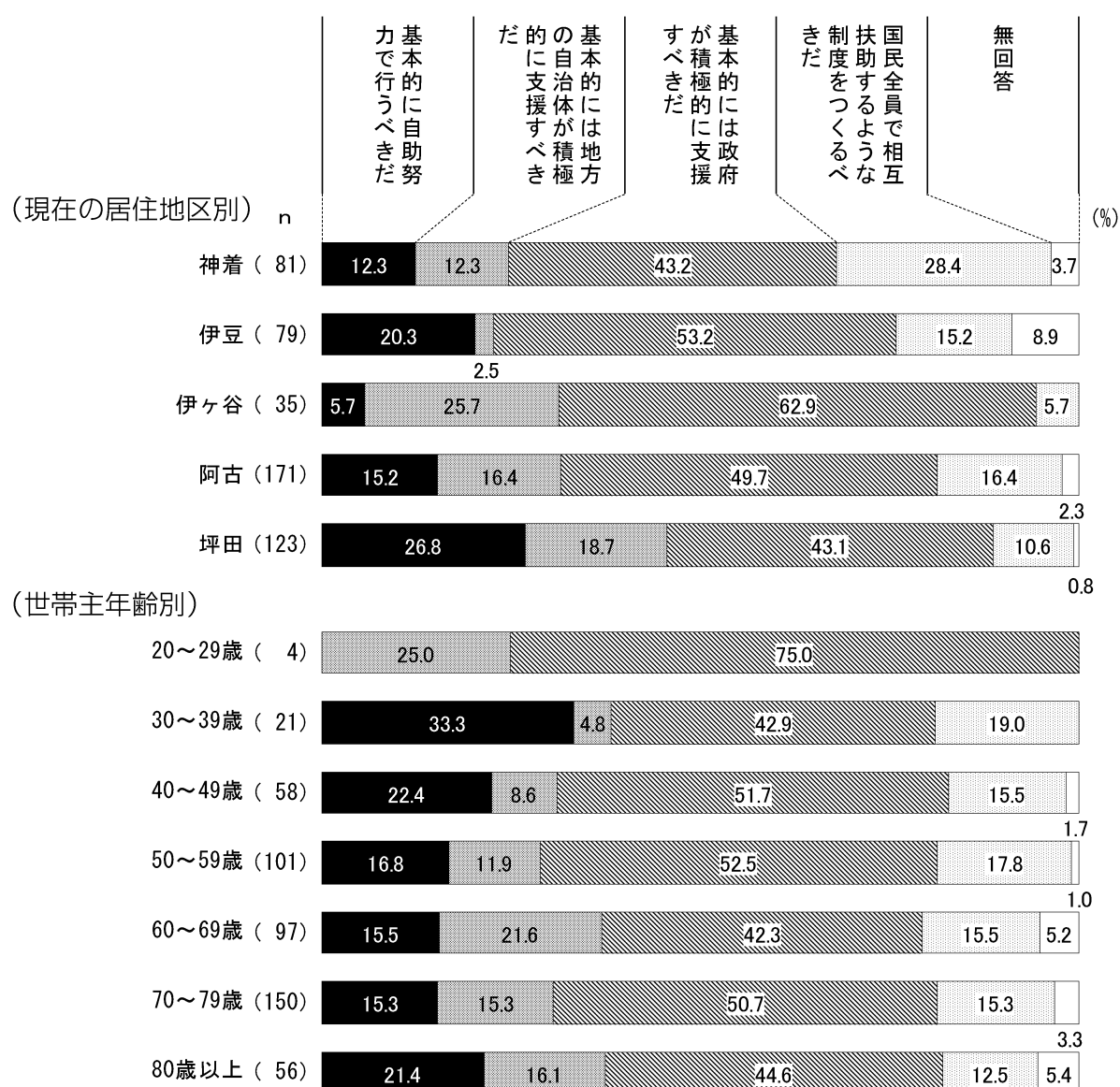
回答者世帯の現在の居住地区別では、「基本的には政府が積極的に支援すべきだ」との回答は[伊ヶ谷地区]で62.9%と高く6割強を占めている。[伊豆地区]でも高く53.2%と過半数となっている。一方、「基本的に自助努力で行なうべきだ」との回答は[坪田地区](26.8%)と[伊豆地区](20.3%)で高くなっている。

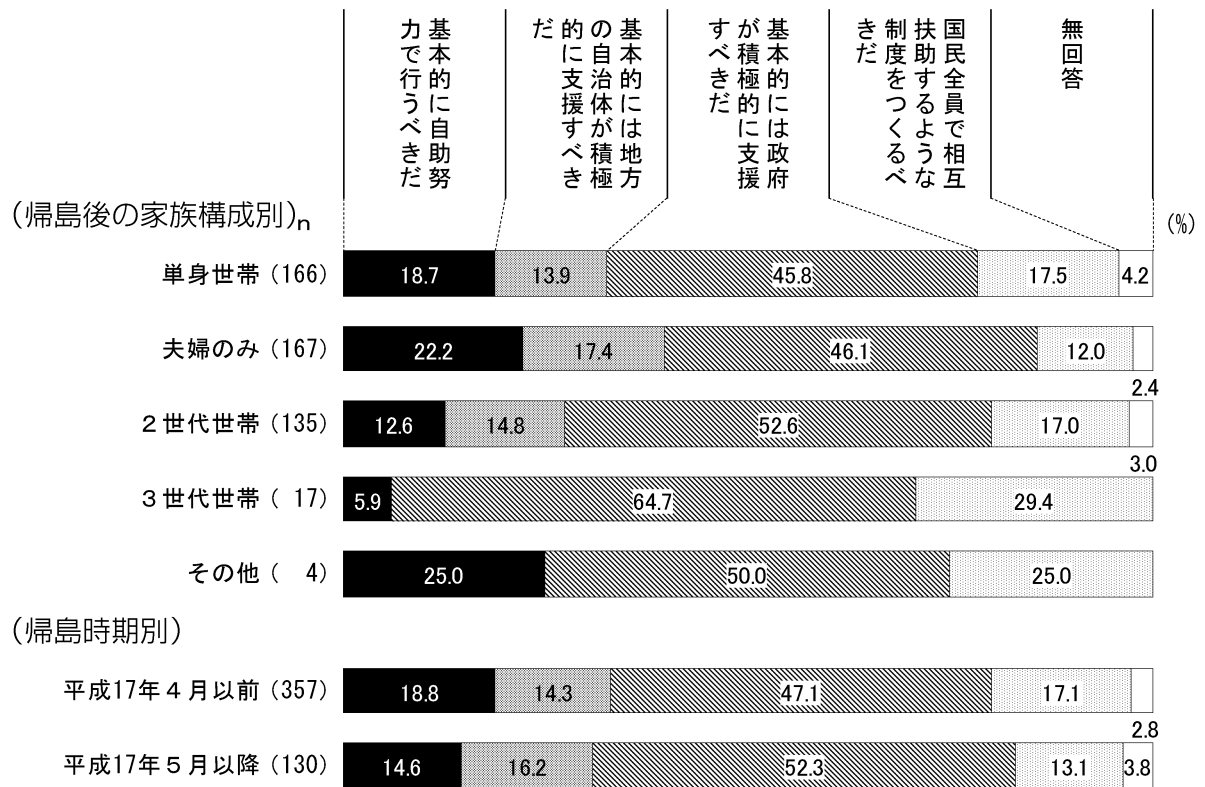
世帯主の年齢別にみると、「基本的には政府が積極的に支援すべきだ」との回答は[50～59歳](52.5%)、[40～49歳](51.7%)、[70～79歳](50.7%)で過半数となっている。一方、「基本的に自助努力で行なうべきだ」との回答は[30～39歳]で33.3%と3割強となり、[40～49歳](22.4%)と[80歳以上](21.4%)でも2割を超えている。

帰島後の家族構成別にみると、「基本的には政府が積極的に支援すべきだ」との回答は「3世代世帯」で64.7%と6割台半ばを占め、次いで「2世代世帯」で52.6%と過半数となっている。「基本的に自助努力で行なうべきだ」との回答は「夫婦のみ」で22.4%と2割を超えている。

帰島した時期別にみると、「基本的には政府が積極的に支援すべきだ」との回答は「平成17年4月以前」で47.1%と5割を切るのに対し、「平成17年5月以降」では52.3%と過半数を占めている。また、「基本的に自助努力で行うべきだ」との回答は「平成17年4月以前」で18.8%と2割弱となっている。

【現在の居住地区別／世帯主年齢別／帰島後の家族構成別／帰島時期別】



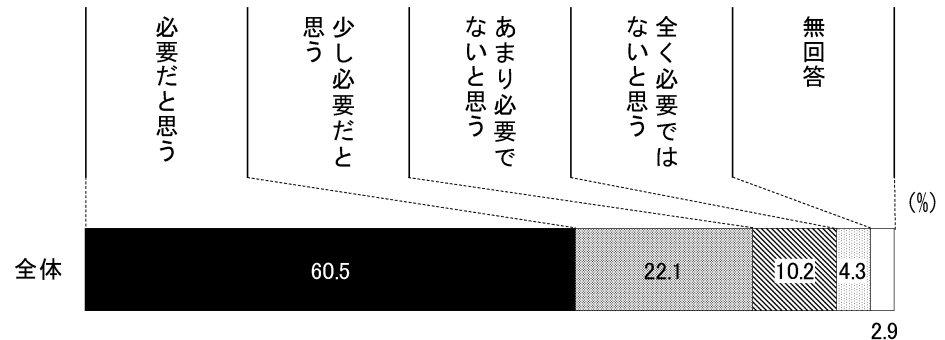


(8) 村民の意思を反映する新しい住民組織の必要性

◇ 『必要だ（計）』は8割強

問22 復興を進めるにあたって、村民の意思を反映する新しい住民組織が必要だと思いますか。あてはまるものを1つお選びください。

n = 489



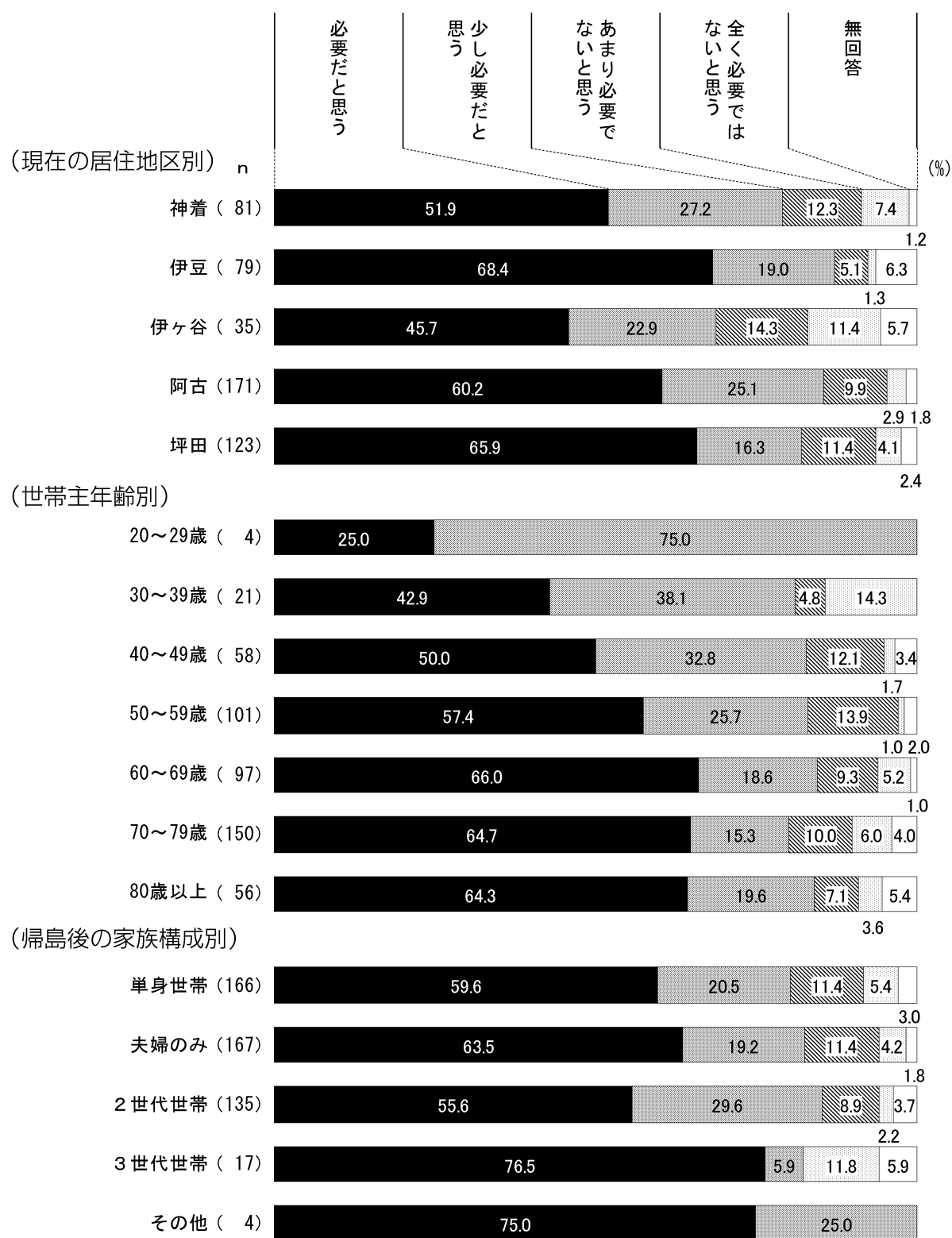
三宅村の復興を進めるにあたっての、村民の意思を反映する新しい住民組織の必要性については、「必要だと思う」との回答が60.5%と最も高く6割を占めている。次いで回答の割合が高い「少し必要だと思う」（22.1%）を合わせると、『必要だ（計）』は82.6%と8割強が必要性を感じている。

回答者世帯の現在の居住地区別では、「必要だと思う」との回答は〔伊豆地区〕で68.4%と高く7割弱を占め、次いで〔坪田地区〕では65.9%と6割台半ばとなっている。なお、〔伊ヶ谷地区〕では45.7%と比較的低く半数に満たない。

世帯主の年齢別にみると、『必要だ（計）』（「必要だと思う」と「少し必要だと思う」の合計）との回答には年代層の違いはみられない。しかし、「必要だと思う」との回答は年齢層が上がるほど割合が高くなっている。〔30～39歳〕で42.9%と4割であるが、〔40～49歳〕（50.0%）で5割となり、〔60～69歳〕（66.0%）以降では6割台半ばを占める。

帰島後の家族構成別にみると、「必要だと思う」との回答は〔3世代世帯〕で76.5%と最も高く7割台半ばを占めている。

【現在の居住地区別／世帯主年齢別／帰島後の家族構成別】

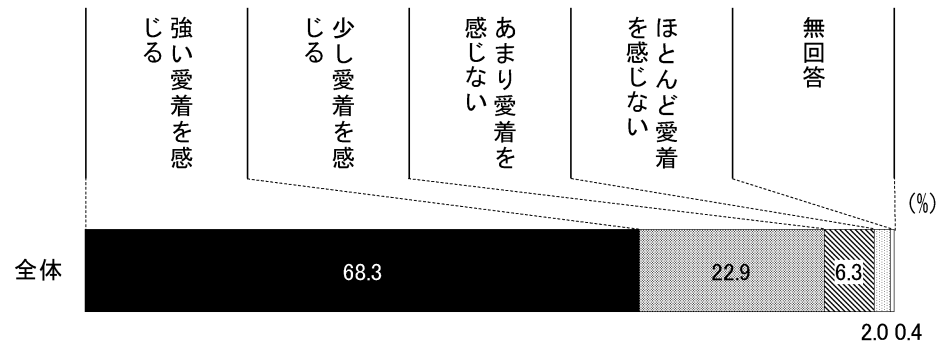


(9) 三宅島への愛着

◇ 『愛着を感じる（計）』は9割

問23 あなたは三宅島に対して、どの程度愛着を感じていますか。あてはまるものを1つお選びください。

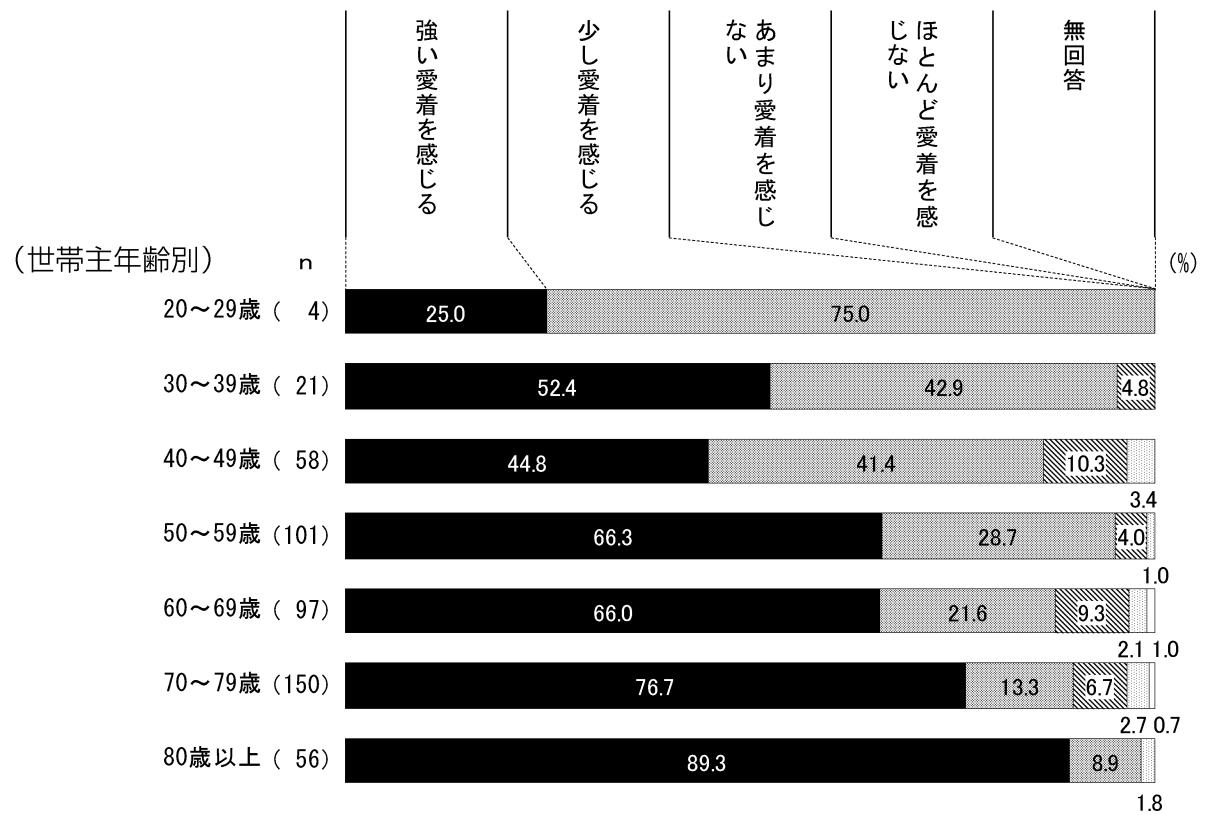
n = 489



三宅村への愛着については、「強い愛着を感じる」との回答が68.3%と最も高く7割弱を占めている。次いで高い「少し愛着を感じる」（22.9%）を合わせると、『愛着を感じる（計）』は91.2%と9割強となる。

世帯主の年齢別にみると、『愛着を感じる（計）』は全ての年代層で8割台半ばを超え高くなっている。また、年代層が上がるほど「強い愛着を感じる」との回答は高くなっており、[80歳以上]では89.3%とほぼ9割を占めている。

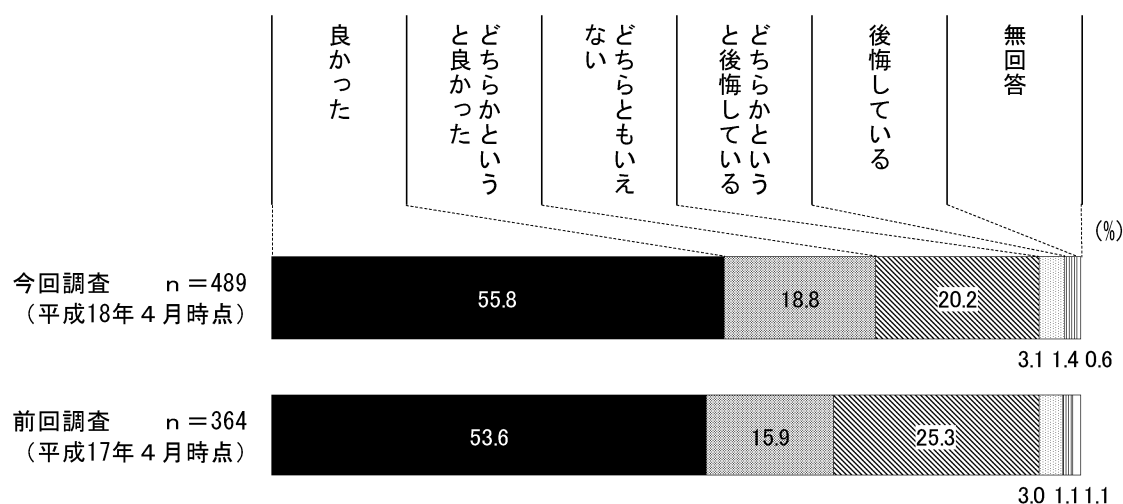
【世帯主年齢別】



(10) 帰島してみての思い

◇ 『良かった（計）』は7割台半ば

問25 それでは、全体として、あなたは帰島されたことをどう思っていますか。あてはまるものを1つお選びください。

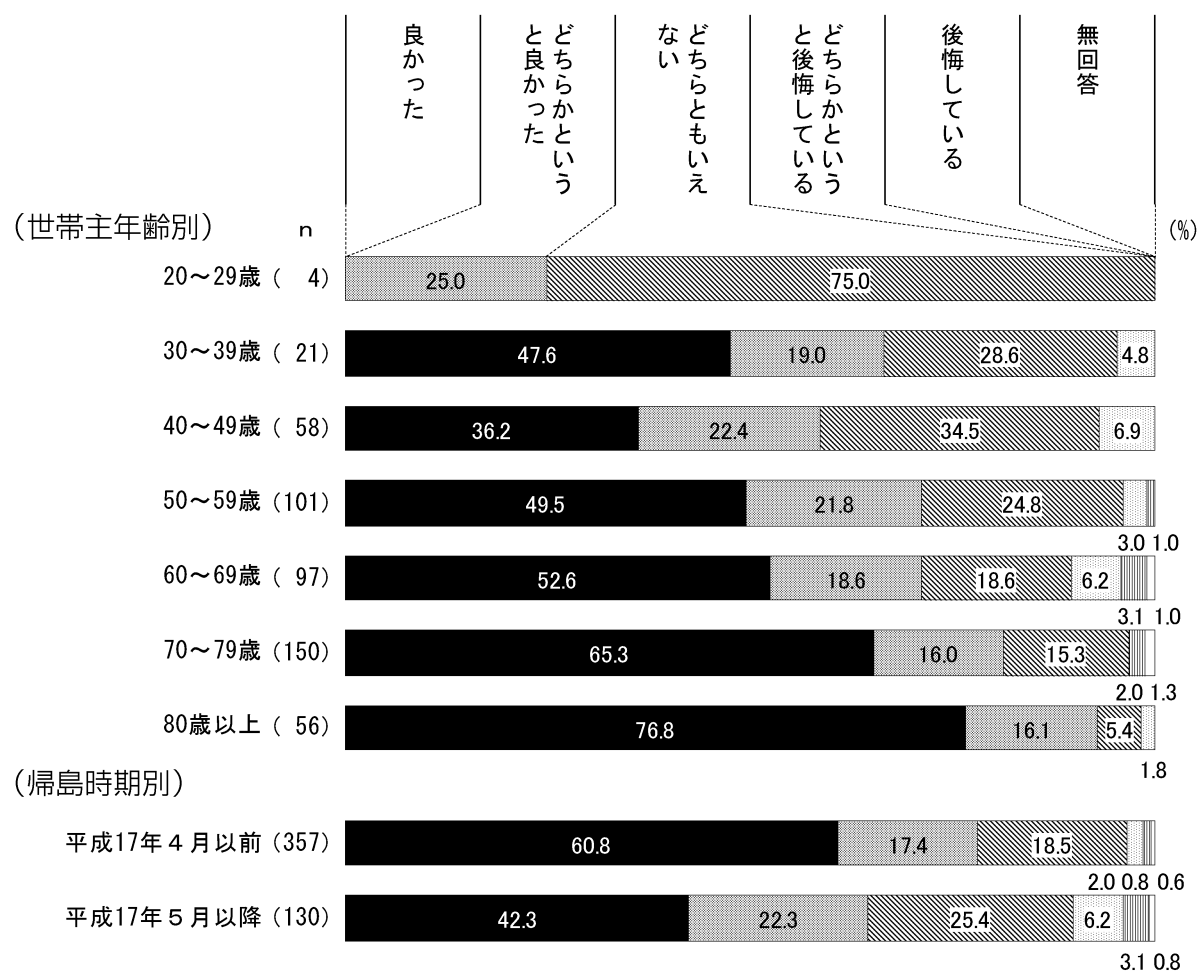


全体として、帰島したことについて良かったかどうかを尋ねたところ、「良かった」との回答が55.8%と最も高く5割台半ばを占め、これに「どちらかという良かった」（18.8%）を合わせると、『良かった（計）』は74.6%と7割台半ばとなる。

世帯主の年齢別にみると、年代層が高くなるほど「良かった」との回答が高くなる傾向があり、[80歳以上]で76.8%と7割台半ばを占めている。一方、「どちらともいえない」は年齢層が高くなるほど低くなっている。

帰島した時期別にみると、「良かった」との回答は[平成17年4月以前]で60.8%と6割を超え、[平成17年5月以降]（42.3%）よりも19ポイント高くなっている。

【世帯主年齢別／帰島時期別】



(11) 復興についての意見や要望

問24 今後の三宅村の復興について、ご意見やご要望がありましたら、どんなことでも結構ですのでお聞かせください。

〈神着地区 男性〉

- 飛行機の就航。国営カジノの実現。(神着／男性／30 歳代)
- もう少し時間をかけて復興させる。4 年間分の長期的な計画を立てて復興させてほしかった。環境の破壊につながるから。島内での復興は島民企業に受注することで経済循環がされるからそれを考えてほしい。限りある予算を無駄な事業に使うのではなく余った予算を翌年に持ち越して（実際にできないのは知っているが）、役に立つ事にまとめて使ってほしい。(神着／男性／40 歳代)
- 弱者(障害者、子ども)に対し、村や都は対策をとるべきである。公共工事にまわす歳費を一割でもいいからまわせ。医療、介護、教育の充実。安心できる島なら人は集まると思う（特に若い人）。期待はしてないが…。(神着／男性／40 歳代)
- 村の復興ということについて本気で考えてほしい。何が必要なのかを考えて欲しい。砂防やインフラ整備もとても大切だが島での生活していくのに必要な事はそれだけではないはず。情報をもっとオープンにしてほしい。(神着／男性／40 歳代)
- 役場は答えた事に責任を持って欲しい。はっきり答えて欲しい。(神着／男性／50 歳代)
- イケ谷港に定期船を。海上交通の安全のために。(神着／男性／50 歳代)
- 島民の数が噴火前より少なくなり島の商業に活気がない。物価の高さもあるが、一部の島民は直接生活物資を本土より購入するようだ。運賃の負担までが消費者にのしかかり、より安いものを望むのは当然だが、復興の基本を住民が壊しているように思える。砂防ダムだらけの島での観光業に期待は持てない。土建業も先が見えてる。商業も先細りだと島民自身が住みにくい環境を作っている。(神着／男性／50 歳代)
- 村民にかかる復興を早急に行うこと。ベーシックな部分が大切だと思う。村民あつての行政である。(神着／男性／50 歳代)
- 将来像が全く見えない。生活基盤対策が全く見られず、復興事業の終了後の人口減は益々増える。きちんとした政策が必要。住民が何を望んでいるか、住民の意見を聞き、自活できる体制作りが必要である。(神着／男性／50 歳代)
- 坪田高濃度地区に自宅があるが「居住禁止」で現在は村営住宅に避難させられている。村条例で強制的避難指示を決めているならば、住宅家賃は免除されるべき。18 年 3 月一杯で、この支援策は打ち切られた。極めて不満である。(神着／男性／60 歳代)
- 村民の声をもっと反映してほしい、吸い上げてほしい。(神着／男性／60 歳代)
- イ.他人任せではなく島民一人ひとりが自分の事として考えなければならない。ロ.何か意見を求める時、自治会長とか何々団体の長とかを任命するが、それでは新しい意見は出てこない、そういう人達は三宅島しか知らない。(神着／男性／60 歳代)
- 住む所を何とかしたい。ガスが出ていても住む気はあったのに住めない現状は 100%おかしい。(神着／男性／60 歳代)
- 役場の人はもっとしっかりした行動をとってほしい。(神着／男性／60 歳代)

- （村役場に対して）高濃度地区に家がある人は自宅に戻して、東京で帰れないでいる人たちを村営住宅に入れてあげればよい。自分の家が高濃度地区だから帰れない（避難状態）のに、住宅代を取るのはおかしい。（神着／男性／70 歳代）
- 強制的に帰らさせた（引越費用負担に期限があった）。水道水を買うのに金がかかる。保険料が上がるのが辛い。（神着／男性／70 歳代）

〈神着地区 女性〉

- また噴火するのではないかと不安が常にある。この先ガスの影響も、ものすごく不安である。（神着／女性／40 歳代）
- ガスの臭いがイヤになるので、早く、いつ火山ガスが止まるか教えてください。（神着／女性／50 歳代）
- 噴火の地震で住宅が歪んでいる。島内での耐震技術向上を希望します。年々害虫（シロアリ、羽アリ、ガ、等）が増えているようで駆除対策と、それに方法を。（神着／女性／50 歳代）
- 交通の便が悪いため、観光に頼るのは無理だと思います。何か地場産業をおこし若者が働ける場所がほしいです。（神着／女性／50 歳代）
- 安定的な交通手段の確保が必要です。（神着／女性／50 歳代）
- 家を壊すだけの場合でも、ある程度の補助がほしい。（神着／女性／60 歳代）
- 再度、三宅島が噴火し、村民の支援対策をした時、村に一言、言いたい。支援対策に格差のない様、お願いしたい。支援金ゼロの我家では自力で家の修理をした。（神着／女性／60 歳代）
- 自力での復興が最大級だと思いますが、何でも支援できるからと支援と思っていると限度があると思います。若い人たちが事業開始する等への支援をしてあげて欲しいと思います。（神着／女性／60 歳代）
- 不便（船、買物、飲料水・・・1 年買い続けている）。何でも高い（灯油、食品）。生活しづらい。（神着／女性／60 歳代）
- （自分に目で見て）山の上の方に金をかける必要があったら他に税金を使えたら良かったのに。（神着／女性／60 歳代）
- 作物の物流をもっとしっかりしてほしい。働き口が少ない。ガスが不安。（神着／女性／60 歳代）
- 補助金が全く足りない（泥流が入った家にも補助を）。高濃度地帯の方が補助されている。島の住民として見放されている（取り残された）。役場がダメだ。1～2 年で復興できる訳がない。先の見通しがなくてない等。運賃が上がっている（船）、ガソリン代。村が貧乏だから復興。（神着／女性／70 歳代）
- 年寄りにもわかりやすい制度を作してほしい。（神着／女性／70 歳代）
- 島での催し物（楽しみ）を増やしてほしい。年金では食べていけないので補助がほしい。働く所がほしい。物が高くて生活できない。（神着／女性／80 歳以上）
- 老人ホーム開園。老人ホームを増やしてほしい。（神着／女性／80 歳以上）
- お年寄りに優しい街にしてほしい。（神着／女性／80 歳以上）
- 特産品（例ふきの佃煮）、明日葉の受け入れをもっとどうにかしてほしい。農産物等。噴火場所だから、なかなか受け入れてくれない（本土の人には品質が悪いと思われるから）。（神着／女性／80 歳以上）
- みんな同じ気持ちを持って、復興にあたっていきたい。（神着／女性／80 歳以上）

- ・ガスさえなければ元に戻る。(神着／女性／80歳以上)
- ・このままでいいです。ガスが止まって若者がきたら、元に戻る。37年前の噴火の方がすごかった。(神着／女性／80歳以上)
- ・噴火の状態がいつもと違って驚いた。老体に急な坂道は辛い。(神着／女性／80歳以上)
- ・日本中で頻繁に起きている地震を考えると、三宅の今後がとても不安になる。山の本当の現状が知りたい。(神着／女性／年齢不詳)
- ・地割れが起きているが対処をしてくれない。どうにかしてほしい(村役場、村会議員)。村役場の人が現場を見て回るべきだ。(神着／女性／年齢不詳)

〈伊豆地区 男性〉

- ・休日に心や体を休める施設か、レジャー施設（ボウリング）等の充実を考えてほしい。住民の団結力がほしい(今の「島」としての組織のまとまりを強くしたい。新しい組織はいらない)。(伊豆／男性／30歳代)
- ・人口が3千人に満たない小さな島なのだから、もう少し住民と行政が膝を突き合わせて話せる場を設けるべき。我々住民は行政が、三宅島をどうしたいのかがまるで見えない。何もかもが、なし崩しになっている様で怖い歯がゆい。(伊豆／男性／30歳代)
- ・島内外の人々が楽しめるレジャー施設を作るべきだ。(伊豆／男性／30歳代)
- ・とりあえず、医療関係を良くしてほしい。東京との交通の便、特に飛行機をしっかりとしてほしい。(伊豆／男性／50歳代)
- ・村民と行政との意見の場を設けてほしい。仕事の場がほしい。(伊豆／男性／50歳代)
- ・この後、20～30年後の若い世代に引き継がれるのなら、新しい三宅島が創造されると思う。(伊豆／男性／50歳代)
- ・国の援助をお願いしたい。ガス濃度の高い区域の住民を、濃度の低い地域に住まわせるための援助を国がすべきだ。(伊豆／男性／70歳代)
- ・今の村長は村民の方向を向いていない。東京都の方ばかり見ている。村民との対話を怖がっている。荒れた農地を復興させた位が目立った善政で後はありきたりで村民に役立った村政とは思えない。ガスは人間への影響は殆どない。高濃度地区への住民の居住を許すべきだ。高濃度地区住民の村営住宅の家賃の徴収は許せない。徴収するなら高濃度地区の自宅に戻る事を私は考える。家賃は徴収、高濃度地区の自宅に住めないではひどすぎる。村政を抜本的に改めよ、雄山の噴火を災い転じて福となすべきである。雄山の噴火口を観光に利用せよ。地熱発電、風力発電、波浪発電の各地の経緯を視察し観光の目玉とせよ。そのため、新たに企業課を設けよ。農業だけでなく畜産も考えよ、全部村の費用ではなく、民間の活力を生かすよう NPO 法人等を育て村民のやる気を起こさせる事だ。(伊豆／男性／70歳代)
- ・若者の働く場所を作り、今後の未来像を村として作るべきだ。(伊豆／男性／70歳代)
- ・若い人の職場があれば良いが、現状では難しい。(伊豆／男性／80歳以上)
- ・現在、伊豆地区では郵便局も再開していない。他に、金融機関もないので、車の運転ができない人、また、老人は、大変困っている。何をおいても、郵便局の再開をしてほしい。(伊豆／男性／80歳以上)
- ・金融機関の整備、設置。一般銀行、郵便局、農漁協等。サービス業の整備。個人商店等の支援。農漁協の整備。特養老人ホームの早期実施。空路の早期実現が急務である。(伊豆／男性／80歳以上)

- 郵便局と農協の廃止に伴い、高齢者は非常に困っている。元通りに復活させてください。(伊豆／男性／80 歳以上)
- 三宅村の復興計画は容易ではないが、村民が進んで参加できる計画の作成をお願いします。(伊豆／男性／80 歳以上)
- 年の関係で身体が動けないので、それが自分 1 番心配です。自分は 1 歳の時、北海道からきたので三宅島にいるのは約 80 年ですが、これからも心配です。(伊豆／男性／80 歳以上)

〈伊豆地区 女性〉

- 1.若い人に帰ってきて貰いたいと言う割には住む場所や働く場所がない。2.保育園、学童がとても不便だと思う。保育園→スクールバスを出すなど。働く親にもっと協力した方がいいと思う。学童→何も準備が出来てないのに開いたように見える。3.これから子どもを産もうとしている人には三宅島は大変。産科等の先生にもっと来て貰いたい。4.観光客はメディアなどを通して三宅島は危ないと思っているから、それをどう楽しませるか等を考えて(イベント等やって)お客を呼んだ方がいい。楽しい事がないとお客さんも来ないと思う。※復興について言えば、もっとたくさんあるが、皆それは同じだと思う。住民が、こうしてほしい、あーしてほしい、と言っても結局村が動いてくれないと、どうしようもない事もあるので、もっと頑張っしてほしいです。皆で協力して 1 つずつ考えていく事が大切な…。(伊豆／女性／20 歳代)
- 復興支援に対する住民の考え方を直すことが大事だと思う。三宅の人は自分たちで復興せず、人を頼りにし過ぎ。(伊豆／女性／30 歳代)
- あまり期待しても無理。自分たちの努力が必要。(伊豆／女性／50 歳代)
- 島外へ出る足の確保。(伊豆／女性／50 歳代)
- 高齢化率 40%、70~90 代の方が、単身で生活しているケースが多くあり。介護保険サービスや隣近所、親戚等、見守りはしているが、在京の家族は、なかなか来島して親を見回ることができない、していない。欠航の多い船は、予定が未定で、来島できない場合も多い。空路再開を強く望む→足が確保されなければ観光客も来ない。不必要では...と思う道路工事が気になる。それよりも枯れた木をチップにして土にまき植林する事に金を使ってほしい。離島はどのみち細々と自給自足的に生活していけばよいのだと思う。何年かおきに噴火があると分かっている島に、先祖代々にせよ、私のように、他から移って来たにせよ、自ら選択して住んでいるのだから自分達で自助努力をしなくてはと思う。(伊豆／女性／50 歳代)
- 親と子どもと住んでいて、東京都、国では収入が合算して 1 千万円を超える家には引越金も支援金もなく、この不公平なやり方には非常に不満です。住宅の補修代にお金がかかるので困っています。(伊豆／女性／50 歳代)
- やっぱ農業・漁業を立て直す、さかんにする行政の手助けが必要だと思う。都知事が言うようなイベントではなく、末永く暮らせるために産業を興す。(伊豆／女性／50 歳代)
- もっと不公平のないようにしてもらいたい。(伊豆／女性／60 歳代)
- 現在、私には何の生きがいもない。今の所、自分の事は出来るが、今後、体が悪くなって、郵便貯金、金融なし、店もきちんとした所なしでは、上京しなくてはと思っている。つまらない。淋しい生活です。楽しみにしていた帰島でしたが、思うような住民組織ではありませんでした。もっと私達の事考えてほしい。1 人では何も出来ない。今のうちに子どもの所に行き安心して生活できるようにしたい。(伊豆／女性／60 歳代)
- 今まで十分、お世話・援助を受けて生きてきているので。(伊豆／女性／70 歳代)

- 雄山の有毒ガスが終息しない限り、観光客などが多数来島して島のより活性化は期待できないのではないか。ただ、帰島しただけで希望のある諸条件が満たされないのでは、日常生活は、単に島への愛着だけが支えでしかない。早く警報放送のない、昔のよりよい三宅島になるように、心から願っています。(伊豆／女性／70 歳代)
- わからない。もう、高齢のためどうしようもない。(伊豆／女性／70 歳代)
- 一時も早く飛行場の復興を要望しますと共に島民1人1人が自分だけ見つめないで家に住む事のできない方々の立場も考えてあげる優しい心を持って生活していけば今迄以上の(癒し)の住み良い島になって行くのではと思っています。小さなことですが島のイメージチェンジが出来る様な気がします(どうぞ三宅島を良い島に…) お力を貸してください。(伊豆／女性／70 歳代)
- 温泉や空港が早く復興してほしいと願っております。高齢者にとって特に温泉が必要です。(伊豆／女性／70 歳代)
- 水道がこのままでいいのか。みんな水を買って飲んでいる。水道水を飲んでも大丈夫なのか。自分の家に帰りたい。(伊豆／女性／70 歳代)
- 高齢者福祉を最も取扱って頂きたいと思います。(伊豆／女性／70 歳代)
- 全てがあまり便利ではないので交通、船だけでなく1日も早く飛行機が島の足になって上京等、出来る事を念願しています。年をとる程いい便が欲しいと思っています。(伊豆／女性／70 歳代)
- 三宅島は今の姿ではなくコンクリート(ダム)とダンプカーばかりで静かな三宅島が1日も早く緑の島になることを願っています。海は荒れる日が多く船も欠航ばかりで島から出掛けるのも帰島するのも心配で上京する事にためらいを感じます。(伊豆／女性／70 歳代)
- 医療福祉施設の強化。郵便局、農協等の復活。信用組合の人の巡回の復活。(伊豆／女性／80 歳以上)
- 年を取ったので、皆様(近所・家族)の世話になるばかりで、わからない。(伊豆／女性／80 歳以上)
- 島民の人口をもっと増やす対策を。(伊豆／女性／80 歳以上)
- 今まで以上の観光や豊かな島でいてほしいです。(伊豆／女性／80 歳以上)

〈伊ヶ谷地区 男性〉

- この島には産業がない。今後メインになるのは、観光。その素材を生かしていく、積極的な姿勢が必要。行政ではなく、民間、つまり自分たちで復興していくべき。(伊ヶ谷／男性／40 歳代)
- 医療をもっと充実させてほしい。(伊ヶ谷／男性／40 歳代)
- ①観光産業の新展開を工夫してほしい。本当の意味でのエコツーリズムを全島的に導入するための村民世論づくりや社会的普及基盤づくり。②あくまで、素晴らしい三宅島の自然環境の保全を全ての復興に優先させてほしい。この島の自然が、今の私たちの財産だと思っています。(伊ヶ谷／男性／50 歳代)
- 交通機関を充実させてほしい。(伊ヶ谷／男性／60 歳代)
- 元の通に戻る努力を住民・行政、どちらもすべき。話し合いの場をよく持つべき。航路問題を早期に解決しないとイケない。(伊ヶ谷／男性／60 歳代)
- 伊ヶ谷港を使わない限り、三宅島は発展しない。(伊ヶ谷／男性／60 歳代)

- 年をとっているのに、何も言えないが、交通機関と生活の基本的条件が揃っていない。そこからではないか。高濃度地区の住民の意見が全く聞き入れられない。気の毒だ。(伊ヶ谷／男性／70 歳代)
- 天候に左右されない港を作ってほしい。全天候型の交通機関がほしい。飛行場が使えるようにしてほしい。(伊ヶ谷／男性／70 歳代)
- 冠婚葬祭費が多すぎる。(伊ヶ谷／男性／70 歳代)
- 役場がしっかり動いてほしい。(伊ヶ谷／男性／70 歳代)
- 復興はどちらともいえない。(伊ヶ谷／男性／80 歳以上)

〈伊ヶ谷地区 女性〉

- 空港を早く再開してほしい。医療面（専門家診療の充実）。子どもの教育、子どもが活動できる場所を充実させてほしい。交通機関の充実。物価が高い。(伊ヶ谷／女性／30 歳代)
- 交通機関を充実させてほしい。(伊ヶ谷／女性／40 歳代)
- 早く老人ホームを元に戻してほしい。元の規模以上の施設が必要になるはず。(伊ヶ谷／女性／40 歳代)
- 公園などに、遊具施設が全くないのが、気にかかる。(伊ヶ谷／女性／40 歳代)
- 国や都の言うがまま、ではなく村の方からも、もっと積極的に意見を言うべき。(伊ヶ谷／女性／40 歳代)
- 飛行場を早く復興してほしい。(伊ヶ谷／女性／50 歳代)
- 近くに店がない。ガスさえ止まってくれれば。(伊ヶ谷／女性／60 歳代)
- お店がないので開いてほしい。生活の基本が整っていない。(伊ヶ谷／女性／60 歳代)
- 最小限の生活ができる体制を整えてほしい（店とか、交通とか）。(伊ヶ谷／女性／60 歳代)
- 自然と徐々に復興していったほしい。(伊ヶ谷／女性／70 歳代)
- 若い人を呼んでほしい。(伊ヶ谷／女性／70 歳代)

〈阿古地区 男性〉

- もう少し期間をおいて避難指示を解除すべきであった。インフラの整備も良いが、例えば個々の世帯に対する支援を主にするというのも良かったかもしれない。というのも、もしまた噴火するかもしれない状況を考えてインフラの整備をというのもあまり意味がないかもしれないから。(阿古／男性／40 歳代)
- 現在は復興事業があり圏外からの人々が十分働いているので仕事のある内は良いが本年で終わりになるらしいので来年以降、島の経済暮らしが苦しくなるだろう。今後、本土との格差がますます広がり流通の問題で物価が高くなるのは当たり前。これで消費税、医療費のアップ税金と生活が苦しくなるのは当たり前である。消費税 1 つにしても内地の 5%と地方の 5%は違いがある。(消費までの流通間の経済)(阿古／男性／40 歳代)
- 空港の復興、再開。(阿古／男性／40 歳代)
- 帰ってきた島民全員での交流会のような場。(阿古／男性／40 歳代)
- 空路再開について。ANA の DASH-8 機にこだわらず、新中央航空の 19 人乗りの小型機でも良いと思う。1 日も早い再開を願っています。保育園のスクールバス運行を考えてほしい。3 園→1 園になった今、送迎が大変です。(阿古／男性／40 歳代)

- 水をキレイに。環境（森・海）の悪化をどうにかしてほしい（酸が強い）。(阿古／男性／50 歳代)
- 建設業だけが 1 人勝ち（儲け）の風潮が流れているように思えてならない。観光事業も三宅の中特に宿（民宿旅館等）が減り、受け入れも出来ていない中での観光は無理だと思う。地道に一次産業、特に農漁業の足固めを行政にはしっかりやってもらいたいと思う。(阿古／男性／50 歳代)
- 妻は車の運転が出来ないので島内の移動手段として便数を増やしてほしい。(阿古／男性／50 歳代)
- 老人支援ばかりでなく現在働き手としている年代の支援が必要。砂防ダムに多額の金をかけ過ぎる。その分、他に必要とされる所へ支援すべきである。(阿古／男性／50 歳代)
- 村民の声と村長・議会の声を 1 つにして住民の声をしっかりと都、国に伝えるべきである（一部の声だけではなく、全員の声を）。田畑を開墾するだけでなく、ガスに強い野菜を考える。農協・漁協へのしっかりとした指導。(阿古／男性／50 歳代)
- 医療施設や農協を増やしてほしい。(阿古／男性／50 歳代)
- 火山ガスが出てるのがわかっているのに、村営住宅の通風孔が閉められなくなっている。砂利は杖をついて歩きにくい。(阿古／男性／50 歳代)
- 復興の形が目に見えない。見える形で。身近な所に農業畑の整備、ガスの影響緩和等。(阿古／男性／50 歳代)
- みんなが帰って来る事が一番。(阿古／男性／50 歳代)
- 老人が多い→医療体制をしっかりと。足の問題（東京直行のヘリコプターを使えば良い、1 日/2 便〜3 便）。(阿古／男性／50 歳代)
- 生活するにはよい場所だったが、仕事がない。農家は非常にきつい（農業補助）。(阿古／男性／50 歳代)
- 三宅村職員のやる気のなさ。(阿古／男性／50 歳代)
- 温泉施設のできるだけ早い再建。航空機の就航。観光客の誘致（補助も含めて）。(阿古／男性／50 歳代)
- 自治会と役場が協力していくべき。(阿古／男性／60 歳代)
- 義援金に対して。村に対して。三宅村役場に対して。村、都で 5 億以上の義援金があるのに対して村では全村民に配布がなく、どこで義援金が不明になったのか。村の為より、村民が苦しんでいるので一日早い配布を要望したいと思います。復興と申しまして道路ばかりが良くなり建設業だけが大きくなるだけ。年をとり、仕事がなく、村民の事も考えてほしい、村でも考えてほしい。(阿古／男性／60 歳代)
- 無駄なインフラだけが先行している。島民（住民）が安心して生活できる日常の復興が皆無に等しい。(阿古／男性／60 歳代)
- 議会を解散し村長を頭の良い女の人に変える。議員に女性（少なくとも 3 人入れる）を。島国根性をなくさないようにしないとだめだ。日本自体が島国根性で、日本を変えるのはムリ。(阿古／男性／60 歳代)
- 今までどおりがよい。(阿古／男性／60 歳代)
- トイレは汲み取りから水洗にしてほしい。(阿古／男性／60 歳代)
- 新しい観光の目玉を作らないと復興が進まない。船じゃ頼りにならない→飛行機。(阿古／男性／60 歳代)

- 若者を呼び込めるようなスポット、設備を作ってほしい。(阿古／男性／60 歳代)
- お互い助け合っていきたい。(阿古／男性／70 歳代)
- 温泉を再開、税金の使い道を変えるべき→土木に使いすぎ。(阿古／男性／70 歳代)
- 介護の充実、平穏であれば良い。(阿古／男性／70 歳代)
- 住民がバラバラになっている。経済的にも難しい。安全な場所に皆で住めるように。(阿古／男性／70 歳代)
- 年寄りをいじめないでほしい。高齢者の生活支援等。(阿古／男性／70 歳代)
- 現在の三宅島では土建業だけが仕事があり、シルバー人材センターに入会しても避難前のように道路の草刈や草取りが出来なくなっている。土建業が今までシルバー人材センターがやっている仕事を落札するからだ。仕事が無いために生活保護を受ける人が避難前の 2 倍になっていると聞く。ガスによる農作物の被害も多く専業農家が少なくなっている。若い後継者も少なくお先真っ暗な状態である。雇用の場があれば若い人達も島に帰ってくると思うのだが、私の願いでもある。昭和 58 年の大噴火で阿古地区は 500 世帯が溶岩の下になった。家を建てる資金を東京都より借入して復興したが、現在でも大勢の島民がその借入の返済に苦しんでいるのが現状です。働く場所が少ないのが一番の問題だと思う。(阿古／男性／70 歳代)
- 復興はよくやってくれてると思う。(阿古／男性／70 歳代)
- 農業補助（ハウス栽培）。鮮度の良い魚（花・野菜）を運ぶ技術・設備を作る。土木工事（砂防）のムダ。(阿古／男性／70 歳代)
- 医療機関が少なくなった。待ち時間だけが長くなった。噴火前、不自由になったことが多い。(阿古／男性／70 歳代)
- 島で生活保護を受けたい。(阿古／男性／70 歳代)
- 遠慮するところは遠慮し、欲は言わない。(阿古／男性／70 歳代)
- 住民の少子高齢で若者帰らず、過疎が進み、火山ガスの放出が止まらないため、自然環境や社会環境の明るい先行きが望めない。島の将来に夢が持てたら進行中の衰退を食い止められるかも。そのために医療、介護、教育、本土との交通など、そして収入となる産業が興せるか。お金・担い手投入の道なければ自給自足へと進むでしょう。復興の具体的「夢」と「人材」が求められている。(阿古／男性／70 歳代)
- 村の職員は十分よくやってくれている。(阿古／男性／70 歳代)
- 今のやり方ではダメ。行政が言うだけで何も実行しない。もっと本格的に新しい事をやらなければならない。(阿古／男性／70 歳代)
- やる事が生ぬるい。(阿古／男性／80 歳以上)
- つながりは少なくなってきた。温かさがなくなった。避難でバラバラになったから地区でまとまらない。昔のような訳にはいかない。(阿古／男性／80 歳以上)
- 島の若者に復興について積極的に動いてほしい（意見述べるなど）→島の若者に動いてほしい（復興等に）。(阿古／男性／80 歳以上)
- 空港の開港、温泉、村営住宅への補助、バスの増加。(阿古／男性／80 歳以上)
- 若い人の帰島。避難場所をもっと多く。飛行機の就航。港の整備を充実。老人ホームを早く造ってほしい。土木工事後、働いている人の職場の提供。(阿古／男性／80 歳以上)
- いかにして三宅村の復興を村と行政の協力によってやるか（人口増加・対話必要）。(阿古／男性／80 歳以上)

- ・ 農業、漁業の復興に知恵を出し合い、盛んにする。観光事業もうまくいく。(阿古／男性／80歳以上)

〈阿古地区 女性〉

- ・ 病院がほしい。ボウリング場が戻ってほしい。(阿古／女性／20歳代)
- ・ ガスが止まって子ども達が自由に遊べるように。(阿古／女性／30歳代)
- ・ 本土の生活に慣れてしまって、こちらに帰ってきて色々生活面で不便が多い。自然が回復してほしい。(阿古／女性／30歳代)
- ・ 空港の再建。(阿古／女性／40歳代)
- ・ 空港の整備。(阿古／女性／40歳代)
- ・ 空港・飛行機の整備。(阿古／女性／40歳代)
- ・ 子どもが遊ぶ児童公園を作ってほしい。今近くにある所は使用禁止になっているが(ボヤがあったので)また使用できる様になるのか。近所にも小さい子供がいるが本当に遊ぶ場所がなく困ってます。阿古にも保育園があれば良い。今の場所では送迎に不便。車がないのでバスがあれば良い。(阿古／女性／40歳代)
- ・ 行政とか村長等には多くの不満があります。「帰島して来なさい」「都営は特別な事情がなければ住めません」等と言っているが、引越代金は各世帯の収入に応じ支給されない世帯が有り(私もその1人)、40代は子供の教育費など共働きしなければ生活していけず、避難中も一生懸命働いていました。そのせいで、引越代は貰えず自費で島に戻らなければなりません。この5年間、何のために働いてきたのでしょうか。働くだけ損をすると何も言えず、腹立たしく思います。帰りたくても引越代金も大変と、帰島できない人が沢山います。村長は何を考えているのでしょうか。私達は好きで避難した訳ではないのに、帰る時は自分達で帰る費用を出せ、とは。避難直後から全て若い世代にはこんな事ばかりです。納得できない。村長も“帰島させる”を目標にしたためか、帰島させれば良いというものではなく、全ての島民を平等に対処してほしい。不平等すぎます。若い人に多く戻ってきてほしいなんて無理です。平等にしなければ若い人は戻ってきません。子育て中の私達にあなた達がどんな事をしてきたが良く考えてほしいと訴えたい。わかってほしいが、どこにぶつけてよいかわからない。まだ書ききれないが終わります。こんな事書いて申し訳ありません。「そうなんだ」と思ってくれるだけでいいです。(阿古／女性／40歳代)
- ・ 復興とは関係ないかも知れないが噴火前より現在の方が地域のまとまりが、家族、隣近所との人間関係が良くなっている。(阿古／女性／50歳代)
- ・ 温泉を作る。医療の充実。(阿古／女性／50歳代)
- ・ 島民の意見を出し合える場(機会)を提供してほしい。虫が多くて困っている。(阿古／女性／50歳代)
- ・ まず人口を増やす努力をすること。ガスに対する対策を講ずること。緑を増やすこと。(阿古／女性／50歳代)
- ・ 復興や仕事のスピードを敏速にしてほしい。(阿古／女性／50歳代)
- ・ 温泉施設があったら良い。(阿古／女性／50歳代)
- ・ 子どもの教育・医療。都・役場の子供への施策がよくない。(阿古／女性／50歳代)
- ・ 若い人に帰ってきてほしい。人口増加政策→そのための環境づくり。(阿古／女性／50歳代)

- 三宅島は噴火の度に全国の皆様にご心配をおかけしております。心からお礼申し上げたいと思います。災害に関しては大変な援助を頂いておりますので、これからは、自助努力で行くべきだと思います。(阿古／女性／50 歳代)
- 若い人が戻ってこないといけない→職業支援。(阿古／女性／50 歳代)
- 東京までの足、もう少し早く着けると良い。(阿古／女性／50 歳代)
- 温泉が必要。(阿古／女性／50 歳代)
- 医療の充実。ガスの状況を瞬時に把握できるシステムがほしい。(阿古／女性／50 歳代)
- 村の財政をしっかりと、財源の確保。田畑の開墾だけでなく、長い目で見た対策を(ガスに強い作物の提案)ガスの脱硫機を高濃度の人以外にも援助してほしい。(阿古／女性／60 歳代)
- 行政が住民に身近であってほしい。(阿古／女性／60 歳代)
- 業者仕事が入っている→我々に仕事がない。我々に仕事を。(阿古／女性／60 歳代)
- 予想以上の長い避難生活。避難を申し込んだが家族がバラバラに。皆が一緒に住めること。(阿古／女性／60 歳代)
- 雇用問題。仕事の種類が少なく火山ガスが問題。今後、もし災害あれば、と考えて不安になる。(阿古／女性／60 歳代)
- 生活保護(金銭面)。今後年金が減るので、そのため。(阿古／女性／60 歳代)
- 農協・漁協などにしっかりとしてもらって、産業を復活させてほしい。(阿古／女性／60 歳代)
- 病気の夫(脳梗塞)が中央診療所におり、緊急ヘリを要請(飛行機なし。東京にすぐ行けるように)→ダメだった。いい人もいる。税金も払っているのに人手がないとダメ。病院のトイレ(つかまる所がない)。高齢者、病弱の方に優しい施設作り・システム。(阿古／女性／60 歳代)
- 観光の島にするなら、もっと設備を整えるべき。再建に向け、村が支援すべき。(阿古／女性／60 歳代)
- 有線放送が聞こえるようにしてほしい。火山警報が聞こえない。(阿古／女性／60 歳代)
- 飛行機の就航。港の整備。(阿古／女性／60 歳代)
- 空港が発着できる環境を整えて欲しい。(阿古／女性／70 歳代)
- ガスを排出するやつ、水をキレイに。(阿古／女性／70 歳代)
- 今まで国にはお世話になった。特に要望はしない。自分で努力すべきだ。(阿古／女性／70 歳代)
- 自分の体がやっと。1日1日を生きていければOK。(阿古／女性／70 歳代)
- 前のように観光客が来たり、飛行機が来たりして生活が戻ってほしい。(阿古／女性／70 歳代)
- 噴火前、雨水が飲めた。今はそれができていない。水道水がおいしくない今は買っているから大変だ。仕事がないと思う。避難生活(カギをかける生活)が大変だったと思う。(阿古／女性／70 歳代)
- 医療・介護をその人に合った形で提供(オーダーメイド)。飛行機の就航。若い人にちゃんと戻ってきてほしい。バスの増便。島外の人と村民の交流を密に。三宅を離れないで、皆がまとまるべき。(阿古／女性／70 歳代)
- ダムはいらない。(阿古／女性／70 歳代)
- 交通の便(病院に行くのが大変。1ヵ所しかない)。(阿古／女性／70 歳代)

- ダム工事、道路工事ばかりでなく、私達漁業に携わる者は漁港の整備をする（漁業組合等）。もう少し、村長、村議会議員の人達に、しっかりと今の三宅を考えてほしい、見てほしい。自分達のことばかりでなく、今、現在、私達の住んでいる所に街灯がありません（随分お願いしたのですが）。（阿古／女性／70 歳代）
- 今までどおり。（阿古／女性／70 歳代）
- 医者に移り変わりが激しいのをやめてほしい。（阿古／女性／70 歳代）
- バスの回数を増やしてほしい。（阿古／女性／70 歳代）
- 役場が主体で復興を進めてほしい（島外の間人が工事を進めているため）。（阿古／女性／70 歳代）
- 空港整備をしてほしい。（阿古／女性／70 歳代）
- 飛行機の就航。（阿古／女性／70 歳代）
- 医療の整備。総合病院等の整備。（阿古／女性／70 歳代）
- 老人の生活支援をしてほしい。公共料金が高いので、安くしてほしい。年金が少ない。医療・介護保険を安くしてほしい。（阿古／女性／70 歳代）
- 飛行機が飛んでほしい。（阿古／女性／80 歳以上）
- とにかく復興を急いでほしい。（阿古／女性／80 歳以上）
- 移動する手段がもっとほしい。（阿古／女性／80 歳以上）
- 飛行機が飛べばよい。（阿古／女性／80 歳以上）

〈坪田地区 男性〉

- 実際に高齢者と接している者として、健康増進センターの設立を強く願います。介護が必要となつてからでは、村の予算がさらに必要となつてくると思います。予防が大切です。また、観光客に対して、アイランドテラピー構想を取り入れてみてはいかがでしょうか。（坪田／男性／30 歳代）
- 空港を早く回復させる。老人ホームを早く作る。（坪田／男性／40 歳代）
- 働くところがないのを何とかしてほしい。交通の便をもっと良くしてほしい（バスの本数を増やすなど）。（坪田／男性／40 歳代）
- 山ほどある。子ども。夜あぶない。街灯がない。4 年間（避難中）を、役場はただで働け→失業状態の苦しさをわかってほしい。（坪田／男性／40 歳代）
- 妥協するところと、乗り切るところを考えて進めていくこと。観光客が楽しめるような施設（温泉 etc.）の整備。（坪田／男性／40 歳代）
- 行政が観光の島と思うなら、全面的に力を。中身ある対応（メディア向けだけ）。温泉を作る。海水浴場の整備。安全に楽しめる施設。ガスの警報を流してもすぐそばに避難施設がない。確実な安全面の施策→一般のお客さんの安全確保。（坪田／男性／40 歳代）
- 島民－村役場－村会。話し合いがなく、一方的。1 回くらい。ほとんど知らない間に、もう少し、事細かく。住民の要望を聞いてくれない。ギクシャク→住民がギクシャク。（坪田／男性／40 歳代）
- 空路の再生。石原都知事が意見を後退させたことが非常に残念。仕事にも影響を与えるので、早期、復興してもらいたい。（坪田／男性／40 歳代）
- 農業水をきちんとしてほしい。人口の減少（ガスで子どもがだめ）。（坪田／男性／50 歳代）

- 農業用水を早く引いてほしい。高齢者が商店に行けるように、車を出すなどしてほしい。空港再開を早くしてほしい。燃料を安くする努力、対応をしてほしい。(坪田／男性／50 歳代)
- もっと前向きな取り組みをしてほしい。一人ひとりの意見を聞いてほしい。(坪田／男性／50 歳代)
- 計画的な復興を。村民の気持ちを汲み取って、配慮してほしい。(坪田／男性／50 歳代)
- 飛行場を早く完成させてほしい。(坪田／男性／50 歳代)
- 地元の人が働けるように（今は島外の人にまわってしまっている）→若者が帰ってこられるように。お金が島に落ちていない。(坪田／男性／50 歳代)
- 何か重点項目を決めて、行政や村民が復興を。前に戻すことが目的⇔前もギリ貧。発想の転換。あれもこれもは、無理。(坪田／男性／50 歳代)
- 三宅村の条例を早く見直してほしい。条例があるおかげで、何もできない。家の補修も、今やれば住める。このまま居住を認めないのであれば、保障を考えてほしい。1 日、4 時間でも営業を認めてもらえれば、生活が成り立つと思う。脱硫器も入れてはだめ、住む事もだめ、何で。高濃度地区の住民は生殺しではないか。住民の心の痛みを分かってほしい。行政は、杓子定規の様な物事の考え方を、今一度見直しを。高濃度地区の住民の全ての税金の減免を今一度考えてみては。(坪田／男性／50 歳代)
- 特にない、空論でしかない。(坪田／男性／60 歳代)
- 国がもう少しがんばって欲しい。お金を少しでも村に分けて欲しい。(坪田／男性／60 歳代)
- 人口を増やすための具体的な指針を早く示してほしい。(坪田／男性／60 歳代)
- 村長が約束を守るべきである。(坪田／男性／60 歳代)
- 交通網の確立→観光立島でいくならこれしかない。個人がやらないと仕方がない。協力して復興しないと。地域整備≠土木工事。集落整備。家が分散しているのは、発展しない。集落はまとまっていないと発展しない。活気がない。(坪田／男性／60 歳代)
- 航空便の早期再開。全天候型使用可能な湾岸施設の実現を。観光客等の誘致には、航空便、船便等の欠航がない施設作りをしてほしい。医療施設設備の充実。(坪田／男性／60 歳代)
- 公民館に避難所をつくり、簡単に避難できる場所を作っておく。人口を増やすための対策をすべきだ。海、空とも、交通をきちんと整備するべきだ。(坪田／男性／60 歳代)
- 行政の動きがよくない。病院で月ごとに先生が変わるのは、やめてほしい。(坪田／男性／70 歳代)
- 今の三宅島の資源を活用してほしい（観光、文化遺産）。マイナスに受け止めるのではなく、ありのままを受け止めて、三宅島の誇れるものを作るか、アピールしてほしい。リピーター対策をしてほしい。また、火山を教材として使ってほしい。(坪田／男性／70 歳代)
- 言ったからといっても、できない。言ってもしてくれない。(坪田／男性／70 歳代)
- 医療施設を充実させてほしい。(坪田／男性／70 歳代)
- 村会議員さんにもう少し動いてほしい。個人が要望するのは難しい。(坪田／男性／70 歳代)
- 今までのやり方ではダメ→若い者が帰ってこられるような魅力。自分の家へ早く返してくれ→高濃度地区のため。(坪田／男性／70 歳代)
- 早く飛行場、高速船就航を（どちらか）。病院の整備。緊急時の対策を。(坪田／男性／70 歳代)

- 交通機関→日に1回、1便では... (せめて飛行機2便の復活を)。自分が急病の場合はいいが(消防のヘリコプターで病院まで運んでもらえる)、家族が病気で運ばれてしまうと、見舞いにいけない。医療→入院時に給食。人質のように残っている高齢者→特別養護老人ホームの再開。
(坪田／男性／70歳代)
- ガスが止まってもらいたい。空港再開を。交通機関を整備。(坪田／男性／70歳代)
- 交通機関を充実させるべきだ。医療機関を充実させるべきだ。政府がスムーズに対応するようにすべきだ。(坪田／男性／70歳代)
- 頑張ってもらいたい。(坪田／男性／70歳代)
- 老人ホームを早く作ってほしい。(坪田／男性／80歳以上)
- 空港を早く完成させてほしい。(坪田／男性／80歳以上)
- 若い人に戻ってきてほしい。(坪田／男性／80歳以上)
- 国や都に頼らないで、自分で立ち直れるように。観光業でもっと復興していくべき。(坪田／男性／80歳以上)

〈坪田地区 女性〉

- 小児科が欲しい。(坪田／女性／30歳代)
- 公園など、子どもが遊べる施設を作ってほしい。公民館で映画を公開してほしい。(坪田／女性／30歳代)
- 地区に学校が入ってほしい。子どもがスポーツをする所がほしい。バスの時間間隔を短く。(坪田／女性／30歳代)
- 子育てがしやすいようにしてほしい。そうでないと、若い人が帰ってこない。例えば、保育園に行くにしても、車で送迎20分以上。時間、ガソリン代など...負担が多い。出産も島ではできない。ガスが出ると、散歩にも連れて行けない。小学生になると、とたんに、島の宝などと言われ...。それまでは、本当に大変。何とかしなければ、結婚しても島では子育てをしていけない、なんてことがあるかもしれない。人口が増えなければ、商売など、成り立たない。(坪田／女性／30歳代)
- 飛行機がない。病院がもっとあればいい。(坪田／女性／40歳代)
- 仕事がない。商店の品物で欲しいものがなく、献立が作れない。空港がない。(坪田／女性／40歳代)
- 言ったことはやってほしい。(坪田／女性／40歳代)
- 若い人の力に期待。帰って来られる。帰っている人も率先して新しいことを。(坪田／女性／40歳代)
- 定期便(飛行機)、定期船の確保。防災設備。避難訓練。(坪田／女性／40歳代)
- 住居の問題(島に住みたいのに、家が壊れて住めない人をなんとかすべき)。仕事がないので、働く場所を作ってあげてほしい。老人ホーム関係で必要なスタッフを集めて、そのスタッフの人々の下で島民が働けるようにしてみてもいい。(坪田／女性／50歳代)
- 各家庭へ、脱硫装置を設置してほしい。塾がないので、学校の教育をきちんとしてほしい。(坪田／女性／50歳代)
- 行政がしっかりして、もう少し支援してほしい。観光客を増やす努力をしてほしい。(坪田／女性／50歳代)
- 飛行場が早く完成して、観光客を増やしてほしい。(坪田／女性／50歳代)

- 早く住民が戻ってきてほしい。飛行場を早く完成させてほしい。(坪田／女性／50 歳代)
- 三宅島といえばコレという観光名産を作るべき。三宅は、島の中でも中途半端。(坪田／女性／50 歳代)
- 三宅島が寂れていけないで、元気を取り戻してくれていたらよい。帰ってこられない方がいるから、高望みか。(坪田／女性／50 歳代)
- 住宅の補助がなくなる⇔高濃度地区には入れない。おかしくないか(ローンと家賃との二重払い→住宅に入った人は補助)。今の所、空港周辺の方がレベル 4 が出ている時間が多いのに、どうして三池に住めないのか。高濃度地区の人は怒りをどこにぶつけていいのか。高濃度地区に個人の家がある事へ、心遣いがほしい。働いている→高濃度地区なのに、家が借りられなかった。その基準は。劣化保全。同額なのはおかしい。脱硫装置を貸してもらえない(余っているのに)。何度も入院しているのに。慢性にならないとダメと言われる。←引越しないと。アンケート結果が恣意的に使われているのでは。人災。専門医がいらない→負担が大きい。木を切りすぎ(明日葉)台風をどうするか。目先のお金だけ。(坪田／女性／50 歳代)
- 農地だけでなく、お店に対しても支援してほしい。東京から物を仕入れるばかりでは、村からお金が出て行く一方。村の中でお金がまわっていくようなシステムをつくるべき。島の中でお金を使うことが、島を良くしていくという意識を持つべき。(坪田／女性／50 歳代)
- 年寄りでも、自分たちで食べていけるように、仕事をつくる。(坪田／女性／50 歳代)
- 砂防ダムのお金を住めない人にまわしたらどうか。(坪田／女性／50 歳代)
- 高濃度地区の立ち入り禁止を 1 日でも早く解除して欲しい。帰りたい。(坪田／女性／60 歳代)
- 施設が元に戻って、自分が戻ってきたので、これからの人生を穏やかに過ごしたい。自分の育った場所なので、ありのままに生活できるのが島の良さだと思う。(坪田／女性／60 歳代)
- 高齢者に対する福祉の充実。観光を復興させて、若者を増やすべき。(坪田／女性／60 歳代)
- 温泉を早く復活させてほしい。交通の便を良くしてほしい(飛行場を早く完成させてほしい)。観光業を盛り上げてほしい。(坪田／女性／60 歳代)
- お医者さんが毎月変わるのをやめてほしい。公民館の再開。お年寄りが集まれる場所を作してほしい。(坪田／女性／60 歳代)
- 飛行場がほしい。→急病などは、船では限界がある。(坪田／女性／60 歳代)
- バスをもっと出す。せめて 1 時間に 1 本。(坪田／女性／60 歳代)
- 道に金をかけすぎなので、バランスがほしい。全ての人が、住居に住めるようにすべき。工場を作って村を活性化させる。これからが復興のはじまり。とにかく村を活発にさせるべき。観光に力を入れる前に、準備をしていく必要がある。(坪田／女性／70 歳代)
- 「あじさいの里」(週 1 回の交流会)のような人と交われる場面、遊べる場所がほしい。(坪田／女性／70 歳代)
- 何にも考えられない。(坪田／女性／70 歳代)
- 観光に力を入れてほしい(宣伝、施設など)。風力発電をする。ゴルフ場をつくるべきだ。シルバーの有効活用。流木の利用。暖かさを活かした活動。(坪田／女性／70 歳代)
- 高濃度地区の人の気持ちをもっと考えてほしい。ダムの設置はムダだった。(坪田／女性／70 歳代)
- 若い人に頑張ってもらいたい。若い人に帰ってきてほしい。(坪田／女性／70 歳代)
- 道の拡張より、もっとすべきことがある。木を切らないでほしい。木でガスが守られている。(坪田／女性／70 歳代)

- 飯場をなくしてほしい。民宿は保健所の許可が必要なのに、飯場には不必要なのは変。民宿のイメージが悪くなる。働いているんだから、民宿に入ってお金を払ってあげればいいのに。洗濯機、クーラーなど、飯場の人たちの使い方が悪い。せっかくつけてあげているのに。頑張っている人が損をするのはおかしい。やるなら民宿じゃなくて、学校など空いているところにすればいいのだ。飯場優先はおかしい。行政が三宅島の宣伝をしてほしい。「安心だ」というもの。
→三宅は観光で食べている。みんなガスを心配して来られない。ガスマスクも無料で配布してほしい（観光客のため）。(坪田／女性／70 歳代)
- 病院へのタクシーの費用が大変。送迎サービスも時間の融通がきかない。(坪田／女性／70 歳代)
- 高濃度地区に対する心づかい。→個人の家の庭にダムの水が。庭が池。村道に補助の穴を掘った土をおく→村道沿いの家に泥流が入ってしまう。縁の下に水がたまってしまう。家に今住んでいなくても、人の家だと考えてほしい。ちゃんと歩いて見てほしい。三池。(坪田／女性／70 歳代)
- ちょっと分からない。何でも困っている。(坪田／女性／70 歳代)
- 温泉。(坪田／女性／70 歳代)
- 若い方たちが帰島しないと、三宅島の復興はできないと思います。(坪田／女性／70 歳代)
- バスをもっと走らせてほしい。病院を往来するワゴン車を走らせてほしい。(坪田／女性／70 歳代)
- がんばって、復興して。(坪田／女性／80 歳以上)
- 飛行場を早く完成させてほしい。(坪田／女性／80 歳以上)
- お医者さんがいない。今日、満員で、かかれるか分からない。交通についてはバスの便が少ない。2 時間待ち。歩くのが大変。お店が少なくて遠い。買い物が大変。(坪田／女性／80 歳以上)
- 道路を拡張する必要はない。もっと他にお金を使うべきだと思う。(坪田／女性／80 歳以上)

付 1 調査票(単純集計結果)

三宅島帰島住民アンケート調査

実施主体：株式会社 サーベイリサーチセンター
共同研究者：東洋大学社会学部 教授 田中 淳
調査協力：三宅村役場

調査日	地区名	調査員名
/		

◎ 帰島についてお伺いします。

問1 去年2月の避難指示解除のあと、あなたが本格的に帰島され、三宅島で生活を始められたのはいつでしたか。

	年		月ごろ
----------------------	---	----------------------	-----

問2 現在、帰島されているあなたのご家族の構成は次のどれにあてはまりますか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1 単身世帯 33.9 | 2 夫婦のみ 34.2 |
| 3 2世代世帯（親と子ども） 27.6 | 4 3世代世帯（親と子どもと孫） 3.5 |
| 5 その他 0.8 | |

問3 それでは、離島時のご家族の構成は次のどれでしたか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1 単身世帯 26.8 | 2 夫婦のみ 34.8 |
| 3 2世代世帯（親と子ども） 32.1 | 4 3世代世帯（親と子どもと孫） 5.5 |
| 5 その他 0.8 | |

問4 あなたのご家族で、まだ帰島されていない方はいらっしゃいますか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | |
|-----------|------------|
| 1 いる 18.8 | 2 いない 81.2 |
|-----------|------------|

問4-1 （問4で「1 いる」とお答えの方にお聞きします）

現在、帰島していないのはどなたですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

- | | | |
|-----------------|-------------|-----------|
| 1 配偶者 18.5 | 2 息子・娘 67.4 | 3 父・母 8.7 |
| 4 息子・娘の配偶者 15.2 | 5 祖父・祖母 4.3 | 6 孫 12.0 |
| 7 その他 2.2 | | |

→問4-2 (問4で「1 いる」とお答えの方にお聞きします)

現在帰島していないご家族の方が、帰島されない理由は何ですか。あてはまるものをいくつかでもお選びください。

- | | | |
|----|--------------------------------|------|
| 1 | 今も危険だから | 8.7 |
| 2 | 火山ガス等に耐えられる健康状態ではないから | 16.3 |
| 3 | 緊急時に避難ができないから | 1.1 |
| 4 | 家屋の損壊がひどいから | 2.2 |
| 5 | 仕事の目処(めど)が立たないから | 16.3 |
| 6 | 学校の問題があるから(子どもの教育や将来を考えて) | 31.5 |
| 7 | 東京等での生活に馴染んでいるから | 7.6 |
| 8 | 島の復興が望めず、今後の先行きが見えないから | 4.3 |
| 9 | 病気や高齢の家族がいて、十分な医療・福祉サービスが必要だから | 15.2 |
| 10 | 便利な生活をしたいから | — |
| 11 | どこに住めるかわからないから | — |
| 12 | その他 | 31.5 |
| 13 | わからない | 4.3 |

→問4-3 (問4で「1 いる」とお答えの方にお聞きします)

現在帰島していないご家族の方の、今後の帰島のご予定はいかがでしょうか。あてはまるものをいくつかでもお選びください。

- | | | |
|----|------------------------|------|
| 1 | 危険がなくなれば帰島する | 14.1 |
| 2 | 多少危険はあっても復興の状況が進めば帰島する | 1.1 |
| 3 | 自宅の改修や補修が終われば帰島する | 2.2 |
| 4 | 仕事や職場が見込めれば帰島する | 9.8 |
| 5 | 農業・漁業ができる環境になれば帰島する | — |
| 6 | 地域のまとまりが元に戻れば帰島する | — |
| 7 | 医療や福祉サービスの環境が整えば帰島する | 17.4 |
| 8 | 子どもや孫の学校の区切りがつけば帰島する | 6.5 |
| 9 | その他 | 4.3 |
| 10 | 帰島はしない(しないだろう) | 35.9 |
| 11 | わからない | 22.8 |

問5 ご家族やご近所の方で、一時帰島を除いて、去年の2月以降にいったん帰島されながら、再度島を離れられた方がいらっしゃいますか。あてはまるものを1つお選びください。

1 いる 10.2	2 いない 85.9
-----------	------------

無回答 3.9

→ 問5-1 (問5で「1 いる」とお答えの方にお聞きします)

島を離れられた理由は何でしたか。ご存じの範囲で具体的にお答えください。

問6 あなたは、帰島される前には、どのようなことに不安を感じていましたか。あてはまるものをいくつかでもお選びください。

1 自分や家族の健康 51.5	2 島の人口の減少 43.4
3 観光客の減少 23.1	4 海や山などの自然環境の悪化 41.3
5 帰島していない家族のこと 10.2	6 損傷した自分の家や店舗・民宿の再建 42.5
7 田畑の再建 18.8	8 損傷した勤め先や設備の再建 8.0
9 道路や港など公共施設の損傷 18.8	10 火山ガスの発生 64.0
11 泥流の発生 26.6	12 ^{おやま} 雄山の再噴火 37.4
13 地域のまとまりがなくなる恐れ 20.4	14 医療機関や医療設備 46.4
15 子どもの教育環境 16.8	16 自分や家族の就労 16.4
17 家計 26.0	18 その他 4.7
19 とくにない 7.4	

無回答 1.4

問7 帰島されてから、あなたは現在、どのようなことに不安を感じていますか。あてはまるものをいくつかでもお選びください。

1 自分や家族の健康 46.4	2 島の人口の減少 33.9
3 観光客の減少 21.1	4 海や山などの自然環境の悪化 30.1
5 帰島していない家族のこと 10.0	6 損傷した自分の家や店舗・民宿の再建 16.4
7 田畑の再建 10.8	8 損傷した勤め先や設備の再建 5.3
9 道路や港など公共施設の損傷 11.7	10 火山ガスの発生 59.7
11 泥流の発生 19.8	12 雄山の再噴火 36.0
13 地域のまとまりがなくなる恐れ 15.7	14 医療機関や医療設備 39.9
15 子どもの教育環境 12.5	16 自分や家族の就労 11.0
17 家計 18.8	18 その他 6.5
19 とくにない 9.2	

無回答 1.0

問8 火山ガスが発生し警報が発令された場合、あなたは無事に避難できると思いますか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 無事に避難できる 49.1 | 2 多分避難できる 35.6 |
| 3 おそらく避難できないだろう 12.7 | |

無回答 2.7

→ 問8-1 (問8で「3 おそらく避難できないだろう」とお答えの方にお聞きします)

避難できないだろうと思う理由は何ですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

- | |
|----------------------------|
| 1 家族の中に小さな子どもや病人がいるから 19.4 |
| 2 避難場所が遠いから 41.9 |
| 3 どこに避難すればよいかわからないから 11.3 |
| 4 防災行政無線がよく聞こえないから 11.3 |
| 5 その他 48.4 |

◎ 世帯の生計についてお伺いします。

問9 噴火前の、あなたの世帯で最も大きな収入源になっていた職業は何ですか。あてはまるものを1つお選びください。

1 農林業 7.8	2 漁業・水産加工業 5.5	3 建設業 15.5
4 運輸・通信、電気・ガス・熱供給・水道業 5.3	5 観光産業(飲食店、卸・小売、民宿、サービス業) 10.8	
6 観光産業以外の卸・小売業、サービス業、金融・保険業、不動産業 11.7		
7 公務員 12.5	8 その他 2.2	
9 年金 26.8	10 なし 0.4	

無回答 1.4

問10 島外へ避難されていたときの、あなたの世帯で最も大きな収入源になっていた職業は何ですか。あてはまるものを1つお選びください。

1 農林業 3.5	2 漁業・水産加工業 1.4	3 建設業 12.7
4 運輸・通信、電気・ガス・熱供給・水道業 5.3	5 観光産業(飲食店、卸・小売、民宿、サービス業) 2.2	
6 観光産業以外の卸・小売業、サービス業、金融・保険業、不動産業 9.4		
7 公務員 10.2	8 その他 7.0	
9 年金 41.3	10 なし 6.1	

無回答 0.8

問11 それでは、帰島後(現在)の、あなたの世帯で最も大きな収入源になる職業は何ですか。あてはまるものを1つお選びください。

1 農林業 1.6	2 漁業・水産加工業 2.5	3 建設業 12.5
4 運輸・通信、電気・ガス・熱供給・水道業 4.7	5 観光産業(飲食店、卸・小売、民宿、サービス業) 6.5	
6 観光産業以外の卸・小売業、サービス業、金融・保険業、不動産業 9.8		
7 公務員 7.6	8 その他 3.1	
9 年金 47.6	10 なし 3.3	

無回答 0.8

問12 あなたのお宅の経済状況は、噴火前と比べるとどの程度(何%くらい)元に戻ったと思いますか。噴火前を100%としてお答えください。

帰島直後	平均 65.3	%	現在	平均 70.7	%
------	---------	---	----	---------	---

問13 今後の生計の見通しはいかがですか。あてはまるものを1つお選びください。

1 今より相当楽になりそう 0.4	2 今よりやや楽になりそう 4.7
3 今とほぼ同程度の暮らしができそう 44.0	4 今より少し苦しくなりそう 34.2
5 今より相当苦しくなりそう 15.5	

無回答 1.2

◎ 復興について伺います。

問 14 あなたが帰島した当時に比べて、良くなったと思うものには何がありますか。あてはまるものをいくつかもお選びください。

問 15 それでは、噴火前に比べて、良くなったと思うものには何がありますか。あてはまるものをいくつかもお選びください。

	問 14 帰島当時と比べて 良くなったもの (いくつか)	問 15 噴火前と比べて 良くなったもの (いくつか)
1 道路などの整備	54.2	13.9
2 港湾・空港などの整備	16.8	2.7
3 金融機関や公民館などの公共施設の整備	12.3	1.4
4 上下水道の整備	21.1	3.5
5 泥流、火山ガス、火山噴火など防災対策	33.1	16.2
6 医療機関・医療設備	13.9	3.7
7 子どもの教育環境	6.5	1.0
8 高齢者福祉	12.9	4.3
9 地域のまとまり	12.3	4.7
10 家族との人間関係	11.9	7.4
11 隣近所との人間関係	22.1	8.8
12 店舗・事業所の営業状況	19.8	1.8
とくにない	26.2	64.6

問 16 あなたは、行政等が行なう復興支援として、どのようなものが必要だと思いますか。あてはまるものをいくつかもお選びください。

1 子どもの教育費に対する支援 19.6	2 健康保険や年金などの保険料免除の支援 39.5
3 電気、ガスなどの基本料金免除の支援 22.3	4 住宅ローンの利子補給 12.5
5 税の減免 31.3	6 医療費への補助 42.5
7 不足する生活費に対する支援 23.3	8 住宅の補修や再建への補助 43.4
9 その他 10.0	

無回答 10.6

問 17 それでは、全般的には、現在の復興の状況に対して、あなたはどの程度満足していますか。
あてはまるものを1つお選びください。

- | | | |
|-------------|--------------|------------------|
| 1 非常に満足 3.7 | 2 やや満足 27.2 | 3 どちらともいえない 35.2 |
| 4 やや不満 18.2 | 5 非常に不満 14.1 | |

無回答 1.6

問 18 三宅島の将来像について、あなたの考えに一番近いものはどれですか。あてはまるものを1つお選びください。

- | |
|--|
| 1 今まで通り、農林水産業と観光の島にすべきだ 37.8 |
| 2 今まで以上に、農林水産業の島にすべきだ 12.7 |
| 3 今まで以上に、観光の島にすべきだ 24.3 |
| 4 農林水産業と観光を除く、新しい産業を誘致すべきだ 11.5
(→新しい産業を具体的に：) |
| 5 その他 3.1 |

無回答 10.6

問 19 あなたは、三宅島の復興の状態について、今後、どの程度まで元に戻るとお考えですか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1 噴火の前の状態に、完全に戻る 3.1 | 2 噴火の前の状態に、部分的には戻る 38.0 |
| 3 あまり期待できない 42.5 | 4 ほとんど期待できない 13.9 |

無回答 2.5

問 20 あなたは、三宅島の地域のまとまりは、噴火前と比べて今後はどのようになると思いますか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 1 噴火前以上に取り戻すだろう 6.3 | 2 噴火前と同じ程度まで取り戻すだろう 34.4 |
| 3 噴火前のように取り戻すのは難しいだろう 57.3 | |

無回答 2.0

問 21 自然災害が起こった場合、どのような形で生活を建て直していくべきだと思いますか。あてはまるものを1つお選びください。

- | |
|--------------------------------|
| 1 基本的に自助努力で行うべきだ 17.8 |
| 2 基本的には地方の自治体が積極的に支援すべきだ 14.7 |
| 3 基本的には政府が積極的に支援すべきだ 48.5 |
| 4 国民全員で相互扶助するような制度をつくるべきだ 16.0 |

無回答 3.1

問 22 復興を進めるにあたって、村民の意思を反映する新しい住民組織が必要だと思いますか。あてはまるものを1つお選びください。

1 必要だと思う	60.5	2 少し必要だと思う	22.1
3 あまり必要ではないと思う	10.2	4 全く必要ではないと思う	4.3

無回答 2.9

問 23 あなたは三宅島に対して、どの程度愛着を感じていますか。あてはまるものを1つお選びください。

1 強い愛着を感じる	68.3	2 少し愛着を感じる	22.9
3 あまり愛着を感じない	6.3	4 ほとんど愛着を感じない	2.0

無回答 0.4

問 24 今後の三宅村の復興について、ご意見やご要望がありましたら、どんなことでも結構です
でお聞かせください。

問 25 それでは、全体として、あなたは帰島されたことをどう思っていますか。あてはまるものを1つお選びください。

1	良かった	55.8	2	どちらかという良かった	18.8
3	どちらともいえない	20.2	4	どちらかという後悔している	3.1
5	後悔している	1.4			

無回答	0.6
-----	-----

◎ 最後に、あなたご自身のことについてお伺いします。

F1 あなたの性別をお答えください。

1 男性 46.8	2 女性 53.2
-----------	-----------

F2 あなたの現在の年齢はおいくつですか。あてはまるものを1つお選びください。

1 20～29 歳 0.8	2 30～39 歳 4.3	3 40～49 歳 11.9	4 50～59 歳 20.7
5 60～69 歳 19.8	6 70～79 歳 30.7	7 80 歳以上 11.5	

無回答 0.4

F3 噴火前のあなたのお住まいは、持家でしたか。それとも借家などでしたか。あてはまるものを1つお選びください。

1 持家 82.4	2 借家 8.0	3 社宅 1.4	4 村営住宅 7.8
-----------	----------	----------	------------

無回答 0.4

F4 それでは、現在のお住まいはいかがですか。あてはまるものを1つお選びください。

1 持家 73.4	2 借家 6.5	3 社宅 0.8	4 村営住宅 18.6
-----------	----------	----------	-------------

無回答 0.6

F5 あなたは三宅島のご出身ですか。あてはまるものを1つお選びください。

1 三宅島の出身 68.1	2 三宅島以外の出身 31.3
---------------	-----------------

無回答 0.6

F6 噴火前、あなたはどちらにお住まいでしたか。あてはまるものを1つお選びください。

1 阿古（現在の高濃度地区） 3.1	2 阿古（現在の高濃度地区以外） 29.7
3 伊ヶ谷 6.7	4 伊豆 14.7
5 神着 16.4	6 坪田（現在の高濃度地区） 8.0
7 坪田（現在の高濃度地区以外） 21.1	

無回答 0.4

F7 昨年4月にもアンケート調査を実施しましたが、その際にはお答えいただきましたか。

1 回答した 28.4	2 回答しなかった 44.8	3 わからない 26.8
-------------	----------------	--------------

ご協力ありがとうございました

付 2 サーベイリサーチセンターの業務案内

会社概要

商 号 株式会社サーベイリサーチセンター
 設 立 昭和50年2月
 資 本 6,000万円
 年 商 53億円（平成17年度）
 代 表 者 代表取締役 藤澤士朗
 社 員 数 185名
 顧 問 竹内郁郎（東京大学名誉教授）
 取引銀行 三井住友銀行 赤羽支店
 百十四銀行 東京支店
 みずほ銀行 尾久支店
 三菱東京UFJ銀行 日暮里支店
 商工中央金庫 押上支店
 所属団体 (財)日本世論調査協会
 (社)日本マーケティング・リサーチ協会
 (社)日本マーケティング協会
 (社)交通工学研究会
 (社)環境科学情報センター
 日本災害情報学会他

沿革

昭和50年2月 資本金1,000万円にて設立
 昭和51年6月 大阪事務所開設
 昭和54年1月 静岡事務所開設
 昭和61年9月 名古屋事務所開設
 昭和63年4月 本社社屋竣工
 平成2年4月 東北事務所開設
 平成4年1月 広島事務所開設
 平成5年6月 資本金を4,000万円に増資
 平成9年3月 本社社屋増築
 平成9年4月 九州事務所開設
 平成10年4月 岡山事務所開設
 平成12年7月 資本金を6,000万円に増資
 平成15年4月 四国事務所開設

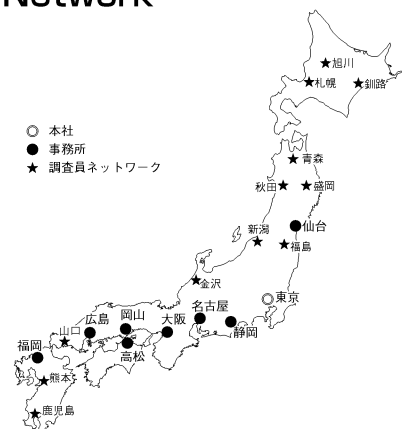
取得認証・登録資格

ISO9001（JMAQA-676）
 プライバシーマーク（C820008(03)）
 建設コンサルタント（道路部門 建13第7120号）

組織図



Network



マスコミに掲載された防災・災害の自主調査

● 今年度調査（第2回三宅島・伊豆山住民アンケート調査）

平成 18 年 5 月 2 日



三宅島・伊豆山の6割 「火山ガス不安」 世帯主らアンケート

噴火による全島避難が昨年2月解除され、伊豆山・三宅島に帰った人の6割が火山ガスの発生に不安を抱いている。民間の調査会社「サードサーチ」が4月（54%）、「泥流、火山

末、帰島民に実施したアンケートでわかった。489世帯を訪問調査し、世帯主かそれに準じる人から回答を得た。噴火前の経済状況を100%とすると、回答の平均は70%で、帰島直後に調査したときの65%より少し上向きになった。噴火前と比べた生計の見通しは、「苦しくなりそう」が50%で、帰島直後の70%より減少した。

この1年余で良くなったもの（複数回答）としては、「道路の整備」（54%）、「泥流、火山噴火などの防災対策」（33%）などがあげられた。現在の不安（複数回答）について聞くと、60%が「火山ガスの発生」をあげた。「自分や家族の健康」も46%。今後の三宅島復興については、「あまり期待できない」が43%、「ほとんど期待できない」と合わせる56%で過半数を占めた。（瀬川茂子）

平成 18 年 5 月 17 日



三宅島住民アンケート

収入は噴火前の70.7%

7割強が帰島「良かった」

三宅島の避難指示が解除されてから1年が過ぎたのに合わせ、民間調査会社「サードサーチ」が「サードサーチセンター」（荒川区）が帰島した世帯を対象にアンケートしたところ、経済状況については噴火前を100とした場合、現在は平均70.7%にとどまっていることがわかった。住民の苦しい生計が

続く一方、7割強が帰島して「良かった」と答えるなど、島への強い愛着がうかがわれた。アンケートは帰島後の住民意識などを探るために実施したもので、昨年25日、調査員12人が島内を回り489世帯から回答を得た。三宅島の昨年9月の発表によると、昨

年2月の避難指示解除以降、帰島したのは1247世帯2158人となっている。帰島後の世帯の主な収入源は、年金が47.6%で最も多く、建設業12.5%▽観光産業以外のサービス業など9.8%▽公務員7.6%▽観光産業6.5%などとなっている。帰島したことへ

の思いを巡っては「良かった」が74.6%に上り、「どちらともいえない」が20.2%、「後悔している」が4.5%だった。現在の不安（複数回答）については、「火山ガスの発生」が59.7%とトップで、▽「自分や家族の健康」46.4%▽「医療機関・設備」39.9%▽「雄山の再噴火」

36%など。行政などの復興支援として必要なもの（同）は▽「住宅の補修や再建への補助」43.4%▽「医療費への補助」42.5%▽「健康保険や年金などの保険料免除の支援」39.5%▽「税の減免」31.3%などの回答が多かった。アンケート結果について、田中淳・東洋大学教授（災害心理学）は「仮住まいを離れ帰島できた住民の安どは大きい。先行き不安は強い。社会全体が、自分たちだけで生活復興できない住民の気持ちにくむ必要がある」と分析している。【木村健二】

平成 17 年 5 月 9 日



帰島後厳しい生計

三宅島民
民間調査 経済、噴火前の60%

「帰島してよかった半面、生計の見通しは苦しい」。噴火による全島避難が2月に解除され、伊豆諸島・三宅島に戻った人の大半が、そんな思いを抱いている。民間の調査会社「サード・ベイ・リサーチセンター」（本社・東京都荒川区）が4月末、帰島民に初めて実施したアンケートでわかった。

アンケートは503世帯を訪問し、364世帯の世帯主またはそれに準ずる人から回答を得た。

噴火前の経済状況を100%とすると、回答の平均は「60%」だった。「変化がない」は4人に1人どまり。噴火前と比べて生計の見通しは、「少し苦しくなりそう」が42%、「相当苦しくなりそう」が28%で、合わせて7割を占めた。

現在の不安（複数回答）については「火山ガスの発生」が57%と、半数を超えた。回答者の6割以上が60歳以上で、「医療体制・設備」（48%）、「自分や家族の健康悪化」（42%）など医療面での不安も目立った。火山ガス警報が出て避難する必要がある場合、「おそろく避難できない」と答えた人は18%いた。理由として「避難場所が遠い」「家族に小さな子供や病人がいる」などが挙げられた。

一方、さまざまな不安を抱えながらも、「帰島してよかった」と思う人が54%いた。「どちらかというとよかった」を含めると7割近くを占め、「後悔している」人は1%しかいなかった。

平成 17 年 5 月 19 日



高齢化進み課題も

45%が年金暮らし

3人に2人が60歳以上、半数近くが年金暮らし。三宅島で、高齢化が進んでいる実態が、民間調査会社「サード・ベイ・リサーチセンター」（荒川区西日暮里）が4月末、帰島した島民に行った調査で分かった。

調査期間は4月22～25日。帰島したとみられる島内の家屋503軒を回り、世帯主など364人から回答を得た。

それによると、60歳以上が3人に2人を占め、80歳以上が1割を超えた。世帯の主な収入源を聞いたところ、最も多かったのが「年金」だった。噴火前は25%だったが、避難生活中に40%、帰島後は45%と増え続けている。

また、火山ガスが高濃度に達し、警報が発令された場合の対応について、「おそろく避難できない」と答えた人が18%いた。理由を聞いたところ、「避難場所が遠い」が4割、「家族に小さな子どもや病人がいる」が3割、「どこに避難すればよいかわからない」が2割いた。

噴火前と比べて今後の生計の見通しは、「苦しくなる」が7割を占めた。それでも、帰島したことについては7割が「よかった」と答えた。

平成 17 年 5 月 19 日

読賣新聞 帰島「良かった」7 割

三宅 「生計苦しくなる」も7割

島への愛着は感じるが、生計の見通しは厳しい。帰島が本格化し、今月から観光客の受け入れが始まった三宅島（三宅村）の帰島者を対象とした初めてのアンケート調査がまとまり、こんな結果が浮き彫りになった。

民間会社が調査

調査は民間調査会社「サ―ベイリサーチセンター」（荒川区）が4月22日～25日、島内で調査に応じた364世帯を対象に実施。帰島前後の意識の変化や、家計の復興などについて、20歳以上の世帯主に面接で聞き取った。

それによると、帰島したことについて「良かった」が計69・5％と7割近くを上り、島への愛着も「強い愛着を感じる」が計9割を超えた。

一方で、現在の不安（複数回答）については、「火山ガスの発生」56・9％をはじめ、「自分や家族の健康の悪化」41・8％

など、有毒な火山ガスの放出が続く島内の現状に対する不安がにじんでいる。

また、回答者の半数以上が60歳以上で、収入源を年金とする世帯は45％を占めた。このため、今後の生計については、噴火前より「相当苦しくなりそう」「少し苦しくなりそう」が合わせて7割に達した。

このほか、復興に関する質問では、9割を超える人が港湾・空港などの整備を「重要」と回答した。火山ガスの高濃度地区内にある三宅島空港は現在、救急患者などの搬送時以外は使用されておらず、東京・竹芝桟橋から約6時間要する定期便の利用が続く状況が背景とみられる。

アンケート結果について、平野祐康村長は、「島民の思いがおおむね反映されたものと思う。帰島して間もない段階で不安もあるだろうが、観光を柱に、苦しい時期を何とか乗り越えていきたい」と話している。

平成18年5月

	東京大学社会情報研究所	15年
富士山噴火自治体調査	東京大学社会情報研究所	15年
東海地震対策強化地域における地震防災の現況調査	東京大学社会情報研究所	15年
平成16年度民間事業所の東海地震の各情報に対する対応調査	東京大学大学院情報学環	16年
「東海地震情報についての防災ビデオ」作成	東京大学大学院情報学環	16年
民間放送局の災害報道に関する調査	東京大学大学院情報学環	16年
新潟県中越地震についての住民調査および自治体調査	東京大学大学院情報学環	16年
安全観についての住民アンケート調査	東洋大学	14～16年
北海道駒ヶ岳噴火についての住民意識調査	東洋大学	14年
苫小牧市民の火山防災意識調査	東洋大学	15年
台風23号についての兵庫県豊岡市民アンケート調査	東洋大学	16年
救急医療と通信システムについての消防本部アンケート調査	東洋大学	16年
東海豪雨における視覚障害者の災害行動についてのアンケート調査	東洋大学	16年
新潟中越についての十日町市民アンケート調査	東洋大学	16年
山古志村の復興に関する住民意識調査	東洋大学	17年
福岡県西方沖地震グループインタビュー	東洋大学	17年
2004年水害被災地における復興の実態と意識に関する調査	東洋大学	17年
「新潟県中越地震」におけるライフラインについての住民アンケート調査	富士常葉大学	16年
災害弱者に関する調査	文教大学	10年
防災についてのアンケート調査	文教大学	10年
旧耐震住宅居住者グループインタビュー調査	東京経済大学	14年
家屋の耐震化に関するアンケート調査	東京経済大学	15年
十勝沖地震緊急調査	東京経済大学	15年
水害・中越地震被災地域グループインタビュー調査	東京経済大学	16年
震災5年後意識調査	NHK大阪局	11年
東海豪雨災害に関する被災者の意識調査	NHK放送文化研究所	12年
有珠山避難者アンケート調査	NHK放送文化研究所	12年
東京都民の災害に関するアンケート調査	NHK報道局	14年
新潟豪雨災害に関する住民調査	NHK報道局気象災害センター	16年
新潟県中越地震に関する住民調査	NHK放送文化研究所	16年
阪神淡路大震災に関する住民意識調査	NHK神戸局	16年
阪神大震災2年後の住民意識調査	朝日新聞社	8年
阪神大震災後の仮設住宅居住者意識	朝日新聞社	8年
阪神大震災3年後の住民意識調査	朝日新聞社	9年
阪神大震災に関する住民意識調査	朝日新聞社	13・15・16年
災害等に関する意識調査	朝日新聞社	13年
阪神大震災に関する住民意識調査	朝日新聞社	13年
自衛隊の災害派遣についてのアンケート調査	朝日新聞社	13年
広域連携についてのアンケート調査及び災害NPOアンケート調査	朝日新聞社	14年
阪神・淡路大震災8年後の被災者意識調査	朝日新聞社	14年
自治体復興・被災者支援制度アンケート調査	朝日新聞社	17年
災害体験についての「ヒヤリハット」調査	(独)防災科学技術研究所	14年
水害ハザードマップ調査	(独)防災科学技術研究所	15年
福岡市博多区におけるヒヤリ・ハット体験および 古体験アンケート調査	(独)防災科学技術研究所	15年
名古屋西部および西枇杷町における住民の防災意識と防災対策の実態調査	(独)防災科学技術研究所	16年

新潟豪雨についての住民アンケート		地域防災計画修正	土肥町	15年
(独)防災科学技術研究所	16年	地域防災計画策定	榛原町	8・13年
地下街利用者の災害に関する意識調査 (財)河川情報センター	11年	域防災計画修正	榛原町	14年
集中豪雨による水害についての住民調査		地域防災計画修正	吉田町	12年
(財)河川情報センター	17年	地域防災計画策定	金谷町	8年
砂防施設計画検討調査 (財)砂防・地すべり技術センター	11年	地域防災計画策定	水窪町	8年
浅間山噴火についての住民アンケート		地域防災計画策定	舞阪町	8年
(財)砂防・地すべり技術センター	16年	地域防災計画策定	細江町	8年
台風14号地すべり災害についての住民調査		地域防災計画策定	中津川市	17年
(財)砂防・地すべり技術センター	17年	地域防災計画策定	東郷町	13・14年
活断層長期予測デルファイ調査 (財)地震予知総合研究振興会	12年	職員初動マニュアル作成	東郷町	14年
地震調査研究推進本部の活動に関するアンケート調査		防災マップ作成	東郷町	14年
(財)地震予知総合研究振興会	17年	避難誘導計画策定	東郷町	17年
ナウキャスト地震情報の活用に関する調査		地域防災計画策定	西春町	15年
(財)日本気象協会	12・13年	防災新聞作成	西春町	15年
ナウキャスト地震情報の社会的影響調査 (財)日本気象協会	15年	地域防災計画等修正	甚目寺町	14・15年
富士山噴火情報についての自治体調査 (財)日本気象協会	15年	防災に関する講演会	甚目寺町	15年
緊急地震速報についての企業ヒアリング調査		洪水ハザードマップ作成	甚目寺町	16年
(財)日本気象協会	16年	新市地域防災計画策定	津市	17年
消防団員の公務災害・健康増進についての調査 消防基金	9年	地域防災計画策定	いなべ市	17年
消防団員の安全教育・訓練に関する調査 消防基金	10年	地域防災計画	伊賀市	17年
消防団の安全装備品等の配備状況に関する調査 消防基金	11年	自主防災組織活動マニュアル作成	二見町	15年
地方自治体の防災情報システムに関する自治体アンケート		職員災害初動マニュアル等作成	二見町	15年
NPO環境防災総合政策研究機構	16年	津波ハザードマップ作成	御園村	17年
新潟水害に関する避難及び情報に関する実態調査		地域防災計画	江津市	17年
NPO環境防災総合政策研究機構	16年			
集中豪雨に伴う住宅等被害状況調査 世田谷区	17年			
街頭設置消火器実態調査 東久留米市	12年			
東海地震についての県民意識調査 静岡県	3・5・7・9・11・13・17年			
民間事業所の地震防災応急対策調査 静岡県	3・5・7年			
自主防災リーダーマニュアル作成 静岡県	8年			
静岡県職員アンケート 静岡県	8年			
地域防災アンケート 静岡県	10・14・15年			
防犯カメラの設置及び利用に関する実態調査 静岡県	15年			
防犯まちづくりアンケート調査 静岡県	15年			
東海地震県民意識・企業防災実態調査 静岡県	17年			
家具の耐震技術アンケート調査 静岡県工業技術センター	8年			
静岡県中部を震源とする地震についてのアンケート				
(財)静岡総合研究機構	13年			
津波浸水予想図印刷 二見町	17年			
災害情報の提示方法に関する調査 大阪大学デザインセンター	17年			
家屋等の耐震化に関する住宅調査 (財)人と防災未来センター	14年			
東海・東南海・南海地震防災対策推進地域市町村における				
津波対策調査 (財)人と防災未来センター	16年			
風水害時における自治体の災害対応に関する調査				
(財)人と防災未来センター	16年			

第2回 三宅島帰島住民アンケート調査

平成18年5月

株式会社 サーベイリサーチセンター

(本 社)	〒116-8581	東京都荒川区西日暮里 2-40-10
	TEL	03-3802-6711(代)
	FAX	03-3802-6730
(社会情報部)	TEL	03-3802-6716
	FAX	03-3802-6738

本書の記載内容の無断転載を禁ず。

なお、記載内容の照会あるいは詳細資料については、
社会情報部 中島宛(E-mail : naka_r@surece.co.jp)にお申し出ください。



株式会社 **サーベイリサーチセンター**
SURVEY RESEARCH CENTER CO., LTD.

本社
東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号 〒116-8581
TEL : (03)3802-6711 (大代表) / FAX : (03)3802-6730

東北事務所
仙台市青葉区二日町11番11号 〒980-0802
TEL : (022) 225-3871 (代) / FAX : (022) 225-3866

静岡事務所
静岡市葵区呉服町1丁目6番11号 〒420-0031
TEL : (054) 251-3661 (代) / FAX : (054) 252-6544

名古屋事務所
名古屋市中村区名駅3丁目8番7号 〒450-0002
TEL : (052) 561-1251 (代) / FAX : (052) 561-1254

大阪事務所
大阪市北区天満橋1丁目8番30号 〒530-6011
TEL : (06) 4801-9231 (代) / FAX : (06) 4801-9233

岡山事務所
岡山市大供2丁目1番1号 〒700-0913
TEL : (086) 226-8031 (代) / FAX : (086) 226-8030

広島事務所
広島市中区熨町13番14号 〒730-0016
TEL : (082) 227-7511 (代) / FAX : (082) 227-7558

四国事務所
高松市塩屋町8番1号 〒760-0047
TEL : (087) 811-2671 (代) / FAX : (087) 821-0933

九州事務所
福岡市博多区博多駅前4丁目4番21号 〒812-0011
TEL : (092) 411-8811 (代) / FAX : (092) 411-8851

ホームページ <http://www.surece.co.jp/>